



陸密 參謀總長、教育總監へ照會

首題ノ件陸軍軍需審議會會長覆申ニ基キ別冊ノ
通改訂並假制式制定致度ニ付意見承知シ度

追テ為參考第十七回陸軍軍需審議會議事

錄添付ス

別冊

一 陸軍技術本部兵器研究方針改定ノ件

一 九五式野砲假制式制定ノ件

一 九四式六輪自動貨車假制式制定ノ件

陸密第四九七號昭和十二年五月廿八日

右異存ナキ旨回答アリタル後左案決行相成度

陸密

陸軍技術本部兵器研究方針改訂ノ件

陸軍技術本部長へ 達



陸軍

陸軍技術本部兵器研究方針ヲ左記ノ通改訂ス
追テ左記ハ貴部ニ於テ調製ノ上関係箇所ニ配
賦スヘシ

左記

一陸軍技術本部兵器研究方針

一同

別冊

陸密第五一九號 昭和十二年六月七日



軍審部第一七號

陸軍軍需審議會ニ於テ審議ノ件覆申

昭和十二年五月二十日

陸軍軍需審議會長 梅津美治郎

陸軍大臣 杉山元殿

左記ノ件別冊ノ通審議決定セシニ付覆申ス

左記

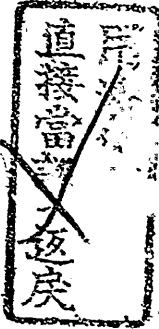
一 九四式六輪自動車假制式制定ノ件

二 九五式野砲假制式制定ノ件

三 陸軍技術本部兵器研究方針改訂ノ件

0202

31



委員

整備局整備課

議題第一

九四式六輪自動貨車假制式制定ノ件

昭和十二年四月
陸軍技術本部

シ得ル見込ミ立キタルヲ以テ逐次改良ヲ加ヘツツ次ノ如ク各種ノ試験ヲ行ヘリ

回次	試験ノ種類	時期
第二次	北滿雨季炎熱試験	昭和八年七月
第三次	御殿場附近ニテ修正試験	同 八年十一月
第四次	北滿冬季試験	同 九年一月
第五次	長野附近ニテ寒地試験	同 九年一月
第六次	台湾熱地試験	同 九年六月
第七次	北滿雨季炎熱試験	同 九年七月

以上ノ試験ニ於テ漸次修正ヲ加ヘ以テ陸軍自動車學校ニ於ケル研究ヲ修了セリ

2. 右ノ研究結果ニ基キ昭和九年十一月陸普第六九二ニ號ニテ當部ニ審査ヲ命セラレタリ當時本車ハ性能概ホ良好ナリシモ其製作ハ前記ニ會社ニテ行ハシメタルヲ

以テ両社ハ各箇ノ図面ニテ製作シ之カタメ部品ハ互換性ニ乏シク且部隊ニテ実用セル結果ハ各部ニ薄弱部ヲ有シ機能モ亦不満足ノ点アリタルヲ以テ斯ノ如キ部位ニ對シテハ其都度修正ヲ実施シ技術本部各種試験ニ伴行シテ其機能ヲ審査シ実用ニ堪ユルモノト確認セシヲ以テ更ニ各社製部品ニ完全ナル互換性ヲ與フルタメ細密ナル製作原因ヲ調製シ且車輛性能ノ向上ニ伴ヒ携行スヘキ属品ハ豫備品ニモ改正ヲ加ヘ茲ニ審査ヲ終了セシモノトス

九四式六輪自動車概説

第一 總説

一、用途

本車ハ一般貨物、人員ノ輸送用トシテ構造堅牢、性能良好ナルヲ以テ機械化諸部隊迄特種地形ニ行動スル兵站自動車隊等ニ使用スルコトヲ得ルモノトス

二、一般性能

路上ニ於テハ一般自動車トシテ時速六〇ノ料ヲ發揮シ得ヘク路外ニ於テモ相當ノ運動性ヲ有スルノミナラス必要ニ應シテ後方四輪ニ履帯ヲ裝シ半裝軌式トナス事ヲ得此場合ニハ一延半ノ荷重ヲ積載シ三分ノ一ノ坂路ヲ攀登シ得

三、主要諸元

附表ノ如シ

第二 構造機能ノ概要

一、發動機

九三式六輪乗用車ト全ク同一ノモノニシテ直立六気筒水冷式揮發油發動機、最大出力六八馬力ヲ有シ商工省標準型發動機ヲ一部軍用ニ適スル如ク修正セシモノトス

二、聯動機

軍乾板式トス

三、変速機

前進四段後退一段ニシテ軍用的見地ヨリ変速比ヲ撰擇シ
アリ必要ニ應シ動力ヲ外部ニ取出シ得ルノミナラス之ニ
輪帶空気唧筒ヲ附屬ス

四、終減速装置

永轉螺式ニシテ其中央ニ差動機ヲ收容ス

五、制動機

手動及足動ノ二種ヲ有シ手動用ハ收縮式ニシテ推進軸上ニ作用シ足動用ハ擴張式ニシテ後方ノ四輪ニ作用ス

六、車輪

三四吋×六吋空氣入ゴム輪帶ヲ使用ス

七、運轉台

幌型ニシテ操縱手共三名著座シ得ル大サヲ有ス

八、荷櫃

床面ハ空車ニテ地上高約一米ニワニシテ床面積約四・六平方米ヲ有シ之ニ三方開キノ扉ヲ附ス

本扉ハ開閉著脱共ニ可能ニシテ之ニ幌骨ヲ挿入シ綿布製幌ヲ冠装ス

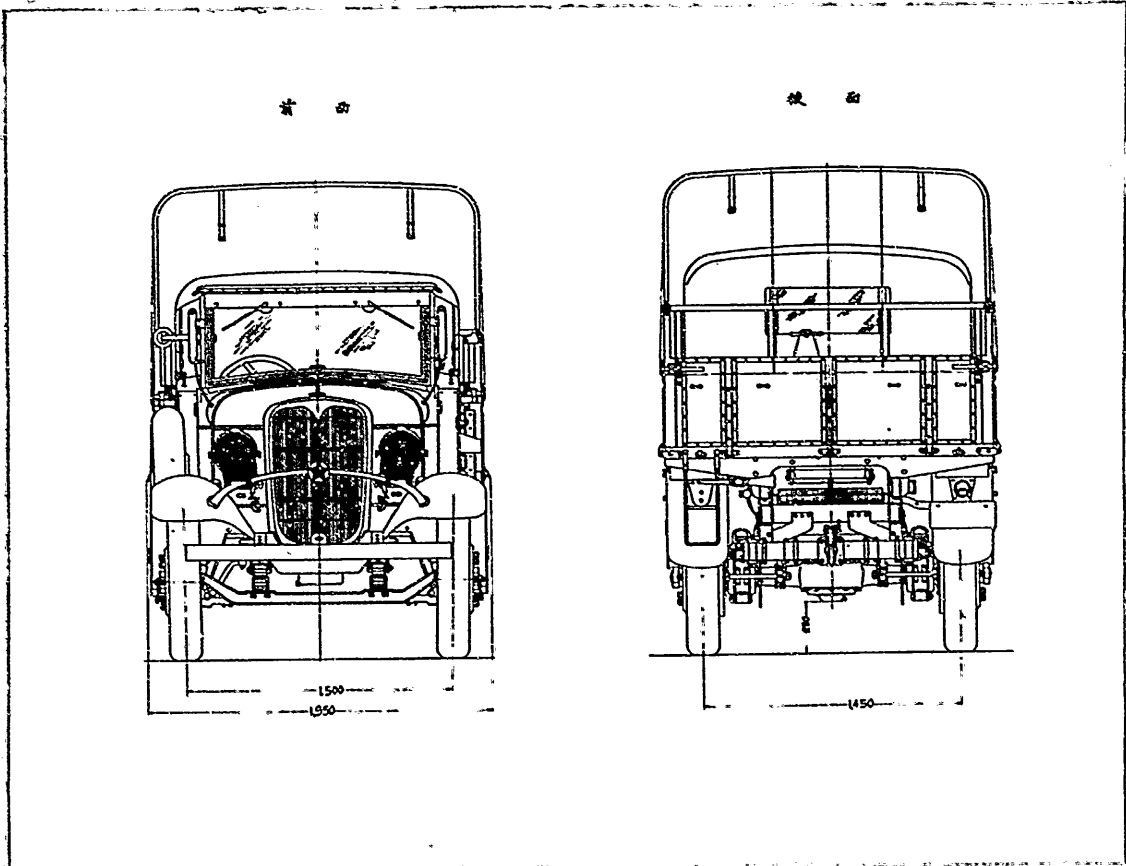
附表

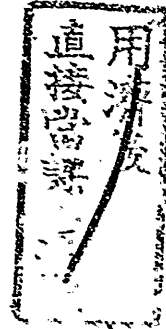
九四式六輪自動貨車主要諸元表	
區分	諸元
自重	約三噸五〇〇
全長	約五米四〇〇
全幅	約一米九〇〇
全高	約二米七〇〇
最低地上高	約二八〇
軸間距離	三米三五〇(前軸—中央軸)
軸間距離	前一米五〇〇 後一米四五〇
發動機標準回轉數	一五〇〇/分
同 出力	四三馬力
同 最大回轉數	二八〇〇/分

0210

最大速度	六〇新 / 時
変速機	前進四段 後退一段
攀登傾斜	三分ノ一
徒渉水深	四〇〇耗
最小回轉半径	六米並〇〇
塲行燃料	一〇〇立(約一〇時間分)

0211





委員

整備局整備課

昭和十二年四月
陸軍技術本部調製

議題第二
九五式野砲假制式制定ノ件

九五式野砲審査経過ノ概要

一、審査ノ起因

昭和八年十月七日陸軍軍需審議會ハ左記研究方針及理由ニ基キ新野砲研究ニ關シ建議シ同年十一月二十九日陸密第六〇八號ニ依リ同建議ニ基キ審査覆申ノ件達セララル

研究方針

- 一、目 的……………師團砲兵ノ主火砲トス
- 二、放列砲車ノ重量……………約一〇〇キトス
- 三、最大射程……………一〇、〇〇〇米以上トス
- 四、彈 薬……………三八式野砲用彈丸ヲモ倭用シ得ルヲ要ス

理 由

暫定的火砲トシテ制定セル改造野砲ハ最近幾多ノ缺陷ヲ暴露シ時局ノ急迫ト相俟テ之カ更新ヲ要求スルコト

愈々切ナルモノアリ
最近情勢ノ変化ハ師團野砲トシテ射程ヲ多少犧牲トス
ルモ尙規制改造野砲ニ劣ラサル運動性ヲ有スル火砲ノ
研究ヲモ要望セシムルニ至レリ

二、経過ノ概要

研究方針ノ決定ト共ニ直ニ設計ニ着手シ昭和九年八月試
製砲二門竣工シタルヲ以テ試験ヲ實施セリ其ノ結果復坐
節制機能ニ於テ不十分ナル点アルヲ認め修正ヲ加ヘ同年
九月修正機能抗堪並彈道性試験ヲ行ヘリ之ニヨリ各部ノ
機能概ネ良好抗堪力亦十分ニシテ彈道性並重量ハ改造三
八式野砲ト略同等ナルモ射撃間ノ安定性ニ於テ稍不十分
ノ点アリ然レ共當時ノ狀勢尻遅ヲ要シタルヲ以テ之等ニ
關スル修正ハ一時見合セ野戰砲兵學校ノ實用試験ト續テ
行ハルヘキ北滿冬期試験ニ供試スルコトトセリ

昭和九年十一月乃至十二月ニ亘リ陸軍野戦砲兵學校ニ實用試験ヲ委託シ若干ノ修正ヲ施サハ實用ニ適ストノ判決ヲ得タリ

昭和十年一月北滿冬期試験ニ供試シ各部ノ機能概ネ良好ニシテ抗堪力十分ナルモ射撃間ニ於ケル安定ニ關シテハ十分ナラストノ判決ヲ得タリ

以上諸試験ノ結果ヲ綜合シ安定性ノ向上ニ對シテハ後坐長及脚長ヲ増大シ重量軽減ニ關シテハ各部ヲ削肉スル等ノ修正ヲ施セルモノヲ新ニ試製シ昭和十年五月竣工シ竣工機能抗堪及彈蓋性試験ヲ實施ス其ノ結果概ネ所期ノ目的ヲ達シタルヲ以テ同年六月ヨリ八月ニ亘リ陸軍野戦砲兵學校ニ部隊編成ニヨル實用試験ヲ委託シ若干ノ諸件ヲ改修セハ概ネ實用ニ適ストノ判決ヲ得タリ又同年七月ヨリ八月ニ亘リ約五〇〇〇發發射ノ耐久試験ヲ實施シ機能

抗堪力共二十分ニシテ其ノ命數ハ約一六〇〇〇發ナリト
ノ判決ヲ得タリ

昭和十一年一月北滿冬期試験ニ杖試シタルニ車軸ノ抗堪
力不十分ニシテ駐退復坐機ノ機能不十分ナルヲ以テ共ニ
改修ヲ要ストノ判決ヲ得タリ右ノ結果ニ基キ修正ヲ加ヘ
タルモノ四月ヲ昭和十一年十二月ヨリ昭和十二年一月ニ
亘リ北滿冬期試験ニ杖試シ硯架各部ノ抗堪性及射擊ノ機
能良好ニシテ巨砲寒具ヲ善用セル場合ニ於ケル操用ニモ
概ネ支障ナク野砲トシテ極寒地ノ實用ニ堪ユルモノト認
ムトノ判決ヲ得タリ

本砲ニ對スル審査ノ経過ハ以上ノ如クニシテ本野砲ハ概
制式ニ制定セラレ適當ナルモノト認ム

九五式野砲概説

第一 主要諸元

口徑	七五
砲身長	三一〇
彈量(九〇式火銃彈)	六・三四
裝藥量(一號帶狀藥)	〇・六〇
初速	五二〇
最大射程	一、〇七〇
最大腔壓	二、五〇
高低射界	正四三度、負八度
方向射界	左右各二五度
放列砲車重量	一、一一四

二十九度以上八土地ノ掘開ヲ要ス 此ノ場合ノ射距離ハ火銃彈ニテ九九〇米、榴彈ニテ八、四〇〇米トス

接續尾車重量……………

一九三九

第二 構造ノ概要

本尾ハ尾及前車ヨリ成ル

尾ハ巷輪開脚式ニシテ尾身、閉鎖機、搖架體、駐退機、復坐機、搖架
匡、小架、照準機、照準具、大架、脚、車輪、制轉機、防盾ノ主要部ヨリ成
ル

一、尾身及閉鎖機

尾身ハ單肉、自繁尾身ニシテ後端外周ニハ相ダラ刻シ尾
ヲ結合ス腔或ハ傾角七度ノ等齊右旋楔狀ニシテ其ノ數二
八ナリ搖架体トノ結合ハ尾尾下面ノ斷隔螺及前後二箇所
ニ装着セル接續板ニ依ル
閉鎖機ハ水平鎖栓式ニシテ内部ニ擊發及安全機構ヲ藏シ
槓桿ノ旋回ニヨリ開閉スルモノトス
二、搖架體、駐退機及復坐機

搖架体ハ内部ニ独立セル駐退機及復坐機ヲ收容シ後坐合
 成体ノ重量ヲ大ナラシムル為各活塞桿ヲ搖架匡ニ固着シ
 搖架體ハ其身ト共ニ搖架匡準板上ヲ後復坐ス
 駐退機ハ活塞ト其ノ中心ヲ貫通スル節制桿トノ關係ニヨ
 リ後坐漏孔ヲ形成スル水壓式ニシテ後坐長一米二〇〇ヲ
 基準トスル定後坐式ナリ
 復坐機ハ隔板ヲ有セサル空気式ニシテ復坐液ト壓縮空気
 トハ搖架體前方上部ニアル空気室ニ於テ直接ニ接觸シア
 リ標準空気壓ハ四〇気壓ナリ
 復坐ノ節制ハ駐退機ノ活塞桿内腔ト節制桿頭部ニ裝セル
 節制弁トニヨリテ行フモノトス
 駐退液ハ「グリセリン」ニト水一トノ混合液ニ〇・四名ノ苛
 性曹達ヲ溶解シテ「アルカリ」性トシタルモノヲ使用シ復坐
 液ハ「蓄分」間「スピンドル」油ヲ使用スル

三、搖架匡及搖架聯結構

搖架匡ハU字形匡ニシテ中央兩側ノ搖架耳ヲ以テ小架ニ
 裝載シ後部下面ニ固着セル高低齒弧ヲ高低照準機ノ齒輪
 ト啮合シテ小架ニ關シ俯仰ス

匡内ニハ搖架林ヲ收容シ兩側上面ハ之カ滑走ノ準路ヲ形
 成ス

搖架聯結構ハ搖架耳ノ前後ニ於テ俯仰體ノ運動ヲ防止ス
 ル如ク裝置セラレ運行間ニ於ケル俯仰體ノ動搖ヲ防止ス

四、小架

左右兩側板ヲ接續架及觸接架ニテ結合シタルモノニシテ
 大架ノ方向樞軸ヲ中心トシテ旋回シ得ル如ク脚頭架上ニ
 裝載セラレ側板上端ニハ搖架耳室ヲ設ケ搖架匡以上ヲ裝
 載ス

五、平衡機

六、照準機

小架左右側板前方ノ托架ト搖架耳ニ駐定セル力臂間ニ装置セラレばねノ張力ニ依リ俯仰運動ノ平衡ヲ嘗マシム

高低照準機ハ齒弧式ニシテ轉把ノ回轉ハ一組ノ圓台齒車永轉螺及永轉齒車ヲ經テ齒車軸ヲ回轉シ從テ之ニ啮合セル齒弧ヲ繰リテ搖架ヲ俯仰ス

方向照準機モ齒弧式ニシテ轉把ノ回轉ハ二箇ノ齒車ヲ經テ永轉螺ヲ回轉シ齒弧ニ關シ方向ヲ移動セシムルモノトス

七、照準具

鼓胴式ニシテ托架ヲ介シテ左方搖架耳ニ結合セラル眼鏡ハ「パノラマ」式野磁眼鏡ナリ

八、大 架

車軸及脚頭架ヨリ成リ車軸ハ曲軸ヲ成シ中央ニ於テ樞軸

ヲ以テ脚頭架ト結合セラル車軸後面ニハ左右ニ櫻瓜ヲ設
 ケ脚頭架ヲ相當弧狀部ト嵌合ス又中央前面ニハ車軸匡ヲ
 嵌着シ之ニ垂直ナル方向樞軸ヲ着シテ小架ト連結ス脚頭
 架上面ハ弧狀板ヲナシ小架ヲ着載シテ方向移動ニ供シ左
 右兩端ニハ脚頭ヲ結合ス

九脚

U字形断面ノ板ニ枚ヲ匡形ニ組合セテ銲接セルモノニシ
 テ脚頭ハ樞軸ヲ以テ脚頭架ニ連結シ脚尾ニハ駐劔匡ヲ嵌
 着ス脚頭ニハ開脚位置駐定装置ヲ有シ脚尾ハ結合架及駐
 環ヲ以テ閉脚姿勢ヲ確保シ得シム

十車輪及制轉機

車輪ハ中徑一米三〇〇輻數一五輪帶^幅七〇巻ニシテ鼓内方
 ニハ制轉機用鼓胴ヲ固定ス制轉機ハ鼓胴式ニシテ轉輪ノ

同轉ニヨリ接觸板ヲ鼓胴(内面)ニ壓著スルモノトス

十一、防 撞

上方防撞ハ厚サ四米ニシテ支桿及支板ニヨリテ小架ニ連
結セラレ前方左右ニハ軸坐ヲ設ケ砵手ノ乗車ニ供ス
下方防撞ハ厚サ二米九ニシテ運行ニ際シテハ之ヲ翻轉駐
定シ得シム

十二、前 車

前端ニ轆桿後端ニ架尾ヲ連結スヘキ鋼紐ヲ備ヘ車体上面
ニハ砵手三名ノ坐席ヲ設ケ其ノ背後ニ背囊ヲ積載スヘキ
餘積ヲ有ス
車体内部ハ三列四段ニ區分シ四發入彈藥匣九及中箱小箱
各一ヲ收容ス
車輪ハ鼓胴ヲ有セサル外砵車ノモノニ同シ

第三、精 度

改造三八式野砲ト同等ナリ

第四 諸 元

附表ノ如ク

第五 其ノ他

寫眞四第一乃至第三ヲ添付ス

0227

秘

本部
參密第 四 號 第 二

陸軍技術本部研究方針改訂並九五式野砲外
一點假制式制定ノ件回答

昭和十二年五月卅一日

參謀總長 兼 仁 親

陸軍大臣 杉 山 元 殿

昭和十二年五月二十八日陸密第四九七號ヲ以テ照會ニ係ル首題ノ件
異存無シ



日本標準規格 E-5

0228



密第七七七号

敬密第一八九號

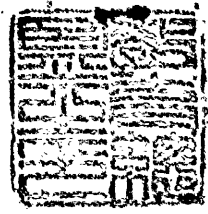
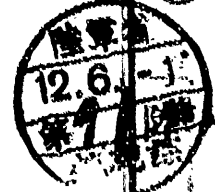
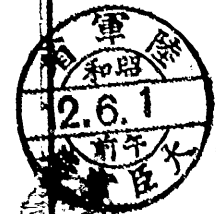
陸軍技術本部兵器研究方針改訂竝九五式野砲
外一點假制式制定ノ件回答

昭和十二年五月卅一日

教育總監伯爵寺内壽

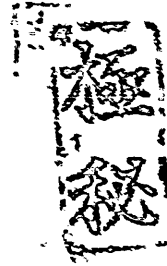
陸軍大臣 杉山 元駿

五月二十八日附陸密第四九七號照會ニ依ル首題ノ件具存無之



次
答

0229



第十七回 國海軍部 臨時 會議 録

昭和十二年四月三日
海軍部 臨時 會議 録

第十七回陸軍軍需審議會議事録

一、日 時

昭和十二年五月三日午前八時三十分開會

同 年五月三日午前十一時三十分閉會

二、場 所

陸軍技術本部

三、議 題

第一、九四式六輪自動貨車假制式制定ノ件

第二、九五式野砲假制式制定ノ件

第三、陸軍技術本部兵器研究方針改訂ノ件

四、出席者左ノ如シ

委員長

陸軍 次官 藤津 美治郎

陸軍航空本部 總務部長 牧野 正迪

陸軍航空技術研究所 伊藤 周次郎

陸軍技術本部 總務部長 岡部 直三郎

同 第一部長 小須 田勝造

同 第二部長 内田 莊一

同 第三部長 大塚 信照

陸軍科學研究所 第一部長 尾藤 加勢士

同 第二部長代理 藤村 龍治郎

陸軍造兵廠 總務部長 平田 健吉

同 作業部長 大島 勝

同 技術部長 木村 弘人

勸	大工	野	步兵	騎兵	砲兵	工兵	輜重兵	陸軍自動車	習志野	參謀本部	同	同	同	勸育總監部
長	部長	代選	校長	監部員	監部員	部員	監部員	校長	校長代理	第三課長	第四課長	第八課長代理	第九課長	第一課長
河	野	星	馬	伴	加	板	士	今	今	武	井	奧	大	本
内	野	野	場		藤	花	橋	新	新	藤	藤	田	津	多
禮	和	元	正	健	怡	義	一	勝	勝			千	和	助
五	元	元	元	三	三	一	次	次	次	章	但	里	郎	材

五、陸軍ノ経過左ノ如シ

陸軍省軍務局長	田中新一
同 戦備課長	長谷川基
同 銃砲課長	菅晴次
同 機材課長	青木成一
陸軍省軍務局長	後宮淳
同 兵隊局長	木村兵太郎
騎兵監	飯田貞固
砲兵監	山室宗武
工兵監代理	加藤一勝
輜重兵監	今村基成
陸軍省整備課長	内山英太郎
幹事	同 整備課員 村上公亮

参列者

陸軍軍需委員會委員會議事録

昭和十二年五月三日

於 陸軍技術本部

會

長

それでは之から開會致します。本日は一九四式六輪自動貨車及九五式野砲假制式制定の件」並に「陸軍技術本部兵器研究方針改定の件」に就て御審議を願ひたいと思存するのであります。先づ屋外に於て九四式六輪自動貨車及九五式野砲の實物に就て當事者から説明を致させますから之を御覧の後に本講場で御審議をお願ひしたいと思います。

(屋外にて實物に就き説明聴取)

會

長

唯今から會議を再開致します。議決に關係のない委

0234

員には議題を配布して御座いませぬから豫め御諒承を願つて頂きま
す。それでは議題第一から逐次説明、質疑、意見、決議の順序に議
事を進めたいと思ひます。細部に就きましては幹事長其の他をして
説明致させます。

幹事長 申し上げます。本委員会に本日上提致しました議題三

件に就きましては去る四月二十三日當所に於きまして幹事會を開催
致しまして慎重審議の結果議題第一、九四式六輪自動車假制式制
定の件は出席全幹事一致致しまして假制式に制定して適當なるもの
を認めためたもので御座います。技術本部に於きまして特に御説明の事
項がありますれば引續いてお願ひしたいと思ひます。終り。

大塚少將 ありませぬ。

會長 議題第一に就て御質疑がありましたら願ひます。

板花 大佐

質問致します。此の車は實際滿洲で實用に使つて見ますと、從來は相當改裝する所があるが私等は思つて居りましたが、それが最近審査經過の概要の一番終ひにある修正をなされた。その主なる點を簡單にお話して戴きたいと思ふのであります。

説明者

申し上げます。實用上の意見は逐次採り入れて直した

のであります。が、本年度から整備せられると致しましたならば斯う云ふ風に直したいと云ふ點を取纏めまして此の新しい制式を定めて戴きます時にそれを加味したいと思つてゐる點が色々御座いますので、その點を要點だけ申し上げます。發動機に就きまして、發動機の出力は少しでも増加を致しまして、燃料消費量の方は其の割に減すやうにしたいと云ふので、揮發油を從來は下から上に吸込んで居りましたのを上から下に吸込むやうにしたいと云ふ風に變へる心算で

あります。それからカム軸の軸筒を新設しまして、瓦斯の吸入方式を多少變更致しまして熱効率のよくなるやうにしたい。さう云ふ考へであります。其の他細部に就きましては非常に數が澤山あるのであります。尙送水ポンプの締附の部分から水が漏り居い。又あそこが締りつき易いと云ふやうな點が御座いましたので、あの部分に出ます球軸承を二箇に致しまして、さう云ふ缺點を修正するやうにして居ります。冷却の装置に就きましては、冷却能率をもう少し好くする爲に冷却パイプの製造方式を變へるやうにして居ります。變速機に就きましては變速齒輪室の強度を増大するやうに断面に多少の變更を加へて居ります。常時廻轉齒車といふのが御座いますが、その軸受けが時々故障を起したものでありますからローラーで出来るやうに改正をして居ります。推進軸徑を若干増大致しまして高速

廻轉の場合に振れが起らないやうに修正をして居ります。さう云ふ點が主なるもので御座いますが尙其の細部は一覽表に附へて居りますから之を御覽を願ひたいと思ひます。

板花 太佐

判りました。もう一つ荷匡の積載容積の件でありま

すが、近頃色々のものが澤山積載が殖へましたので、もつと荷匡の積載面積を大きくして良好なる道路はもつとあの車で能率を上げるやうにしたらどうかと云ふことを向ふでよく言つて居りましたが、さうすると今の此の車は積載を搭載して行動した場合に床板が随分傷むのであります。今のお話では機關其の他は段々好くなつて居るのであります。積載する方面から云つてもう少し澤山のものをおやうに床板の強度を増すことが必要だと思つて居りますが、さう云ふ面積を広げるやうなことはありませんか。

説 明 者

それに就て申上げます。床板の面積を廣く致しますのは此の制式になりましたものの修正型と云ふやうな方法で、さう云ふものを採用して戴いたらどうかと考へて居りますので、實は牽引自動貨車。高射砲を牽引するに使つて居ります牽引自動貨車が大型之と同様でありまして、唯今御説のやうな點を修正した車になつて居ります。その牽引自動貨車の場合には砲手を載せる爲に構造を變へる必要が御座いました。大體車軸距離は三十糎延びて居ります。それに應じます爲に變速機を大きく致しました。尙補助網絡機を附けまして高射砲を引張るばかりでなく第一線部隊の特殊の目的に使ひます貨車として能率を十分發揮出来るやうな構造に致して居りますので、最近自動車の床面積を増大した保護自動車と大體荷匡の面積が一致するやうな構造になつて居ります。それで本日議題に上つ

て居ります九四式六輪自動車と致しましては荷匡の小さい型が上
申をして御座いますが牽引自動車といふ構式に致しまして其の荷
匡の面積の大きいものにして迎いたら宜しいと云ふ考へであります。

會長 外に御質疑はありませぬか、……………御質疑がなけれ

ば御意見をどうぞ……………別に御意見がなければ議題第一を決議し
たいと思ひます……………御異存がないやうでありますから議題第一
は之で決議を終ることに致します。次は議題第二。

幹事長 申上げます。議題第二、九五式野砲機製式制定の件
に關きまして幹事會に於きまして慎重審議の結果出席全幹事一
體制式に制定して適當なるものと認められたもので御座います。技術本
部に於きまして特に御説明の事項があればお願ひ致します。

小須田少將 技術本部に於きましては幹事の諸官から委員の諸官

に御報告になつてゐると云ふことでありまして特に申し上げることには
ありません。

會 長 尚御質疑がありましたならば御質疑をお願いします。

……別に御質疑がなければ御意見を伺ひたいと思ひます。……
御意見がないやうでありますから議題第二を決議したいと思ひます。
御異存はありませんか。

(發言者 終)

御異存がないやうでありますから議題第二は之で議決されたものと
思ひます。

それちや引續いて議題第三を御審議をお願いします

幹 事 長 議題第三、陸軍技術本部兵器研究方針改正の件、少

し総足で御座いますが幹事會に掛ります迄の經濟の概要を御報告申

上げます。最近兵器の發達の趨勢は著しいものが御座いました。特に軍備充實に伴ふ編制の改練、裝備の向上に伴ひまして兵器は單に其の數量を増したのみで御座いませず其の種類も著しく増加をしたので御座います。今此等兵器の要度に就きまして大なる考慮を拂ふことなく研究方針に漏れ致します時は技術本部の兵器研究の重點を脱却するの虞れなしとしないのでありまして軍需審議會令、第一條の趣旨の徹底に努めるやうに關係各課の主務者が細密りまして慎重研究の結果一案を得まして之を幹事會に附議したのであります。從ひまして御手許に差上げてあります所の研究方針の中には重要なる兵器で御座います。また技術本部に於ける研究が此の研究方針に拂配する程度に到つて居らないもの、或は要度の比較的劣つてゐるものは當然別途に研究するべきものとして此の方針の中に拂配し

て御座いません。従ひまして此の研究方針に掲記せられてある所の兵器の制式制定に當りましては重要なるもののみで御座いますから當然軍需審議會に上提せらるるものと思ひます。次に幹事會の経過を申し上げます。幹事會に於きましては本件を慎重審議いたしました結果若干の意見が御座いました。その主なるものは習志野學校の幹事より毒煙筒、防毒履及化學兵器を此の研究方針に掲記するの必要を主張せられました。又參謀本部第三課幹事より照明器材中二〇〇種参照號は未だ本案に掲記するの必要を認めないといふ意見が御座いました。關係幹事慎重審議の結果各々一致致しまして本成案を得た次第で御座います。本件に關しましては以上の経過を以ちまして出席幹事一同本件を承認致しまして委員會に上提するのを適當と認められたもので御座います。尙幹事會に於きまして本冊項目中兵器の名稱を統一し、或は字句の修正といふやうなことを主務者にお委せをお願いしたのも御座います。それで出

来上つたものが議題第三で御座います。終り。

幹

事

訂正事項を申し上げます。目次の第四、火薬爆薬の下に化学兵器を加へます。本文の三十八頁の化学兵器を第五の十九頁の新爆薬の次に持つて行きます。終り。

會

長

御質疑がありますか、……………議題細部の説明、質疑、意見等は概ね次の順序に逐次區分して進行するやうに致したいと思ひます。

幹

事

長 區分の概要を申し上げます。目次を御開けになつて戴

きます。其一、方針を假に仰と致します。第一、銃器、第二、火砲、此の二つを合せまして一括して御研究を願ひます。之を(一)と致します。一々名稱はやめまして第三より第六、之を一括致しまして(二)と致します。第七、第八、之を一括して(三)と致します。第九、第十、

之を(四)と致します。第十一乃至第十四、之を(五)と致します。第十五乃至第十九、之を(六)と致します。第二十乃至第二十五、終り迄、之を(七)と致します。以下其の區分に依りまして御審察になる筈であります。終り。

會 長 それぢや先づ(四)の方針に就て、細部の説明。

幹 事 長 以下發行本部の關係の方に於きまして特に御説明をなさる必要な事項が御應いましたならば御説明を願ひます。

岡部 少 將 方針に就ては此處に書いてある通りで別に申上げることはありません。

會 長 (四)に就て御質疑があれば御質疑を願ひます。……………別に御意見がなければ御質疑がなければ御意見を伺ひます。……………

(四)に進みます。(四)に就て何か更に細部の説明。

小須田 少 將 (四)の自動小銃でありますが、之には照準の機式は何

も奪いて御座いませぬ。之は普通の方式でありまして、眼鏡は附けないと云ふ計畫であります。其の他御座いませぬ。

會 長 御質疑はありませぬか、……………御質疑がなければ御

意見……………御意見がなければ別に進むことに致します。

小須田少將 別に就きましては別に御座いませぬ。

會 長 御質疑はありませぬか。

長谷川大佐 彈丸の填薬方法等に就て、之は従来の手作業のものを機械生産の作業に適する如くやれば宜いと云ふ趣旨でありませうが然らば戦時動員等の關係に就て特に御考慮になつてあることがありませうか。

岡部少將 現在之に就ては各方面集つて研索中であります。大分繰返は進んで居ります。それは彈薬の製作上に就て成るべく多量

生産が出来るといふこと、それから補給上に於て成るべく手續きを簡便にし、特に動員時に際して軍隊が自らやること云ふやうなことを省き、迅速に補給が出来るのみならず火工の解りに依つて危険を生じないこと云ふ見地から如何に平時から彈藥を整備して置くかと云ふ問題並に之に關聯して製造、貯藏、補給、新う云ふ方面の組織を如何にすべきや、斯う云ふことに就て目下審議中であります。何れ成案が出来ましたならば當局に意見を出したいと考へて居ります。

長谷川大佐

さうするに之は動員時に當りましたと考へて居ります。

に於て爲される所の壞藥が危険であり速度が延ばない、即ち現動員計畫に於ける七日なり十日なりの間に整備すること云ふことは困難でありませうが之に従事する工務兵及特種職の職工は矢張り現在の者を基礎として御考へになつて居るのでありませうか。或は新に之に適

する編制を御考へになつて居りますか。

岡部少將

さうであります。之に従事する人員を如何に教育、補充するかと云ふやうなことに返互つて研究して居ります。

長谷川大佐

本研究の結果に依れば野戦補給廠所屬の彈藥あたりはどれ位の日時迄に詰め得るといふ目途でありますか、例へば野戦補給廠所屬の彈藥は開戦時所要のものでありますか、それが命令受領後七日なり十日なりで完成彈にするか云ふことになつて居りますか、それが本研究の結果より五日に詰めるとか三日に詰めるとか云ふやうな具體的の目途は如何ですか。

岡部少將

今考へて居りますのは將來今考へてゐる組織、總ての施設が出来上つたならば動員時直ちに完成した彈丸を軍隊に渡す。それから戦時、戦間、作戦間の補給、之は製造能力と関連致しま

すけれども、日にもは四日とか五日とか云ふやうなことは考へず成るべく最少限に日にもを詰めて、さうして軍隊の需要に應ずるやうにしたい。斯う云ふ風にやつて居りますので、具體的にそれが何日になるか云ふやうな所までは研究が進んで居りませぬ。大體目下の所はまだ之は結論ではないのでありますが、現在平時は彈丸に填藥してありませぬ。それを填藥をして貯藏する。成るべく裝藥、藥莖、之等のものを一揃ひにして或る所に貯藏して置く。従て動員時に於ては藥莖の中に裝藥を束ねて置いたものを直ちに入れてくつつければよいといふ程度にして置く。但し特種部隊の爲には平時から藥莖まで完全なる彈藥筒にして置くといふことも考へて居ります。此の組織に於ては今の所造兵廠に於て總て填藥もしてそれを兵器廠關係に渡して、兵器廠に於て之を貯藏し、兵器廠は造兵廠から賣つた所

の一纏めの彈丸。裝薬、薬莖、信管、之等を一括して貯蔵して、いざといふ時には自らの手で之を完成して軍隊に渡す、このことに依つて非常に正確に行けば危険がなくなり、又仕事が迅速に参りますのみならず砲兵射撃の見地から所謂口の問題が解決されますので、需要部隊は一揃ひの口を貰ふので射撃威力が大になる。それから戦地に於ける野戦補給廠。之等は全く信管を附けると云ふやうな問題は別個として、其の他の仕事はまあやらんでも宜しい。戦時は彈薬の前送補給、斯う云ふ所に専念すればよい。さういふ風を組織にしたいと今考へて居ります。

長谷川大佐 判りました。

會 長 他に御質疑はありませぬか。

尾藤少將 代用地金、薬莖の御研究であります。私共最も愛

へて戻りますのは鉛の代用であります。小銃の弾丸に使ふ鉛は日本内地は固より滿洲に於きましても殆んど國內には鉛は生産致しません。何か小銃及野砲の榴霰彈の鉛に就て代用の研究をして戴きたい氣が致します。

長谷川大佐

もう一つ伺ひたい。火薬、爆薬であります。之は

新爆薬といふやうなものはどんなものを目標にされて戻りますか。

内田少將

唯今研究を火工廠で受持つて戻りますが現在の黄色

薬は火砲用黄色薬であります。堅強したものであります。其の製造過程に困難があり威力も他のものより弱いといふ點があります。此の製造方式を變へて威力を大ならしむるといふことが一つであります。併し此の資源は依然として黄色薬の資源であります。所で黄色薬の資源を他の資源に變へやうといふ研究が戻りまして、

之に對して過酸藥といふ爆藥が研究せられました。相當の威力を持つて居りますので大體黄色藥に代るべきものと見て居りますが。尙若干取扱ひの上に於て違ふ點がありますので其の點に就ての研究を進めて貰つて居ります。尙此の外一酸化炭素の成るべく少ないものと云ふことに就て研究を進めて貰つて居ります。先程申しました前段の方、黄色藥の研究並に過酸藥の研究は大體八九分進り進めて貰つて居ります。

長谷川大佐

之は大體どんな原料でありますか。

内田少將

原料と云つても要するに黄色藥の原料は石炭酸であります。

長谷川大佐

新爆藥の原料はどんなものを目標として居られますか。

内田少將　それは石炭酸では御座いませぬ。過鹽素酸、アンモ
ニウムといふもので御座いまして、石炭酸では御座いませぬ。資源
としてはあるのであります。

河内少將　鐵山藥に使つて居ります。要するに資源は新爆藥の
方はペンゾール系以外であります。今差當り出來かけて居りますのは安
瓦藥であります。今お話のありました過鹽素酸も使つて居ります。

ペンゾールは資源がございませぬのでペンゾール以外の資源から取る。
長谷川大佐　安瓦藥の原料は硝酸アムモニアであります。之が
工業化して行くのには相當の困難がございませう。

河内少將　硝酸アムモニアといふやうなものは基礎資源として
は無限にあるのであります。工業的に出來るかといふと十分でない
點がござります。併し資源としては無限に今有る譯であります。

長谷川大佐　新制彈藥はいつ頃を目途にして完成せらるる豫定で

ありますか。

内田少將

大體威力等に就ては試験を終つて居ります。取扱ひ

は多少残つて居りますが、本年度内には完成すると思ひます。過剰薬は………

長谷川大佐

一級爆薬の方は如何ですか。

内田少將

過剰薬は本年度に終ります。其の外の火薬用は別に

説明があります。

小須田少將

第一部の關係としては砲彈用の爆薬は變つたものは

ありませぬ。従來のものを使つて、新しいものが出て來ればそれを併合して研究するといふだけで別に新しいものはありませぬ。火工廠で何か新しいものがありますか。

河内少將

今持つ案は一つだけ決つて居りますが、混合の比

をもう少し變へてやりたいと思つて居ります。

長谷川大佐

意見になるか知りませぬが、およそ完成の目途がつ

きまして、斯う云ふ資源を培養することが必要であります例へばベ
ンゾール系のもが出来ても、それに合ふ如き資源はあるにしまし
ても、それが工業化されて吾々の手に入つて來なければ役に立たな
いと思ひます。さういふ政策方面の實現が非常に影響します故に、
出來たならば先づ技術上の問題を早く解決して戴きまして、戦用と
して十分の自信があるといふ結論が出ましたならば直ちに實現が出
來るといふやうな政策に導いて行かなければならぬと思ひます。さ
う云ふおよその目途をどうお考へになつてゐるかといふことを伺ひ
たいのであります。安瓦藥にしましても所謂研安を轉じて硝酸系を
混ぜた所の新肥料政策に持つて行かなければ安瓦藥は澤山得られな

いんちやないかと思ひます。

河内 少將　　今の安瓦薬の原料は硝安であります。それは實際は澤山はないのであります。之を工業的の製作といふ意味から行きますと硝安の中に硝酸を混ぜるといふやうな政策が採れたらよいと思ひます。平時若干二パーセント、三パーセントの硝安を混ぜて使はせるといふやうにして行けば硝安の需要が出る譯であります。今の所硝安の需要がない。硝安は今百五十萬應、二百萬應あるのでありますから、戦時になれば硝安を安瓦薬に使ふといふ爲には平時から使はせるやうにして置いたら宜いのではないかと思ひます。

岡部 少將　　代用品に關する問題が出ましたが、之に就ては目下技術本部内に於て規格低下の問題、其他代用品の問題、各々委員會を作つて研究して居ります。従て薬莖材料、鉛の材料、或は新し

い爆薬の材料といふやうなことに就ては現在我國の持つてゐる資源の見地から委員會を促進して成るべく早く成案を得たいと目下努力中でありませう。

會長　　長　　今の所の所に就て更に御質問なり御意見なりがありますか。

長谷川大佐　　私は火薬爆薬ばかりでなく、又彈藥、彈丸といふやうなもののみ意見では御座いませぬが、之を綜合して見まするに茲にならべてありまする一から二十五迄の項目の中でも各々緩急があるだらうと思はれるのであります。それで特に現制の制式を改訂して、如何に技術的には立派なものが出来て居りましても補給の上に於て困難があること云ふやうな問題に就きましてはどうか研究完成の期日をうんと繰上げて戴きたい。そして大丈夫之で以て勝たうといふ

一つの結論を得て戴きましたならば、其の次の工業資源なり産業なりの政策に持つて行くには又一二年掛るのでありまして、最後に技術の上からも補給の上からも大丈夫といふには相當の長い期間をかけるなければならぬと思ひます。それで特に重要であつて急ぐといふものをお拾ひになりました。本年一ぱいにやつてしまふといふ風は力瘤を重點に向ひ入れて戴くことは非常に私等として希望致したいと思ひます。その一例として火薬原料の問題等を例示して特に私共の痛感して次第を述べた譯であります。

會 長 他に御意見がありますか。外に御意見がなければ(一) 即ち第七の戦車及自動車、第八の軽重車輛、乗鞍馬具並に職工具。之に就て御質疑はありませぬか。……………別に御質疑がなければ御意見を伺ふことにします。

馬場 大佐

意見を申し上げます。此の戦車の關係で、今迄の各種の小さい戦車は對戦車能力が足りない、それで之を増大するといふ見地に基いて新輕装甲車とか或は牽引に困つてゐるやつを牽引とか自走にするといふやうなことが茲に御座いますが、單に對戦車能力を附けるといふのでなしに對戦車主要兵器を造るといふやうな見地から考へて新たなるものを造るか、若は此の内容を變へて行く必要はないかと思ひます。それは現在の對戦車兵器としては三十七耗砲があります。運動性がない。戦場に於ける非常な彈丸雨飛の中に於ける運動性がないといふことが缺點だらうと思ひます。戦車の使用が各國共に敵の意表外に出るといふことに使はれるといふやうなことにあります。戦車といふものは豫期した所には出ない。豫期しない所に出た場合には直ちに對戦車の主力を持つて行つて新たに其處

に配備するなり或は現在居る所の對戦車部隊に増加するといふことが必要だと思ひます。之には對戦車隊なるものが移動性を持つてゐなければならぬ。又牽引して居つては使用上困る。相手の戦車が自由自在に動いて來るといふことになれば此方も自由自在に移動しながら射つて行くことが必要と思ひますが、それが爲には新輕装甲車の改造といふことだけでは物足らぬ氣がします。それで新輕装甲車といふものは此の儘で行きまして此の外一層陸外運動性を増大し、對戦車火器を持つたものを以て獨立輕装甲車隊を編成して使ふといふやうに研究の重點を變へて行くことが必要ぢやないかと思ひます。

大塚 少將　其の點に就ては一枚開らかれますと小口徑砲搭載車といふのが。……………

馬場 大佐

之も適當と思ひますが、唯之を拜見しただけではそ

れまで行つて居らないんぢやないかと思ひますので、さう申上げたのであります。小口径砲搭載車なるものが今申上げたやうな具合になれば結構と思ひます。さうするに之と新輕装甲車と合して多數生産するやうになれば結構と思ひます。

大塚 少將 之は運動間射撃も出來又戦車に對しては網えず車外に出で射撃も出來るやうになつて居りますから唯今の御趣旨に合して居るものぢやないかと思つて居ります。

馬場 大佐 唯小口径砲搭載車の戦闘能力といふことがはつきりしませんけれども、大體前方に行く場合は之で射てると思ひます。但し敵の戦車が動くといふ場合には車體全部を向けなければ其の方には射てないといふのでは戦闘上不便と思ひます。其の邊のことを考慮せられまして大體に於て旋廻砲といふやうな具合の程度若は之

に越する程度に自由自在に動かせれば結構であります。それでなければさういふやうにすることが必要と思ひます。

小須田少將

自走式戦車支援砲といふものがありますが……

馬場 大佐

自走式戦車支援砲はごういふ風に使ふか先刻質問し

ませんでしたけれども、私は多分之は戦車の後方若は側方から行つて敵の對戦車火器を潰す、或は發煙筒で目潰しをするといふ風な比較的口径の大きいものぢやないかと思つてさつき申上げたやうな意見を出したのであります。

大塚 少將

自走式戦車支援砲は戦車隊と行動を共にするといふ

能力を持たす心算であります。今の御趣旨はさうなれば宜いのぢやないかと思ひます。

馬場 大佐

唯自走式戦車支援砲といふものは三十七耗の口径の砲で

は具合が悪いんぢやないかと思ひます。もう少し大きいものを持つて行かなければ戦車の操縦といふやうな事には不適當ぢやないかと思ひます。

幹 事 長

昨今の馬場委員からの御意見、新輕装甲車。之に對

戰車火器を積むべきや否や。要は對戰車火器として自走式。斯う云ふものが欲しいといふ御意見であらうと考へます。關係の方々から御意見も出しましたが。幹事會に於ける研究の結果としましては、小口徑砲塔戰車。之を對戰車火器の移動性を持つたものの一つである。斯う云ふ風に解釋をしまして。之で概ね事足りるのではないか。それで大體宜からう。斯う云ふ風になつてゐる次第であります。

馬場 大佐

まあ之で事足りるかも知れませぬが、研究の結果を待たなければなりませぬが。之と新輕装甲車とずつと併行的に進め

て行つて、これ一種でよいといふことになれば一種にして、兵器の種類を少くして、多量を送つて、それを整備して戦闘して行くといふ願にしたらどうかと思ひます。騎兵と費しましては小口径の落撃車といふものは二十耗のものを造られることを希望します。又三七耗といふものは現二聯で轉いて乗りますけれどもまだ物足りない所がないでもない。それで牽引されるといふことは望む所でありますけれども新裝装甲車なるものに依つて之が代へ得るといふならばそれが経済的に整備し得るんぢやないかと思ひます。

大塚 少將　此の新裝装甲車は速度も要求されて歸るししますので、之に對戦車輛を襲せるとすれば車をもつと大きくしなければ出來ない状況にあります。さういふ關係で此の三七耗は對戦車輛としては續つてないのであります。唯今の御趣旨に關ふ車を別に造る

といふならば出来ませんが、之でやるといふことは一寸困難な状況に
あります。

馬場 大佐　それで軍としては車を別に送つて、さうして對戦車
の最も適當なるものにして、それを獨立裝甲車隊なり戦車隊に使
つて行く。斯う云ふ風にしたら宜いのぢやないかと思ひます。現在
の兵器といふものを改造して行くといふと、どうしてさういふや
うな目的に出来てないんですから何は改造しても思ふやうに行か
ないんぢやないか、それで時代がどんどん變つて行くんですから新た
なるものを造つたらそれで適當のものを造つて行く。斯う云ふ風に
したらどうかと思ひます。

大塚 少將　結局意見の相異で御座いまして小口砲落戦車では
箇に合はない。或は之をやめても其方にした方がよいといふことに

なれば出来ぬことはないのであります。御審議を願ひます。

馬場 大佐 騎兵のみの見地から申します。將來の編制に關係しますけれども小口径砲搭載車が出来れば無論之も使つて宜しう御座います。が之の外に自走式の對戰車輛といふものを騎兵旅團に十二位持つてそれを主要なる方面に使用して行く新う云ふ風にする必要がありはせぬかと思ひます。

武蔵 大佐 お尋ねしますが新輕裝甲車の三十七耗砲といふものは對戰車輛ではないのでありますか。

大塚 少將 對戰車輛とは違ひます。併し無輪戰車でも何でもありませんが、威力は相當あります。對戰車輛とは違ひます。對戰車輛は浸透能力の強い、非常に備身の長いものになつて居ります。併し新う云ふ長いものを戰車の中に裝備することは困難であります。

武藤 大佐 さうすると其の三十七耗といふものは別にあるので
ありますか。

大塚 少將 戦車砲といふのがあります。

武藤 大佐 あゝさうですか。

馬場 大佐 此の新軽装甲車を偵察に使ふといふ方面から考へ、

従來の経験から見ますと、現在迄偵察の爲に、偵察を強行しなければならぬといふ見地から装甲車が欲しいと欲しいと言つてゐたのであります。その偵察は輕装甲車ででも重装甲車で同じであります。それは主に小銃彈に對しても偵察を強行するといふ意味でやつて居つたのであります。之から段々對戦車砲といふものが發達して参りました。小銃彈に對するよりも敵の對戦車砲。對装甲車砲が出て來るといふことになります。之を打潰すといふ威力を十分に發揮

するものを持たぬと思ひ切つて十分に近接して偵察をやることが出
 來ないのぢやないかと思ひます。それが從來とは變つて來るんぢや
 ないかと思ひます。それで是非三十七耗級のものが要る。又之を持
 つて屏れば突撃するんぢやありませんから突撃する爲の装甲板とい
 ふものは要らないんぢやないか、或程度の装甲を持つて屏れば宜い
 のだから戦車より威力もあつて、経済的のものが出來るんぢやない
 かと思ひます。

大塚 少將 輕装甲車は十分と思ひます。何でも打ち壊すといふ
 意味には行きませんけれども、今の偵察に用はれる場合、相當に裝
 甲したものでも新戦車でも突撃し得るといふ心算であります。戦車
 體は相當威力がありますが三十七耗程度の浸透力を持つてないとい
 ふことであります。戦車に對しては、或は其の時はまあ速度が非

常に伸びて居りますから機動に依つて其の任務を遂行される事が出来るんじゃないかと、斯う思ひますが。……………

本多大佐 一寸質問します。輕装甲車或は牽引車といふものがさういふ風になつて來ると、從來歩兵學校で主眼された彈藥補充の車といふものの影が薄くなつて來ると思ひますが、歩兵學校では……………

星野大佐 歩兵學校としましては從來輕装甲車の主任務は彈藥補充といふことになつて居りました。幹事會で更にそれに就て質問しました結果は、別途に彈藥補充の爲には觀測挺進車……………三〇頁の裏にあります。……………斯う云ふ種類のものを以て充てるやうに研究してゐるといふことでありますので、それで……………

本多大佐 併し此處の欄にはさういふことは一つも載つてない。

これを以て代用するといふやうなことは……

星野 大佐

それが正式に決つて居らないものならば何かの機会にそれを正式に擧げて戴きたいと思つて居ります。

大塚 少將

技術本部の部案として装甲運搬車といふものを今の譯案の外別途に研究するやうになつて居ります。

本多 大佐

さうなつて居りますか、彈藥補充の見地から行きまして非常に必要なものと思ひます。

星野 大佐

今のお話から行きますと輕装甲車といふものが彈藥補充といふことから離れて搜索或は連絡といふやうな所に主體が行つて進みつつあるやうでありますから、戦場の彈藥補充といふやうな見地からして是非又さういふ新しいものを考案して戴かなければならないと思ひます。

本多 大佐

私もさう思ひます。實際運用をやつてゐるのを見て居りますと騎兵に附けたり前衛に附けたり、偵察をやり又陣地攻撃の際には鐵條網の破壊から細部の偵察に使ふ。僅か十七騎しかないやつを更に陣地攻撃の際には彈藥補充に使はうといふやうに二重三重に使つてゐる。だから殆んど偵察の爲に潰れてしまつて彈藥補充の時には一臺もないといふのが實際の景況と思ひます。彈藥補充の目的の爲に造られてゐるものがさういふ具合に使はれて居りまして彈藥補充の爲には一臺もない。

馬場 大佐

さういふことになりますと彈藥補充に造つたやつを偵察などに用ひると云ふことは辻褄取らずになると思ひます。併しそれは現在の戦闘の爲に必要なからさういふ風になるのでありますから彈藥補充に造つたものはそれに止めて置いて、新たなる要求に

最も合する既い戦車を造るといふことが必要になつて來やしないかと思ひます。

大塚 少將

更に造らうとする装甲運搬車といふものは彈藥補充の目的には今迄のものよりもより適當なものが造られると思ひます。それならば御意見と一致してゐると思ひます。

幹 事 長

申上げます。新輕装甲車としては根本的に研究を要する時期になつて居りますので研究會が開かれる時期があらうと思ひます。細部はそれ等の時期にお譲りを願つて、大體それが決まる迄は此の形式を以て進んで戴いたらどうかと思ひます。次は彈藥の運搬の爲に別途の裝甲した車輛の必要といふことに就ては關係委員から御答辯が御座いましたが此の研究方針には記載して御座いませぬが別途に研究を進められ其の結果に依つて或は此の研究方針に拠

記されるか或は掲記されずに翻式になるか何れにしても改めて御協
議をお願ひする時期があらうかと考へて居ります。

會

長

他に御意見がなければ次に進みます。次は(例)の部、

即ち第九の近接戦闘器材、第十の化學戦闘器材の兩項に就て……。
御質疑はありませぬか。

内田 少將

近接戦闘器材の三番目に破壊筒挿入器といふのがあ
ります。書いてあるだけではお判りにくいと思ひますが、斯う云ふ
もので御座います。ロケツトを使つて網を鐵條網の向ふまで投げて
やつて、其の網に依つて破壊筒を繰出し鐵條網の中に繰入れる。さ
うして爆破する。斯う云ふものでありまして略々之も 完成に近附
いて居ります。一言御説明申上げて置きます。

會

長

御質疑もないやうであります。御意見はありませ

ぬか、…………御意見も別にないやうでありますから次の(ハ)の項目、
即ち第十一の坑道器材、第十二の爆破器材、第十三の渡河器材、第
十四の特殊交通器材、之に就て細部の御説明がおりますれば御説明
を願ひます。

内田 少将 此の中の特種交通器材に就て一言申上げます。従来
の器材の區分には斯う云ふ名前はなかつたのでありますが、色々森
林とか森林地とか断崖といふやうな問題が起りましたので特に斯う云
ふ項目を掲げて置ふやうにしたのであります。さういふ特種の地點
の交通の器材といふことであります。

會 長 之に就て御質疑なり御意見なりはありませぬか。

伴 大佐 昨今の特殊交通器材の露地種であります。股懸せる十

五種榴霰砲以下の車輛及馬匹の通過に堪ふるものとす。之はそれ以

下の艦砲でも脱駕するといふ意味で御座いますか。

内田 少將 十五種榴霰砲だけであります。

伴 大佐 その外は……。

内田 少將 その外は脱駕致しませぬ。

伴 大佐 一寸此處がはつきり致しませんです。

幹 專 長 實は之は文章がくどくなりますから大體斯う書いて

置けば判るだらうといふので斯う書いたのであります。之は十五種榴霰砲だけでありまして其の外は脱駕致しませぬ。今お答への通りであります。

會 長 別段御意見はありませぬか、……御意見がなければ

ば山の部分。即ち第十五の通信器材、第十六、鐵道器材、第十七、機力器材、第十八、氣球器材、第十九、土工器材、之を一括して物

審議を願ひます。何か細部の細説明はありませぬか。

内田 少將 此の中で通信器材で五十六頁に植柱車、延線車といふものが御座いますが、之は有線電信を迅速に敷設する爲作費を軽減化する目的で研究を始められたものでありまして、先づ植柱車が今まで通電を使つてごちごち打込んだものを機械的に穴を造つて柱を打てる。その後方に延線車が進んで行つて線を延べるといふものであります。之ももう出来上つて戻りまして、現在電信隊に委託試験を願つて戻りますが、此の機械には尙此の外にも之に伴ふ色々な器械が必要であります。主要なものは此の二つであります。その外に申上げることはありません。

會 長 御質疑はありませぬか。……………御質疑もないやうでありますから御意見はありませぬか。

内田少將

もう一つ附加して置きます。多重電送機、多重電信機の要項の中に二重通信と書いてあります。之は最初は三重通信の目的で研究しましたが、運用の方面から二重で宜しいといふことでありましたので二重に改めたのであります。

會 長

御意見がなければ更に次に進みたいと思ひます。最後の例の部、照明器材以下第二十五の欄機に至る間に就て、細部の説明があれば願ひます。

大塚少將

第二の寫眞器材の中で望遠寫眞といふのがあります。之は焦點距離五米以上數十センチといふのがありますが、之は距離五十センチ以上の距離に互るものを撮影する。例へば國境の望遠寫眞といふものが出来るやうにしたいと思ひます。又自動車の上から場合に依つては卸下しても寫眞が撮れるといふ考へでやつて居ります。終り。

會 長 今の所に於て御質疑はありませぬか。……………御質疑

もないやうでありますから御意見はありませぬか。

伴 大佐 質疑と意見を一寸兼ねますが、此の最後の項で海岸に於ける對潜水艦用の兵器で御座います。之は何か御研究のものがあるのでありますか、積極的のやつで御座いますか。

大塚少將 それは水中艦艇といふのがありまして、潜水艦の位置方向を測定するのを研究して居ります。

伴 大佐 それでは御座いませんで、それを射つ方でありませぬか。所謂艦艇といふやうな方面で御座います。

小須田少將 前からの研究を御承知と思ひますが、水中の潜水艦は火薬で以て射つことは不可能である。斯う云ふ風に私共考へて居ります。従て潜水艦を水上に浮び上らないやうに射つといふことは

可能であります。潜水艦を射つといふことは如何と思つて居ります。従て海軍でやつてゐるやうな極く近距離の爆雷式といふやうなものの研究して居ります。

大佐 私の申しますのも爆雷式のものであります。

會長 他に御質疑なり御意見はありませぬか。……………

此の項に就ての御質疑が別になければ更に改めて研究方針改正案を一括して御意見を伺ひます。先刻長谷川委員から全般に關する御意見もありましたが、更に全般に就て御意見を……………

後宮少將 私は此の兵器資料と云ふものが各々一つの目的に適するやうに研究されて行くといふことは其の目的を達する見地から致しますれば至極結構と存じますけれども、最後に兵器を使用するものは兵であるといふことに思ひを致した時には成程不承不承の

點があつても我儘して載かなければならぬといふ風に考へて勝りま
す。今此の研究方針を拜見致しまして、一二の例證を引きますと
例へば八頁の大隊砲、聯隊砲といふやうなものを一寸拜見致しまし
ても、又二十六頁の中戦車、指揮戦車といふやうなものを拜見致し
まして、お互ひに彼此融通が出来るといふ點が多分にあるんぢや
ないかと思ひます。其の外四十七耗對戦車砲、五十七耗戦車砲を見
ましてさういふ感じが特に致します。現在國軍の將校の資質から
申しまして國軍將校の動員補充が多種多様であり、その能力は必
ずしも立派なものが居るといふことは云へないやうな現況にありま
す。兵器は永久性のものではありませんから、斯の如きものを多く願
ふする必要はないといふ反對論も出るかと思ひますけれども、國軍の
將校の補充がさう早く行かない現況にある。斯う云ふ點に十分に思

ひを致されました、此の兵器の研究方針が使用する方面、教へる幹
 部の方面にも十分思ひを致して戴きたいといふ希望を持つて居りま
 す。又一方金の方面から考へて見ました所で、それは各方面の兵器
 を纏て完全にするといふことは好いことに違ひありませんけれども
 國費に限りがありますからどうしても吾々は重點主義で進まなけれ
 ばならぬ、今日航空方面に飛躍的發展を致してゐる時に無用の方面
 は節約して其の方面に全力を注いで行くといふことも吾々の大いに
 考へなければならぬ所であらうと存じます。御参考迄に申し上げます。

岡部 少將 それに就て今申されました御意見は全然當部に於て
 も同感であります。唯問題は使用される方面から、運用の立場から
 色々の御註文があります。それを如何に治めて行くかといふこと、
 それが一つの問題でありまして、それさへ片附けば當部の研究は全

陸軍省防務局防務課第二課長 岡部 少將

然左様な方針で行きます。従て之は全面的に今の御趣意で、使用される方面も、運用される方面も御考へになつてさうして書部に任務を與へて戴いたら宜いと思ひます。

後宮少將 さうすると事前にさういふことを研究する際には行
まませぬか。

岡部少將 今後はさういふやうにしたいと思つて居ります。

長谷川大佐 之は全般を通じまして色々大事な研究要目が網羅されてゐると我共は感ずるのでありますが、およそ大切な事は之等を完成する目途であります。取は何年頃を期して之等の完成に進まれますか、或は年月といふ尺度でなくても何かの終り所のある一つの劃期的の研究終了の目途といふものを御持ちになつてゐるのでありますやうか。その邊は如何でありますやうか。

幹・専 長

お答へ致します。唯今後宮閣下、長谷川大佐の兩委員より御質疑。御意見がありました。一括して申し上げます。従来は技術本部に各方面から直接のお話等もあつたかと思ひますので、將來は作戰部は勿論其の外の各方面の御意圖を陸軍省に於て一括致しまして、さうして關係方面と協議を致しました後技術本部に要求すべきことは要求するやうに致したいと考へて居ります。次に兵器の種類が殖へましたことは各々が皆希望のものを十分に造るといふ事は大変結構なことでありますが、唯今後宮閣下の御意見にもありません。或は彼此融通して経済的に整備するといふことも必要であります。又他面に於て、此處に於て一例を取つて申し上げますれば野戰車兵器。或は對空兵器といふやうな兵器も如何なる組織、組合せにしたならば一番経済的に行くかといふことに

就ても關係當局に於て目下貴重種研究中のことと思ひます。その成案を得るに従て或は此處に掲記したものの一部が改竄されることもありうかと思ひますが、さういふ方針をとつてその整備に重點を向けるといふことに致したいと考へて居ります。次は整備の緩急であります。之も從來懸念されたことであります。唯之を具體的に研究方針に掲げるといふことは將來の爲に束縛される點が起つて來やしないかといふことの爲に大體次のやうに思つて居ります。大綱を決めて大體どういふ事項は何時頃迄に研究を完成するやうにしたら宜からうか。それを具體化する爲にホ一二年、或は何年度迄にはどの程度迄に進まなければならぬかといふことに對ては關係主務者が協議して一案を作製し、更に局部といふやうな所迄の御意見を承り、大綱が纏り年度が定まりましたならば之を技術本部に示し、

するといふことにはならぬか。従て本冊には年度の細かいことも、大綱も掲記して御座いませぬ。以上のやうな考へで進みたいといふ考へで御座います。終り。

會 長 他に御意見はありませぬか。

武蔵 大佐 大體今のお話で判つたやうであります。先程から御意見もありましたからその考へから申述べたいと思ひます。此の研究の順序を附けるといふ御意見が先程からあつたやうであります。現在實施せられつつあります軍備充實案に伴ひます兵器は成るべく早くやるべきものだ。その重點はさることであり、兵器の進歩があるのでありますから整備すべきや否やといふことは別途に新しいものを研究することも必要だ。斯う思ひます。だから研究と整備を分けて考へられて、單に整備するんだから研究する、然らざるも

のはやめるといふことになりまますと如何かぞ、斯う思ひます。それだけであります。

岡部 少將　それに就て一寸お答へ致します。今申されたことは全くその通りであります。當部に於ては茲に示された研究方針以外に於て常に創意工夫を凝す。これ以外に於ても人と時間の許す限り準備研究を怠つては居りませぬ。その外研究方針に載らない。然も準備研究を進めて物にすれば國軍の爲に宜しいといふ目度がついたならば之は早速當局に申出でて本式に研究に著手するやうにしたい。従て之に就つて居らないからと云つて其の他のものに就て研究を進めないといふ御心配は要りませぬ。

武藤 大佐　決してそれを心配してゐるのではありませぬ。先程からのお話でそれが不要化されやしないかといふことを心配したの

で……………。

岡部 少將　それは當然の任務であり之に依つて擧貯されやうとは思つて居りませぬ。

會　長　他に御意見はありませぬか……………御意見がなければ議題第三を一括して決議したいと思ひます……………御異存がないやうでありますから之で本議題。及他の議題全部第一、第二、第三議題共可決議したることと致しまして決議をしたいと思ひます。之で本日は閉會致します。御多用中遠方を懸々御苦勞を煩はしまして洵に恐縮であります。之で終ります。

幹　事　長　唯今御質疑、御意見等に基きまして研究方針に掲げました字句等で不明瞭なもの或は冗長な點も一二御座いました。之等のものは趣旨を變更しないで修文するやう主任者に御委せをお願い

☆
ひしたいと思ひますが、御異存がありましたならば書ふて戴きます。

(發言者無し)

御異存のないものと拜承致しまして字句等趣旨を變へないで一層明確ならしむるやう修文を御委せを願ひたいと思ひます。

(終り)



委員

整備局整備課

昭和十二年四月
陸軍技術本部

議題第一

九四式六輪自動車假制式制定ノ件

九四式六輪自動貨車^{審査}經過ノ概要

一、審査ノ起因

滿洲事変ニ於ケル六輪自動貨車使用ノ結果ニ鑑ミ更ニ重量ヲ輕減シ部品ノ補給ヲ容易ナラシムルタメ新標式六輪自動貨車ノ必要ヲ生シ昭和八年陸軍自動車學校ニ於テ之カ研究ニ着手ス

二、審査經過ノ概要

昭和八年三月自動車工業株式會社並東京瓦斯電気工業株式會社ヨリ軍用保護自動車トシテ資格審査ヲ出願セル「ちよだ」スミダ六輪自動貨車ノ長所ヲ採用シ且滿洲事変ニ於テ自動車ヲ使用セル各部隊ノ實驗意見ニ基キ軍用的要求ヲ加味シ昭和八年六月第一回ノ試作ヲ行ヒ試験ヲ実施セリ

本試験ノ結果ハ構造性能共ニ概ネ良好ニシテ軍用ニ供

シ得ル見込ミ立テタルヲ以テ逐次改良ヲ加ヘツツ次ノ如ク各種ノ試験ヲ行ヘリ

回次	試験ノ種類	時期
第二次	北滿雨季炎熱試験	昭和八年七月
第三次	御殿場附近ニテ修正試験	同 八年十一月
第四次	北滿冬季試験	同 九年一月
第五次	長野附近ニテ寒地試験	同 九年一月
第六次	台湾熱地試験	同 九年六月
第七次	北滿雨季炎熱試験	同 九年七月

以上ノ試験ニ於テ漸次修正ヲ加ヘ以テ陸軍自動車學校ニ於ケル研究ヲ修了セリ

2. 右ノ研究結果ニ基キ昭和九年十一月陸普第六九ニニ號ニテ當部ニ審査ヲ命セラレタリ當時本車ハ性能概ネ良好ナリシモ其製作ハ前記ニ會社ニテ行ハシメタルヲ

以テ両社ハ各箇ノ図面ニテ製作シ之カタメ部品ハ互換性ニ乏シク且部隊ニテ實用セル結果ハ各部ニ薄弱部ヲ有シ機能モ亦不満足ノ点アリタルヲ以テ斯ノ如キ部位ニ對シテハ其都度修正ヲ實施シ技術本部各種試験ニ伴行シテ其機能ヲ審査シ實用ニ堪ユルモノト確認セシヲ以テ更ニ各社製部品ニ完全ナル互換性ヲ與フルタメ細密ナル製作原因ヲ調製シ且車輛性能ノ向上ニ伴ヒ携行スヘキ属品、豫備品ニモ改正ヲ加ヘ茲ニ審査ヲ終了セシモノトス

九四式六輪自動車概説

第一 總説

一、用途

本車ハ一般貨物、人員ノ輸送用トシテ構造堅牢、性能良好ナルヲ以テ機械化諸部隊並特種地形ニ行動スル兵站自動車隊等ニ使用スルコトヲ得ルモノトス

二、一般性能

路上ニ於テハ一般自動車トシテ時速六〇ノ料ヲ發揮シ得ヘク路外ニ於テモ相當ノ運動性ヲ有スルノミナラス必要ニ應シテ後方四輪ニ履帶ヲ裝シ半裝軌式トナス事ヲ得此場合ニハ一延半ノ荷重ヲ積載シ三分ノ一ノ坂路ヲ攀登シ得

三、主要諸元

附表ノ如シ

第二 構造機能ノ概要

一、發動機

九三式六輪乗用車ト全ク同一ノモノニシテ直立六気筒水冷式揮發油發動機、最大出力六八馬力ヲ有シ商工省標準型發動機ヲ一部單用ニ適スル如ク修正セシモノトス

二、聯動機

單乾板式トス

三、變速機

前進四段後退一段ニシテ軍用的晁地ヨリ變速比ヲ撰擇シアリ必要ニ應シ動力ヲ外部ニ取出シ得ルノミナラス之ニ輪帶空氣唧筒ヲ附屬ス

四、終減速裝置

永轉螺式ニシテ其中央ニ差動機ヲ收容ス

五、制動機

手動及足動ノ二種ヲ有シ手動用ハ收縮式ニシテ推進軸上ニ作用シ足動用ハ擴張式ニシテ後方ノ四輪ニ作用ス

六、車輪

三四吋×六吋空氣入ゴム輪帶ヲ使用ス

七、運轉台

幌型ニシテ操縦手共三名著座シ得ル大サヲ有ス

八、荷 框

床面ハ空車ニテ地上高約一米ニ \square ニシテ床面積約四・六平方米ヲ有シ之ニ三方開キノ扉ヲ附ス

本扉ハ開閉著脱共ニ可能ニシテ之ニ幌骨ヲ挿入シ綿布製幌ヲ冠被ス

附表

九四式六輪自動貨車主要諸元表

區	分	諸	元
自重	約三噸五〇〇		
全長	約五米四〇〇		
全幅	約一米九〇〇		
全高	約二米七〇〇		
最低地上高	約二八〇	耗	
軸間距離	三米三五〇	(前軸—中央軸)	
轍間距離	前一米五〇〇		
	後一米四五〇		
發動機標準回轉數	一五〇〇	/分	
同 出力	四三馬力		
同 最大回轉數	二八〇〇	/分	

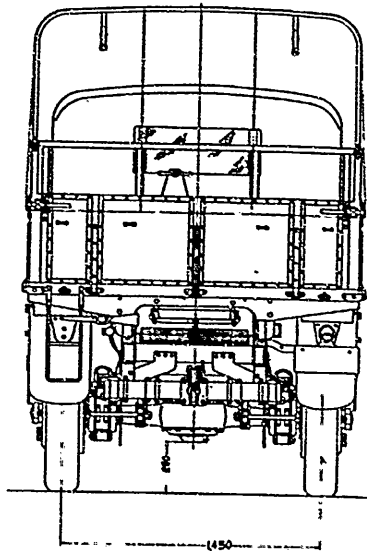
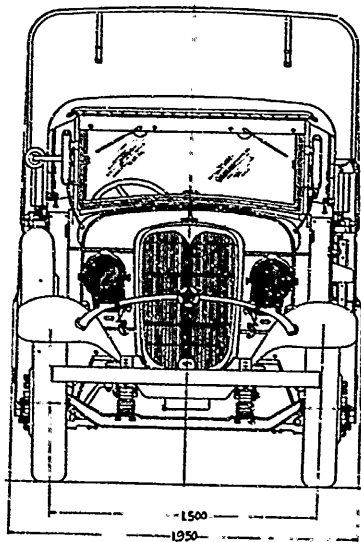
最大速度	六〇米 / 時
変速機	前進四段 後退一段
攀登傾斜	三分ノ一
徒渉水深	四〇〇米
最小回轉半径	六米五〇〇
携行燃料	一〇〇立(約一〇時間分)

9080

9080

前 面

後 面

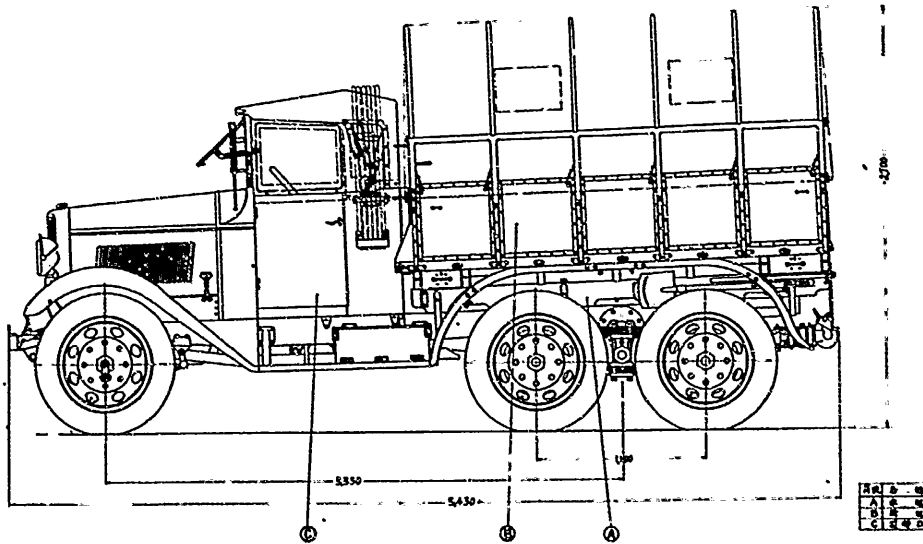


昭和十一年三月三十一日現在

6620

例 6

重量 3.5t (4200kg)
設計 昭和14年6月
5月22日



同

同

本

田

浦

吉

同

同

飛田塚等三市大字同司及同
台北市外(五份)

本
田

2529

秘

用濟後
直接富謀本速庚

委員

整備局整備課

昭和十二年四月
陸軍技術本部調製

議類第二

九五式野砲假制式制定ノ件

九五式野砲審査経過ノ概要

一、審査ノ起因

昭和八年十月七日陸軍軍需審査會ハ左記研究方針及理由ニ基キ新野砲研究ニ關シ建議シ同年十一月二十九日陸海第六〇八號ニ依リ同建議ニ基キ審査覆申ノ件達セラル

研究方針

- 一、目的……………師團砲兵ノ主火砲トス
- 二、放列砲車ノ重量……………約一、一〇〇磅トス
- 三、最大射程……………一〇、〇〇〇米以上トス
- 四、彈藥……………三八式野砲用彈丸ヲモ倣用シ得ルヲ要ス

理由

暫定砲火砲トシテ制定セル改造野砲ハ最近幾多ノ缺陷ヲ暴露シ時局ノ急迫ト相俟テ之カ更新ヲ要求スルコト

愈々切ナルモノアリ

最近情勢ノ変化ハ師團野砲トシテ射程ヲ多少犧牲トスルモ尚現制改造野砲ニ劣ラサル運動性ヲ有スル火砲ノ研究ヲモ要望セシムルニ至レリ

二 経過ノ概要

研究方針ノ決定ト共ニ直ニ設計ニ着手シ昭和九年八月試製砲二門竣工シタルヲ以テ試験ヲ實施セリ其ノ結果復坐節制機能ニ於テ不十分ナル点アルヲ認め修正ヲ加ヘ同年九月修正機能抗堪並彈道性試験ヲ行ヘリ之ニヨリ各部ノ機能概ネ良好抗堪力亦十分ニシテ彈道性並重量ハ改造三八式野砲ト略同等ナルモ射擊間ノ安定性ニ於テ稍不十分ノ点アリ然レ共當時ノ狀勢俟遲ヲ要シタルヲ以テ之等ニ關スル修正ハ一時見合セ野戰砲兵學校ノ實用試験ト續テ行ハルヘキ北滿冬期試験ニ供試スルコトトセリ

昭和九年十一月乃至十二月ニ亘リ陸軍野戦砲兵學校ニ實用試験ヲ委託シ若干ノ修正ヲ施サハ實用ニ適ストノ判決ヲ得タリ

昭和十年一月北滿冬期試験ニ供試シ各部ノ機能概ネ良好ニシテ抗堪力十分ナルモ射撃間ニ於ケル安定ニ關シテハ十分ナラストノ判決ヲ得タリ

以上諸試験ノ結果ヲ綜合シ安定性ノ向上ニ對シテハ後坐長反脚長ヲ増大シ重量軽減ニ關シテハ各部ヲ削肉スル等ノ修正ヲ施セルモノヲ新ニ試製シ昭和十年五月竣工シ竣工機能抗堪反彈道性試験ヲ實施ス其ノ結果概ネ所期ノ目的ヲ達シタルヲ以テ同年六月ヨリ八月ニ亘リ陸軍野戦砲兵學校ニ部隊編成ニヨル實用試験ヲ委託シ若干ノ諸件ヲ改修セハ概ネ實用ニ適ストノ判決ヲ得タリ又同年七月ヨリ八月ニ亘リ約五〇〇〇發發射ノ耐久試験ヲ實施シ機能

抗堪力共二十分ニシテ其ノ命數ハ約一六〇〇〇發ナリト
 ノ判決ヲ得タリ
 昭和十一年一月北滿冬期試験ニ杖試シタルニ車軸ノ抗堪
 力不十分ニシテ駐退復坐機シ機能不十分ナルヲ以テ共ニ
 改修ヲ要ストノ判決ヲ得タリ右ノ結果ニ基キ修正ヲ加ヘ
 タルモノ四門ヲ昭和十一年十二月ヨリ昭和十二年一月ニ
 亘リ北滿冬期試験ニ杖試シ砲架各部ノ抗堪性及射撃ノ機
 能良好ニシテ巨防寒具ヲ善用セル場合ニ於ケル操用ニモ
 概ネ支障ナク野砲トシテ極寒地ノ實用ニ堪ユルモノト認
 ムトノ判決ヲ得タリ
 本局ニ對スル審査ノ経過ハ以上ノ如クニシテ本野砲ハ假
 制式ニ制定セラレ適當ナルモノト認ム

九五式野砲概説

第一 主要諸元

口径	七五
砲身長	三一〇
彈量(九〇式大銃彈)	六三四
裝藥量(一號帶狀藥)	〇・六〇
初速	五二〇
最大射程	一、七〇〇
最大腔壓	二、五〇〇
高低射界	正四四度、負八度
方向射界	左右各二五度
放列砲車重量	一、一一四

二十九度以上ハ土地ノ掘開ヲ要ス此ノ場合ノ射距離ハ大銃彈ニテ九九〇米、榴彈ニテ八、四〇〇米トス

接續尾車重量……………一九三九瓦

第二 構造ノ概要

本尾ハ、尾及前車ヨリ成ル

尾ハ、差輪開脚式ニシテ、尾身、閉鎖機、搖架體、駐退機、復坐機、搖架
匡、小架、照準機、照準具、大架、脚車輪、制轉機、防盾ノ主要部ヨリ成
ル

一 尾身及閉鎖機

尾身ハ、單肉自緊尾身ニシテ、後端外周ニハ、ねぢヲ刻シ、尾
ヲ結合ス、腔蓋ハ、傾角七度ノ等脊右旋楔狀ニシテ、其ノ數ニ
ハ、ナリ、搖架體トノ結合ハ、尾下面ノ、斷隔螺及前後二箇所
ニ、装着セル、接續板ニ依ル

閉鎖機ハ、水平鎖栓式ニシテ、内部ニ、擊發及安全機構ヲ藏シ
、傾桿ノ、旋回ニヨリ、開閉スルモノトス

二 搖架體、駐退機及復坐機

搖架体ハ内部ニ独立セル駐退機及復坐機ヲ收容シ復坐合
成体ノ重量ヲ大ナラシムル為各活塞桿ヲ搖架匡ニ固着シ
搖架體ハ其身ト共ニ搖架匡準板上ヲ復坐ス
駐退機ハ活塞ト其ノ中心ヲ貫通スル節制桿トノ關係ニヨ
リ復坐漏孔ヲ形成スル水壓式ニシテ復坐長一米二〇〇ヲ
基準トスル定復坐式ナリ

復坐機ハ隔板ヲ有セサル空氣式ニシテ復坐液ト壓縮空氣
トハ搖架體前方上部ニアル空氣室ニ於テ直接ニ接觸シア
リ標準空氣壓ハ四〇気壓ナリ

復坐ノ節制ハ駐退機ノ活塞桿内腔ト節制桿頭部ニ裝セル
節制弁トニヨリテ行フモノトス

駐退液ハ「グリセリン」ニト水一トノ混合液ニ〇・四名ノ苛
性曹達ヲ溶解シテ「アルカリ」性トシタルモノヲ使用シ復坐
液ハ「蓄液」ノ間「スピンドル」油ヲ使用ス

三 搖架匡及搖架聯結機

搖架匡ハU字形匡ニシテ中央兩側ノ搖架耳ヲ以テ小架ニ
差載シ後部下面ニ固著セル高低齒孤ヲ高低照準機ノ齒輪
ト啗合シテ小架ニ關シ俯仰ス

匡内ニハ搖架林ヲ收容シ兩側上面ハ之カ滑走ノ準路ヲ形
成ス

四 小架

搖架聯結機ハ搖架耳ノ前後ニ於テ俯仰體ノ運動ヲ駐定ス
ル如ク差置セラレ運行間ニ於ケル俯仰體ノ動搖ヲ防止ス

左右兩側板ヲ接續架及觸接架ニテ結合シタルモノニシテ
大架ノ方向樞軸ヲ中心トシテ旋回シ得ル如ク脚頭架上ニ
差載セラレ側板上端ニハ搖架耳室ヲ設ケ搖架匡以上ヲ差
載ス

五 平衡機

三 搖架匡及搖架聯結機

小架左右側板前方ノ托架ト搖架耳ニ駐定セル力臂間ニ裝
置セラレばねノ張力ニ依リ俯仰運動ノ平衡ヲ嘗マシム

六、照準機

高低照準機ハ齒弧式ニシテ轉把ノ回轉ハ一組ノ圓台齒車
永轉螺及永轉齒車ヲ經テ齒車軸ヲ回轉シ從テ之ニ啮合セ
ル齒弧ヲ繰リテ搖架ヲ俯仰ス
方向照準機モ齒弧式ニシテ轉把ノ回轉ハ二箇ノ齒車ヲ經
テ永轉螺ヲ回轉シ齒弧ニ關シ方向ヲ移動セシムルモノト
ス

七、照準具

鼓胴式ニシテ托架ヲ介シテ左方搖架耳ニ結合セラル眼鏡
ハ、パノラマ式野砲眼鏡ナリ

八、大 系

車軸及脚頭系ヨリ成リ車軸ハ曲軸ヲ成シ中央ニ於テ樞軸

ヲ以テ脚頭架ト結合セラル車軸後面ニハ左右ニ櫻瓜^ワヲ設
ケ脚頭架ヲ相當弧狀部ト嵌合ス又中央前面ニハ車軸匡^ウヲ
嵌着シ之ニ垂直ナル方向樞軸ヲ着シテ小架ト連結ス脚頭
架上面ハ弧狀板ヲナシ小架ヲ着載シテ方向移動ニ供シ左
右兩端ニハ脚頭ヲ結合ス

九脚

U字形断面ノ板ニ枚ヲ匡形ニ組合セテ銲接セルモノニシ
テ脚頭ハ樞軸ヲ以テ脚頭架ニ連結シ脚尾ニハ駐劔匡^ウヲ鉤
著ス脚頭ニハ開脚位置駐定着置ヲ有シ脚尾ハ結合架^ウ及駐
環ヲ以テ閉脚姿勢ヲ確保シ得シム

駐劔ハ打込式ニシテ左右各一箇ヲ具フ

十車輪及制轉機

車輪ハ中徑一米三〇、輻數一五、輪帶^ウ七〇、花^ウニシテ數内方
ニハ制轉機用鼓胴ヲ固定ス制轉機ハ鼓胴式ニシテ轉輪ノ

同轉ニヨリ接觸板ヲ鼓胸^(内面)ニ壓着スルモノトス
十一 防 撞

上方防撞ハ厚サ四尺ニシテ支桿及支板ニヨリテ小架ニ連
結セラレ前方左右ニハ軸坐ヲ設ケ施手ノ乗車ニ供ス
下方防撞ハ厚サ二尺九ニシテ運行ニ際シテハ之ヲ翻轉駐
定シ得シム

十二 前 車

前端ニ曠桿後端ニ架尾ヲ連結スヘキ鋼鉤ヲ備ヘ車体上面
ニハ施手三名ノ坐席ヲ設ケ其ノ背後ニ背囊ヲ積載スヘキ
餘積ヲ有ス

車体内部ハ三列四段ニ區分シ四發入彈藥匣九及中箱小箱
各一ヲ收容ス

車輪ハ鼓胸ヲ有セサル外施車ノモノニ同シ

第三 構造

改造三八式野砲ト同等ナリ

第四 諸 元

附表ノ如ク

第五 其ノ他

写真図第一乃至第三ヲ添付ス

附表 九五式野砲諸元表

車	前		道		運		砲		砲			架		身		尾														
	收	容	彈	數	最	大	初	速	程	徑	高	方	射	後	復	復	駐	閉	腔	結	全	口								
	三	六			一	▽	七	▽	二	五	▽	五	二	▽	一	▽	一	三	▽	二	五	▽	七	五						
彈	間	距	離	(米)	一	五	▽	▽	車	輪	中	徑	(米)	二	五	▽	▽	標	準	腔	距	(米)	一	▽	七	▽				
車	輪	中	徑	(米)	二	五	▽	▽	初	速	(米)	五	二	▽	一	▽	七	▽	最大	射	程	(米)	一	▽	七	▽				
架	尾	長	(米)	九	三	▽	▽	全	備	接	續	車	輪	全	長	(米)	八	九	六	三	接	續	車	輪	全	長	(米)			
砲	架	尾	長	(米)	九	三	▽	▽	全	備	接	續	車	輪	全	長	(米)	八	九	六	三	接	續	車	輪	全	長	(米)		
全	備	接	續	車	輪	全	長	(米)	八	九	六	三	接	續	車	輪	全	長	(米)	八	九	六	三	接	續	車	輪	全	長	(米)
放	列	砲	車	全	長	(米)	四	二	二	八	接	續	車	輪	全	長	(米)	八	九	六	三	接	續	車	輪	全	長	(米)		
全	備	前	車	全	長	(米)	四	二	二	八	接	續	車	輪	全	長	(米)	八	九	六	三	接	續	車	輪	全	長	(米)		
全	備	砲	車	全	長	(米)	四	二	二	八	接	續	車	輪	全	長	(米)	八	九	六	三	接	續	車	輪	全	長	(米)		
全	備	砲	車	全	長	(米)	四	二	二	八	接	續	車	輪	全	長	(米)	八	九	六	三	接	續	車	輪	全	長	(米)		
全	備	砲	車	全	長	(米)	四	二	二	八	接	續	車	輪	全	長	(米)	八	九	六	三	接	續	車	輪	全	長	(米)		
全	備	砲	車	全	長	(米)	四	二	二	八	接	續	車	輪	全	長	(米)	八	九	六	三	接	續	車	輪	全	長	(米)		
全	備	砲	車	全	長	(米)	四	二	二	八	接	續	車	輪	全	長	(米)	八	九	六	三	接	續	車	輪	全	長	(米)		
全	備	砲	車	全	長	(米)	四	二	二	八	接	續	車	輪	全	長	(米)	八	九	六	三	接	續	車	輪	全	長	(米)		
全	備	砲	車	全	長	(米)	四	二	二	八	接	續	車	輪	全	長	(米)	八	九	六	三	接	續	車	輪	全	長	(米)		

全備砲車	放列砲車	全備砲車	砲架尾		全備接續車輪	全備砲車	砲架尾		全備接續車輪
			全備砲車	放列砲車			上車	下車	
七九	一一一四	一一四九	九三	九三	一九三九	九九	九九	九九	
九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	
九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	
九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	
九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	

0314

極
秘

用済後
直接當課下送康

整備局整備課

議題第三

陸軍技術本部兵器研究方針改訂ノ件

0315

精要欄、新政、現ハ決定ノ曉ハ
 不用ニ付、清スリ可ト信スル意見
 ニ付、決定上、處置相成反
 井山太佐殿 平野中佐



0316

極秘

六拾冊ノ内第壹號

紙數四拾六枚

委員

用済後

軍務部課長

整備局整備課

陸軍技術本部兵器研究方針改正案

昭和十二年四月二十六日
陸軍技術本部印刷

凡例

一、本冊ハ陸軍技術本部ニ於テ研究審査スヘキ重要ナル兵器ノ研究要項ヲ示スモノトス

二、本冊ノ内容ハ必要ニ應ジ其ノ都度訂正加除スヘキモノ

三、本冊ノ

四、本冊ノ

五、本冊ノ

六、本冊ノ

七、本冊ノ

八、本冊ノ

目次

	其	其									
	一	二									
	方	研									
	針	究									
		要									
		項									
	第	第									
	一	一									
	銃	銃									
	器	器									
	第	第									
	二	二									
	火	火									
	砲	砲									
	第	第									
	三	三									
	彈	彈									
	丸	丸									
	第	第									
	四	四									
	火	火									
	具	具									
	第	第									
	五	五									
	火	火									
	藥	藥									
	爆	爆									
	藥	藥									
	及	及									
	化	化									
	學	學									
	兵	兵									
	器	器									
	第	第									
	六	六									
	射	射									
	表	表									
	及	及									
	彈	彈									
	道	道									
	第	第									
	七	七									
	戰	戰									
	車	車									
	及	及									
	自	自									
	動	動									
	車	車									
	第	第									
	八	八									
	機	機									
	重	重									
	車	車									
	輛	輛									
	乘	乘									
	載	載									
	馬	馬									
	具	具									
	及	及									
	機	機									
	工	工									
	具	具									
	第	第									
	九	九									
	近	近									
	接	接									
	戰	戰									
	鬪	鬪									
	器	器									
	材	材									
	第	第									
	十	十									
	化	化									
	學	學									
	戰	戰									
	鬪	鬪									
	器	器									
	材	材									
	第	第									
	十	十									
	一	一									
	抗	抗									
	道	道									
	器	器									
	材	材									

第十二	爆破器材	四一
第十三	渡河器材	四三
第十四	特種交通器材	四九
第十五	通信器材	五三
第十六	鐵道器材	五九
第十七	機力器材	六一
第十八	氣球器材	六三
第十九	土工器材	六五
第二十	照明器材	六七
第二十一	測量器材	六九
第二十二	警備器材	七一
第二十三	寫真器材	七三
第二十四	氣象器材	七五
第二十五	測 機	七七

其一方 針

一、兵器ノ研究ハ作戰上ノ要求ヲ基礎トシ特ニ運動戰ニ重キヲ置キ將來戰ノ推移ヲ洞察シテ敵ニ先ンスル必勝ノ兵器ヲ創造スル爲技術ノ最善ヲ盡スヲ根本義トシ且平戰兩時ニ於ケル整備補給ヲ圓滑容易ナラシムル如ク努ム

ニ、作戰上特ニ左記諸要望ノ達成ヲ期ス

イ、豫想作戰地ノ地形氣象ニ適合シ其ノ性能ヲ遺憾ナク發揮スルヲ主トスルコト

ロ、構造堅牢、機能良好、取扱簡易ニシテ耐久保存ニ適スルコト

ハ、敵ノ意表ニ出ツル兵器ノ創造ニ努ムルコト

ニ、作戰ノ必要上用途ヲ特定セラレタル兵器ノ研究ニ方リテ他ノ條件ヲ低下スルモ作戰上ノ要求ヲ十分ニ満足セシムルコト

三、整備補給上特ニ左記諸點ニ留意ス

イ、原料資源及國內工業ノ状態ヲ顧慮スルコト

ロ、經濟的整備及戰時大量調達ヲ容易ナラシムルコト

ハ、日本標準規格品又ハ一般市販品ヲ利用スルコト

ニ、整備ノ緩急ニ即應シ且主兵器研究審査ノ完了ト同時ニ其ノ附

屬兵器等ハ一貫シテ完了スルコト

ホ、兵器部品及材料ニ共通性ヲ附與スルコト

四、現制兵器ト雖所要ニ應シ改修ヲ加ヘ前諸項ノ主旨ニ適應スル如ク
努ム

五、内燃機關ノ重油化ニ努ム

六、豫想作戰地ニ於ケル特殊事象ノ兵器材料ニ及ス影響ヲ基礎的且
徹底的ニ調査シ以テ兵器研究審査上ノ基準ヲ得ルニ努ム

其二 研究要項

第一 銃

項目	要項	摘要
<p>輕機関銃</p>	<p>十一年式ニ比シ更ニ輕量且操用便ナル様式ノモノトス 主要諸元左ノ如シ 一口 徑……六 毫米五 二重 量……約八磅五〇〇 三ガス利用式 四箱輝 倉(三〇發)</p>	<p>輕易ニ銃身ヲ裝脱シ得ル如クス</p>
	<p>三年式ト同様式ニテ更ニ輕量ナルモノトス 主要諸元左ノ如シ 一口 徑……七 毫米七</p>	

0323

摘要欄中新、改、現ハ左ノ區分ヲ示ス

新ハ新規ニ追加セルモノ

改ハ現研究方針ヲ改訂セルモノ

現ハ現研究方針ノ通

5330

	<p>戦車(装甲車)用 機関銃</p>	<p>重機関銃</p>
<p>殺傷能力比較的大ニシテ自衛 ニ適スル新様式ノモノトス 主要諸元左ノ如シ</p>	<p>現制ニ比シ與ニ威力ヲ増シ且 給彈様式変ナルモノトス 主要諸元左ノ如シ 一 口径……………七 七 二 重 量……………約 二 八 斤 三 ガス利用式 四 箱彈倉基(ニワ發)</p>	<p>二 重 量……………約四五斤(脚夫) 三 ガス利用式 四 尿 彈 板(三ワ發) 五 空冷式放熱 六 直接照準用眼鏡附 七 三脚架ハ現制高射花架ヲ 使用シ得ル如ク考慮ス</p>
<p>新</p>	<p>新</p>	<p>新</p>

<p>自 動 小 銃</p>	<p>機 関 短 銃</p>
<p>小銃ニ比シ發射速度ヲ増加シ 得ハキモノトス 主要諸元左ノ如シ 一 口径 徑……六糎五 二 重量……約四尅五〇〇 三 ガス若ハ反動利用式 四 鼓狀彈倉若ハ箱彈倉</p>	<p>一 口径 徑……八糎 二 重量……約三(彈倉ヲ除ク) 三 彈倉收容數……約三〇發 四 侵徹力……五〇〇米ニ於テ防 寒服着用ノ兵員ヲ 殺傷シ得……</p>
<p>改</p>	<p>新 現制十四年式拳 銃突色ヲ使用ス ルモノトス</p>

第二火砲	
項目	二十糎六戰車砲
要項	<p>輕量且操用便ナル近距離用對戰車火器トス 主要諸元左ノ如シ 一重 量 …… 約四〇キ 二 徹甲威力 …… 約三〇〇米ニ於テ 一五糎特殊裝甲板ヲ貫通シ得 三 運動様式 …… 一馬駄載</p>
摘要	<p>野戰ニ於テ對空ヲ主トスルモノトス 主要諸元左ノ如シ 一 初 速 …… 約九〇〇米 二 重 量 …… 前車 約四五〇キ 後車 約七五〇キ</p>
摘要	新
五	

<p>三十七糎高射機関砲</p>	<p>二十糎高射機関砲</p>
<p>一初速……約六〇〇米 二彈量……約六〇〇瓦 三有効最大射高……約三五〇〇米 四最大射程……約五〇〇〇米 四五發射速度……一分一〇〇發以上</p> <p>現制對戰車砲ニ比シ更ニ威力</p>	<p>三射界…… 方向 三六〇度 高低 負五度—正八五度 四威力…… 高度約二〇〇〇米以下ノ飛行機ニ對シ効力ヲ期待シ得ルモノトス 五運動様式…… 被牽引式ニ懸繫駕馭載ノ各様式ニ就キ研究ス</p>
<p>車</p>	<p>六 馱載ノ場合ニハ砲架ノ型式ヲ異ニスルモノトス(威力等ハ同シ)</p>

『軍事機密』
 陸軍省
 大正十一年
 四月
 〇

<p>四十七糎高射砲</p>	<p>四十七糎対戦車砲</p>
<p>近代的照準具ヲ有スルモノト ス 主要諸元左ノ如シ 一 初速……………約八〇〇米 二 有効最大射高……………約五〇〇〇米</p>	<p>ヲ増大スル新様式ノモノトス 主要諸元左ノ如シ 一 初速……………約八〇〇米 二 徹甲威力……………約一〇〇〇米ニ於テ 二五糎特殊裝甲板ヲ貫通シ得 三 放射砲車重量……………繋駕 約六〇〇斤 牽引車 約八〇〇斤 四 砲架……………運動様式ニ適スル 二様式ニ就キ研究ス 五 運動様式……………二馬繋駕及牽引車ニ依ル</p>
<p>新</p>	<p>新</p>

<p>歩兵大隊砲</p>	<p>五糧七戰車砲</p>	
<p>現制ノモノニ比シ輕易ナル大隊砲ニシテストークブランレ砲類似ノモノニ就キ研究ス 主要諸元左ノ如シ</p> <p>一、口徑……………八一糎</p> <p>二、彈量 榴彈……………約三三〇▽ 大榴彈……………約六七〇▽ 榴彈……………約三三〇▽ 大榴彈……………約三三〇▽</p> <p>三、射程 最大榴彈……………約三三〇米 大榴彈……………約三三〇米 榴彈……………約二二〇米 最小榴彈……………約六〇米</p> <p>四、放射筒重量……………約六五キ</p> <p>五、運動様式……………車載取載又人力搬送</p>	<p>現制火砲ヨリ一層操用便ニシテ構造機能ヲ向上スル如ク研究ス</p>	<p>三、放射砲車重量……………約一砲</p> <p>四、運動様式……………牽引車ニ依ル</p>
<p>新</p>	<p>新</p>	<p>ハ</p>

<p>七種半騎砲</p>	<p>自走式戰車支援砲</p>	<p>歩兵聯隊砲</p>
<p>現制野戰高射砲ニ代ルヘキ新 減ス ニ同シ但シ重量ハ成ル可ク輕 ノニシテ諸元概テ九五式野砲 現制四一式騎砲ニ代ルヘキモ</p>	<p>戰車隊ト行動ヲ共ニシ火力ニ 依リ直接支援ニ任スル自走式 火砲ニ付研究ス</p>	<p>現在整備セル四一式山砲ニ代 ルヘキ新様式ノモノトス 主要諸元左ノ如シ 一 口径 徑……………七五 毫米 二 有効射程……………三〇〇〇 米 三 方向射界……………四〇 度 四 發射機車重量……………約四五〇—五〇〇 斤 五 運動様式……………二馬 繫・駕</p>
<p>改</p>	<p>新</p>	<p>新 砲身構造砲架相互間 ノ分解就キテハ考慮ス</p>

九

<p>七種半新高射砲</p>	<p>十五種榴彈砲</p>
<p>様式ノモ、ニシテ採用機且威力ヲ増大セルモノトス 主要諸元左ノ如シ 一初速……………約七五〇米 二有効最大射程……………約九〇〇米 三放列砲車重量……………約三噸 四運動性……………最大時速約四五浬</p>	<p>現制ノモノヨリ威力ヲ増加シ 軍一砲車被牽引式トス 主要諸元左ノ如シ 一射界 方向 三〇度 高低負五度—正六五度 二最大射程……………約一三〇〇米 三放列砲車重量……………約四噸二〇〇 四威力大ナル新彈藥ヲ研究スル外四年式十五榴ノ彈丸ヲモ併用シ得ル如クス</p>
<p>新</p>	<p>改</p>

<p>二十四種榴彈砲</p>	<p>十五種右農</p>
<p>現制ノモノヨリ威力ヲ増大シ 運搬橋付ヲ傾ナラシメタル新 様式ノモノトス 主要諸元左ノ如シ 一 彈 量……………約二〇〇斤 二 射 界……………約一二〇度</p>	<p>現制ニ比シ威力ヲ増大セル新 様式ノモノトス 主要諸元左ノ如シ 一 射 界 { 方向 約一二〇度(軌條ヲ 追和セハ三六〇度) 高低 負五度—正四五度 二 最大射程……………二五、〇〇〇米以上 三 發射機重量……………約二七 噸 四 運動様式……………各車約十二噸ノ 三車ニ分解シテ 牽引車ニ依ル</p>
<p>二</p>	<p>新</p>

<p>四十一種榴霰砲 改正</p>	<p>二十四種列車如農</p>	
<p>現有試製砲ヲ補修シテ一層操 用ヲ便ナラシム</p>	<p>左記火砲ニ就キ研究ス 一 九〇式二十四種列車如農 準軌及廣軌台車並砲身内 管交換ノ装置 二 新樣式二十四種列車如農 (前項ノ火砲ニ改良ヲ施 セルモノ)</p>	<p>高低〇一正六五度 三 最大射程……………約一四〇〇米 四 發射重量……………約三七砲 五 運動樣式……………砲車ハ一車約十二 砲ノ三重ニ分解シ 砲床ハ三砲積被牽 引車六輛ニ分載シ 牽引車ニ依ル</p>
<p>新</p>	<p>改</p>	<p>改</p>

<p>重 迫 撃 砲</p>	<p>中 迫 撃 砲</p>
<p>現制ニ比シ威力ヲ増大セルモノトス 主要諸元左ノ如シ</p> <p>一 口径……………三〇五 ㎞</p> <p>二 弾量……………約三四五 発</p> <p>三 射程 最大……………約四〇〇 米 最小……………約一〇〇 米</p> <p>四 放射距離重量……………約二一 発</p> <p>五 運動様式……………十二発及九発</p>	<p>新様式ノモノトス 主要諸元左ノ如シ</p> <p>一 口径……………一五〇 ㎞</p> <p>二 弾量……………二四発五〇 発</p> <p>三 型式……………有翼彈先込式</p> <p>四 射程 最大……………約四〇〇 米 最小……………約八〇 米</p> <p>五 放射距離重量……………約八 発</p> <p>六 運動様式……………車載及馱載</p>
<p>新</p>	<p>新</p>

一三

0334

ノ二車ニ分解シ
テ牽引車ニ依ル

一
田

第三 彈丸	
項 目	完 成 法 ノ 改 正
要 要	<p>一、各種火砲ノ彈丸ニ就キ現在ノ手工業的ノ方法ヲ多量生産的ノ方法ニ改メ勤員時及戰時要求ニ適セシム</p> <p>二、危害豫防及採用ニ便スル為彈藥ノ用途・彈量區分・藥勢區分・製作區分ヲ明瞭ナラシム</p>
摘 要	改

9336

				第四火具	
毒煙筒	代用地金銀葉莖	長祿時兎火瞬發信管	銳敏性大ナル 著發信管	項目	
小重量約二挺	燃焼ニヨリ廿時瓦斯ヲ放射ス ル毒煙筒ニシテ左ノ二種トス	資源關係ヨリ黃銅以外ノ地金ヲ用ヤル葉莖ヲ研究ス	兎火射程ヲ増大スル為兎火秒時五口秒ヲ至六口秒ニシテ且瞬發機能ヲモ有スルモノヲ研究ス	要項	小落角ニ於テモ完全ニ作用シ不發ナキモノヲ研究ス
新	新	新	規	摘要	

<p>化學兵器</p>		<p>新 爆 藥</p>	<p>項 目</p>	<p>第五 六 爆 藥 及 化 學 兵 器</p>
		<p>要</p>	<p>要</p>	
<p>一 一時瓦斯 放射及彈丸填實 = 適スル特種 有效ナル(超即效致死的)瓦 斯 = 付研究ス</p>		<p>二 持久瓦斯 兩下器徹及彈丸填實 = 適シ特 = 寒地 = 於テ有效 = 使用シ得 ル持久瓦斯 = 付研究ス</p>	<p>項</p>	<p>摘 要</p>
<p>新</p>		<p>新</p>	<p>爆</p>	

0338

項	目	要	項	稿	要
項					
第六 射表及彈道					

二一

6880

重 戦 車	項 目	第七 戦車及自動車		
	要	作戰上ノ要求ニ基キ現行方針ヲ修正シ武装及装甲板ノ厚サヲ変更シ、從テ重量ヲ増加ス 主要性能左ノ如シ	項	
	五、幅及高 送ニ支障ナキヲ目途トス	四、全長 約 六米五〇	三、超越シ得ル壕幅 約 三米〇〇	二、最大速度 約 二二 浬
			一、全重量 約 二六 噸	
			效	稿
				要

二三

六、被甲板ノ厚サ 最大三五粒 最木五十五粒	七、被装 七煙砲 三十七粒砲 車載機関銃 二	八、携帶彈薬数 砲 彈 七粒 三十七粒砲 二五〇発 銃 彈 六〇〇〇発	九、攀登シ得ル傾斜 三分ノ二	十、運行範囲 十時間以上	十一、軌道装置 全被軌	十二、熱帯地ニ於ケル使用ヲ顧慮ス
--------------------------	---------------------------------	----------------------------------------------	----------------	--------------	-------------	------------------

中
戦
車

<p>八九式二代ルヘキ主力戦車トス 主要性能左ノ如シ</p>						
乗員	超越壕幅	最大速度	装甲	武装	重量	
四名	約 2.50 米	路上約 三五料 路外二料以上	三七七粒級対戦車砲 二近距離ニ於テ対抗ス ヲ目途トス	固定機関銃一 機関銃二 (内塔砲)	約 23.0 吨	第一案
三名	約 2.40 米	路上約 二七料 路外一〇料以上	三七七粒級対戦車砲 ト中距離ニ於テ対抗ス ヲ目途トス	固定機関銃一 機関銃二 (内塔砲)	約 20.0 吨	第二案
<p>東</p>						

指揮戦車

戦車隊指揮官用トシテ必要ナル観測通信及指揮装置ヲ完備シタル戦車トシ、先ツ中戦車聯(大)隊長用ノモノヲ研究ス
 主要性能左ノ如シ
 一、外觀及運動性ヲ中戦車ト同様ナラシメ車台ヲ努メテ共通トス
 二、重量
 三、速度 中戦車ト概ネ同様ナラシム
 四、乗員 四—五名
 五、武装 三十七糎砲、機関銃一
 六、装甲 中戦車ト大差ナカラシム
 七、装備品 無線機、展望装置、指揮装置等

新

水陸戦車

上陸及渡河掩護架橋支援及偵察ニ供スル水陸両用戦車トス
 主要性能左ノ如シ

- 1 重量 約五吨半
- 2 速度 地上40km/h
水上約10km/h
- 3 武装 三十七mm砲一
車載機関銃一
- 4 装甲 最大十二mm
- 5 乗員 三名

改

新軽装甲車

九四式軽装甲車ノ武装ヲ変更
シ機関ノ馬力及路外運動性ヲ
増大シ、独立軽装甲車隊用及
軽戦車隊ノ偵察指揮用ニ適ス
ル車輛トス

主要性能左ノ如シ

重量 約三吨半

武装 七七機関車載機関銃一

又 三十七七粒砲一

装甲 七七機関車徹甲実包二抗

堪スルヲ目途トス

速度 約四十五五料

馬力 約六十十

改

昭和十一年三月三十一日現在

<p>新牽引自動貨車</p>	<p>機械化歩兵車</p>
<p>新野戦高射砲用トシテノ路外 運動性ヲ増大セル新様式トス 主要性能左ノ如シ 一、半装軌式トス 二、牽引重量 約三噸半 三、速度 約四十五料</p>	<p>機械化歩兵搭載用トシテ車体 二簡易ナル装甲ヲ施シタル自動車トス 主要性能左ノ如シ 一、搭載人員 武装兵十五名 二、運動能力 路上^{五〇}五十料以上トシ優秀ナル路外性ヲ有セシム 三、必要ニ應シ軽(重)機関銃ノ車ト射撃ヲ可能ナラシム 四、様式 四輪起動トス</p>
<p>新</p>	<p>新</p>

<p>小口径砲搭載車</p>	<p>観測挺進車</p>
<p>九四式二十七発砲又ハ二十発機関砲ヲ搭載又ハ牽引シ車上射撃ヲナシ得ル裝軌車輛トス 主要性能左ノ如シ 一、全備重量 約四吨 二、速度 約十ノ料以上</p>	<p>挺進班用人員器材ヲ搭載シ車上延線可能ナル小型裝軌車トス 主要性能左ノ如シ 一、新輕裝車ト同様式車体ヲ應用ス 二、乗車人員 六名 三、重量 約三吨 四、速度 約十ノ料以上</p>
<p>新</p>	<p>新</p>

三〇

<p>新五吨牽引車</p>	<p>十三吨牽引車用重油機関</p>
<p>踏外運動能力ヲ改善シタル新様式トス 主要性能左ノ如シ 一、十加及十五榴牽引ヲ主目的トス 二、重量 約 五^五 五^五 吨 三、速度 二^二 四^四 哩ノ料 四、重油機関ヲ裝備ス</p>	<p>九五式十三吨牽引車ニ裝備スルモイトス 主要性能左ノ如シ 径 一四〇 糎 衝程 一九〇 糎 出力 二〇〇回轉ニテ二四〇馬力以上 最大回轉 一四〇〇 冷却方式 氷冷</p>
<p>新</p>	<p>改</p>

三一

0348

各種重油機関

各種内燃機関車輛ヲ重油化ス
ル爲
重油機関ヲ研究ス

新

三三

第八 輜重車輛、乘鞍馱馬具及職工具	
項目	要
二馬曳輜重車	現制九口式乘車二馬曳輜重車 二比シ一層堅牢且運動性大ニ シテ最大荷積載量ヲ四五口 迄トシ主トシテ大行季及師團 輜重ニ適セシムルモノトス
項目	摘要
	精

三三

第九 近接戦闘器材			
項目	要	項	摘要
電流鐵條網器材	電流鐵條網ノ探知及排除用並設置用ノモノニ付研究ス	新	
爆薬投擲機	破壊筒若ハ爆薬ヲ投擲シ鐵條網或ハ側防機能ヲ破壊スルモノニシテ其ノ投擲距離ハ約三ロツ米トス	新	
破壊筒挿入機	噴進式ニ依リ突撃陣地ヨリ破壊筒ヲ挿入シ深サ各一ツ米ノ二帶鐵條網ヲ同時ニ破壊シ得ルモノトス	新	

0351

携
行
破
壊
具

種
ト
ス
隱
密
破
壊
具
及
強
行
破
壊
具
ノ
二

改

三六

第十 化學戰闘器材			
防 毒 覆	輕(全)防 毒具	防 毒 面	項 目
<p>瓦斯兩下ニ對シ人馬ヲ各個ニ 防護シ得ル覆トス</p>	<p>トス 務着ノ裝用ニ適スルモノ(全)</p> <p>撒毒地ノ強行通過ニ適スル防 毒具(輕)及撒毒地内特種任</p>	<p>ニ特種用途ノ防毒面</p> <p>一現制ニ比シ一層簡易輕量化 シ戰闘能力ヲ増大シ得ル如 キ防毒面トス</p>	<p>要</p> <p>項</p>
新	新	改	<p>摘</p> <p>要</p>

檢知器材	撒消毒器材
他特種檢知器トス シ得ヘキ乍候用、 戦場ニ於テ容易ニ瓦斯ヲ檢知 物料用其ノ	撒毒車及消毒車 現制ノ撒車及消毒車ニ代ルヘキ 自走式ノモノニ付研究ス
疎	疎

第十二 坑道 器材	
項 目	坑道掘進機
要	<p>動力 = 依リ坑道ノ迅速掘進ヲ行フモノニシテ次ノ二種トス</p> <p>1. 排土式 概ネ小本坑道級ノモノヲ毎時五米以上ノ速度ヲ以テ掘進スルモノトス</p> <p>2. 無排土式 概ネ大枝坑道級ノモノヲ毎時五米以上ノ速度ヲ以テ掘進スルモノトス</p>
項	
摘	要
要	收

三九

第十二 爆破器材		項目	摘要	項目	摘要
吸著爆雷	對戰車爆破器材	戰車手爆彈	<p>一、戰車手爆彈</p> <p>肉薄攻撃ニ適シ戰車各部ニ對シ密著容易ナルモノトス</p> <p>ニ 自動戰車地雷</p> <p>設置容易發見困難ニシテ其ノ威力ハ戰車ノ履帶ヲ破壊シ得ルモノトス</p>	新	新
			<p>特種火點ノ銃眼（砲門）ノ鐵扉ニ容易ニ吸著シテ之ヲ爆破セシムルモノトス</p>	新	

第十三 渡河器材

項目	要項	摘要
<p>馱載式渡河器材</p>	<p>一 馱載式折疊舟 滑渡並機航用折疊舟トシ單舟 ノ場合舟手三名ノ外武装兵約 十名ヲ、三舟門橋トスルトキ 現制野砲ヲ搭載シ得ルモノトス 二 馱載式操舟機 馱載式折疊舟ニ裝着シ機航ニ 使用スルモノトス 主要諸元左ノ如シ 1. 自重 約三五匁 2. 發動機出力 約七馬力</p>	<p>★</p>

四三

大河機航器材

一 曳舟

台車ニ積載牽引車ニテ運行シ
得ルモノトス
主要諸元左ノ如シ

- 1. 全重量 約三吨
- 2. 曳航量 甲車載式鉄舟隻
- 3. 曳航速度 毎時約一〇料

二 指揮艇

機航部隊ノ指揮用ニシテ鞆重
車若ハ自動貨車ニ積載運搬シ
得ルモノトス

主要諸元左ノ如シ

- 1. 航速 毎秒約八米
- 2. 舟艇型式 折疊式三節舟

三 装甲艇

精

新

改

四

<p>重 渡 河 器 材</p>	
<p>大河ノ敵前渡河用特種門橋ニシテ各部材料ハ輜重車運搬可能結構迅速戰車其他重資材ノ乗船上陸容易ナルモノトス</p> <p>主要諸元左ノ如シ</p> <p>1. 二舟門橋 七飛級戰車及軸 压五飛以下車輛用</p> <p>2. 三舟門橋 十四飛級戰車及軸 压九飛以下車輛用</p>	<p>台車ニ積載牽引車ニテ運行シ得ルモノトス</p> <p>主要諸元左ノ如シ</p> <p>1. 全重量 約四飛半</p> <p>2. 武裝 要部ハ裝甲シ重機一ヲ附ス</p>
<p>四五</p>	

<p>機械化兵團 渡河器材</p>	
<p>機械化兵團ヲ迅速ニ渡河セシ メ得ルモノトシ自動貨車ニ積 載運搬ス 主要諸元左ノ如シ 1. 橋脚 架柱及折疊舟 2. 橋床 長約七米、鉄桁 3. 門橋 十四艇級戰車用</p>	<p>3. 航 速 毎秒約三米 約四マカ 4. 操舟機 各舟ニテ附ス</p>
<p>鐵道橋ノ迅速修理用ニシテ左 記器材ヨリ成リ分解結合容易 且自動貨車ニ積載運搬シ得ル</p>	<p>新</p>

鐵道架橋器材

モノトス	橋桁	最大覆間三ニ米以下ノ各種覆間ニ於テ廣軌重列車ヲ通過セ	シム	橋脚	右橋桁ノ負擔ニ堪フル固定橋脚トス	架設用器材			
最初輕列車ヲ	通過得ル程度	ニシテ輕易ナ	ル橋梁ヲ架設	シ爾後其ノ運	轉ヲ中止スル	コトナク重列	車ヲ通過セシ	ム程度ニ補	強ス

四七

第十四 特種交通器材

項 目	要	項 摘 要
森林通過器材	<p>中径ニハ概乃至四〇粒ノ森林 内ニ一時間ニ乃至四料ノ速度 ヲ以テ車馬道ヲ開設スル各種 器材トス</p> <p>一 藁開車</p> <p>藁軌車輜ニシテ最先頭ヲ藁 進シテ樹木ヲ壓倒蹂躪シ以 テ急遽徒歩部隊ノ通路ヲ開 設スルモノトシ全備重量約 一五噸トス</p>	<p>新</p> <p>兎</p>

<p>断崖通過器材</p>	<p>濕地橋</p>	
<p>高約五〇米ノ断崖ニ武装徒步兵ヲ攀登セシメ又ハ單位荷重一〇〇飛以下ノ物料ヲ引揚ケ</p>	<p>十五輝榴彈砲(脱急)以下ノ繫馬車輛及馬匹ノ通過ニ堪フルモノトス</p>	<p>ニ 伐掃車 表軌車輛ニシテ蓋開車直後ノ蹂躪地帯ヲ伐掃補修シ馱馬或ハ輜重車輛ノ通過ヲ可能ナラシムルモノニシテ全荷重量約一〇飛トシニ飛起重機五飛ウインチヲ有ス</p>
<p>新</p>	<p>映</p>	<p>新五</p>

0363

得ルモノニシテ馱載若ハ輜重
車載運搬トシ全重量約七
トス

電 話		項 目	第十五 通 信 器 材
多 重 電 話 機	要	項	
<p>一、野戦及兵站電信隊用 野戦建築裸線若ハ半永久架空 線ニ使用シ野戦建築裸線ニテ 通達距離三〇〇料トン輜重車 ニ依リ運搬スルモノトス 主要諸元左ノ如シ</p> <p>1. 方式 搬送式ニ重通信 2. 全重量 約六〇〇キ ニ、要塞用 海底線及半永久線ニ使用スル</p>	<p>項 摘 要</p>		

器

秘密電話機

ニ適シ電源ハ一〇〇マシオルト交流又ハ蓄電池及乾電池トス

一、特ニ號電話機

通信線路ノ中途ニ於テ窃聽セラルルモ内容ヲ理解シ得サル

電話機トス
主要諸元左ノ如シ
1. 重量 二〇〇グラム以内

2. 通信距離 九云小被覆線一〇〇料

ニ、特ニ號電話機

一般電話通信ノ窃聽ヲ防クタメ普通ノ電話機ニ附加シテ線路電流ヲ秘密化シ得ルモノトス
主要諸元左ノ如シ

材	器	材
多重電信機	印字電信機	
<p>4. 運搬法 駄載</p> <p>3. 電源 乾電池</p> <p>2. 重量 一〇〇斤</p> <p>1. 主要諸玩式ノ如シ 林其ノ如シ 低周波多重通信</p> <p>野戦建築裸線ヲ使用シ四〇〇斤ノ通信ヲ實施シ得ルモノトス</p>	<p>3. 重量(電線共) 約一〇〇斤以内</p> <p>2. 通信速度 毎分約七〇字以上</p> <p>1. 通信距離 現制現字機ト同等以上</p> <p>注 要諸元左ノ如シ 印刷シ得ルモノトス 打鍵ニ依リ相手局ニ假名字ヲ</p>	<p>2. 通信距離 九一式小被覆線四〇斤</p> <p>1. 重量 一〇〇斤以内</p>
改	改	

五五

材	器	築	建
延 線 車	<p>装軌式延線作業用車輛<small>トス</small></p> <p>主要諸元左ノ如シ</p> <p>1. 車 体 九四式輕裝中車車体</p> <p>2. 延巻線速度 毎時一二料以上</p> <p>3. 線積載量 <small>ニ料(九二式裸線若九)</small> <small>三料(三系被覆線)</small> <small>五料(大被覆線)</small></p> <p>4. 乗車人員 運轉手共四</p>	植 柱 車	<p>装軌式植柱作業用車輛<small>トス</small></p> <p>主要諸元左ノ如シ</p> <p>1. 車 体 九四式輕裝中車車体</p> <p>2. 穿孔速度 凍結地 毎時四料分以上 其ノ他 毎時六料分以上</p> <p>3. 電柱積載量 四料分</p> <p>4. 乗車人員 運轉手共六</p>
改	改		

五六

<p>暗 號 機</p>	
<p>部隊用及高等司令部用ノ二種トス 一 部隊用 主要諸元左ノ如シ 1. 重量 五〇斤以内 2. 運搬法 馱載 二 高等司令部用 暗號ノ硬度大ナルモノトシ 其 主要諸元左ノ如シ 1. 重量 一〇〇斤以内 2. 運搬法 馱載</p>	<p>左記ノ二種ニ付研究ス 1. 二心入 重量大被覆線程度</p>
<p>改</p>	

6980

多心被覆線

線長 五〇〇米

地上敷設用トス

2. 四心入

線長 一〇〇〇米

地上敷設用トス

取 五八

第十六 鐵道器材

項 目	要	項 要
<p>鐵道牽引車</p>	<p>應急運轉、修理、建設等ニ使用スル為軌道上ニ於テハ輕機關車トナリ所要ニ際シテハ軌道外ニ出テ自動貨車トシテ走行シ得ルモノトス 主要諸元左ノ如シ 1. 牽引列車重量 約五〇噸 2. 軌道外積載重量 約一七噸 3. 軌 間 一米〇六七 一米四三五 一米五二四</p>	<p>新</p>

五九

<p>急造廣軌牽引車</p>	<p>破壊用器材</p>
<p>軌道上ニ於テハ輕機關車トナ リ所要ニ際シ軌道外ニ出テ自 動貨車トシテ走行シ得ル如ク 普通ノ自動貨車ニ所要ノ装置 ヲ附加スルモノトス 主要諸元左ノ如シ 1、牽引列車重量 一五乃至三〇噸 積載量 一〇乃至二〇噸 2、軌道外積載重量 一乃至二噸 3、軌 間 一米四三五</p>	<p>長距離ノ軌道ヲ毎時一五料以 上ノ速度ヲ以テ迅速且大規模 ニ連續破壊シ得ルモノトス</p>
<p>新</p>	<p>新</p>

六〇

0372

項

目

要

項

摘

要

第十七 機カ器材

六一

第十八 氣球器材	
防 空 氣 球	項 目
就 キ 研 究 ス	要
敵飛行機ノ來襲ヲ阻止スル爲 大高度大風速ニ堪ルモノニ	項
新	摘 要

第十九 土工器材

項目	概要	摘要
凍土掘開器材	<p>凍結地ニ於テ散兵壕、交通壕等ヲ掘開スル際凍土ノ掘起ニ使 用スルモノニシテ臂力ニ依ル モノ及動力ニ依ルモノノ二種トス 一、臂力ニ依ルモノ 個人用携帯工具ニシテ特ニ敵 前作業ニ適スルモノトシ重量 ハ約一社^半トス ニ、動力ニ依ルモノ 装軌自走式ニシテ隨所ニ移動</p>	<p>敵</p>

シテ作業ヲ實施シ得ルモノト
シテ掘開速度毎時約四料以上ト
ス

第二十 照 明 器 材	
項 目	要 項
近距離用探照燈	<p>第一線ニ於ケル近距離照明用 ニシテ一人手廻發電機ヲ有シ 輕快ナル運動ニ適シ且一駄馬 ニ二組駄載シ得ルモノトス</p> <p>主要諸元左ノ如シ</p> <p>1. 及射鏡中徑 三〇糎 2. 及射光度 五〇萬燭光以上</p>
概	要

第二十一 測量器材		項 目	要 項	摘 要
戦場測量器材	<p>主トシテ野戦測量隊用ノ器材ニシテ左記各種ノモノニ付研究ス</p> <p>一、図根點ヲ精密迅速ニ編成シ得ルモノ</p> <p>二、空中寫眞ニ依リ簡易ニ敵陣地附近ノ測図ヲ爲シ得ルモノ</p> <p>三、空中寫眞ヲ用ヒ基準點ヲ精密ニ決定シ得ル空中三角測量器材</p> <p>四、新方式ニ依リ空中寫眞ヲ處理シ迅速正確ニ地形原図ヲ作成スヘキモノ</p>	改		

		第二十二 警備器材	
項目	要	項	摘要
水中聴音機	海岸ノ警戒並射撃用ノモノヲ研究ス	水中聴音機	次ノ如キ空中聴音機ヲ研究ス 一、小型軽量組立分解容易ニシテ 聴測ノ精度良好聴音距離大ナルモノ 二、監視用トシテ極メテ簡易ニシテ肉耳ニ比シ聴音距離大ナルモノ
改		改	

第二十三 寫真器材

項 目	要	項 摘 要
空中測量用寫真機	戰場ニ於テ地形図ヲ迅速ニ調製シ得ル爲ノモノニシテ短焦点多鏡式ト爲シ廣地域ノ撮影ヲ可能ナラシムル如ク研究ス	新
望遠寫真機	自動車式トシ遠大距離ヨリ寫真偵察ヲ行フ爲ノモノニシテ其主要性能ハ焦点距離五米以上數十料ニ亘ル寫真偵察ヲ可能ナラシムル如ク研究ス	新

0880

第二十四 氣象器材

項目	要項	摘要
高層氣象觀測具	航空、砲兵射撃及天候判断ノ爲高層ニ於ケル風向、風速、氣圧、氣温及濕度等ヲ簡易ニ測定シ得ル觀測具ヲ研究ス	改

七五

1880

第二十五測 機

砲兵情報要具		項目	摘要	項目	摘要
敵情搜索並目 標々定要具					
<p>1. 大觀測鏡</p> <p>潜望高 $11 \frac{1}{2}$ 米</p> <p>自動車牽引式</p> <p>同光通信装置ヲ附ス</p> <p>2. 潜望高 $15 \frac{1}{2}$ 米</p> <p>輓馬牽引式</p>			<p>主トシテ砲兵情報要具トシテ</p> <p>遠大ナル距離ニ於ケル敵情搜</p> <p>索及精確ナル目標々定ヲ可能</p> <p>ナラシム</p> <p>主要性能左ノ如シ</p>		

七七

~~改~~

砲 兵 情 報 要 具
<p>三、音源標定機</p> <p>1. 砲兵情報班用 輜重車七車輻二分載シ得ルモノ 大受音所式</p> <p>2. 一般砲兵部隊用 自動車二輛又ハ三聯繫駕車輻一車ニ 積載シ得ルモノ 三受音所式</p> <p>三、火光標定機 瞬間目標ヲ火光ヲ迅速ニ標定シ得ルモノ 四 寫眞標定機 砲兵情報班及重砲隊用 焦点距離二米 画角<small>約</small>10度 密位</p>

砲兵情報要具

五、斜寫眞座標標定機

斜寫眞ヨリ迅速且容易ニ平面座標^{及標}高ヲ決定シ得ルモノ

六、空地標定機

飛行機觀測ニ依リ目標ノ方向及距離ヲ附與スル場合精確ニ諸元ヲ測定シ得ルモノ

射	空	射	擊	指	揮	具
野戰用指揮具						
<p>野戰高射砲用トシテ航空目標ニ射スル射撃諸元ノ測定並算定ノ用ニ供スル指揮具トス</p> <p>主要性能左ノ如シ</p> <ol style="list-style-type: none"> 一、算定具ハ分速度式ニシテ未乗位置ニ應スル射撃諸元ヲ電氣的ニ砲側ニ傳達シ得ルモノ 二、火砲照準具ハ算定具ノ使用不可能ナルトキ直ニ機械照準ニ移行セシムル如ク 三、測高機ハ機内基線立体視式トシ基線ハ二米及三米トス 四、全指揮具ハ高射砲牽引車ト同一運動性ヲ與ヘ算定具本体ノ重量約四百五十斤(約八名ヲ以テ操作セシム) 五、二十粒級機關砲用トシテハ連續的ニ航速航路角又ハ分速度ヲ測定シ得ルモノニ研究ス 						
效						

對空射擊指揮具

要地用指揮具

要地防空ニ任スヘキ高射砲用
指揮具トス

主要性能左ノ如シ

一、算定具ハ七糎級以上ノ高射砲用ノ
モノハ野戰用ノモノト略、同様ノモノヲ
使用スルモ四十糎級用トシテ八更ニ
輕量ナラシメ本体ノ重量約三噸、
操作人員約八名トス

二、測高機ハ三十七糎級ノモノニハ基線
二米ヲ採用スルモ七糎以上ノ火砲
ニ對シテハ四米以上ノモノヲ研究
シ現在ノ三米ノモノニ比シ更ニ精度
ヲ向上ス

敵

一、同
二、同
三、同
四、同
五、同
六、同
七、同
八、同
九、同
十、同
十一、同
十二、同
十三、同
十四、同
十五、同
十六、同
十七、同
十八、同
十九、同
二十、同
二十一、同
二十二、同
二十三、同
二十四、同
二十五、同
二十六、同
二十七、同
二十八、同
二十九、同
三十、同
三十一、同
三十二、同
三十三、同
三十四、同
三十五、同
三十六、同
三十七、同
三十八、同
三十九、同
四十、同
四十一、同
四十二、同
四十三、同
四十四、同
四十五、同
四十六、同
四十七、同
四十八、同
四十九、同
五十、同

對空射擊指揮具		
<p>無照射射擊 指揮具</p>	<p>海上用指揮具</p>	<p>運送船上ヨリスル高射々撃ニ使 用スルモノニシテ要地用ノモノニ準スルモ 船ノ動搖ノ影響ヲ防止スル如ク研究ス 夜間又ハ濃霧等ニ於テ飛行機ニ對 シ照空燈ヲ用フルコトナク射撃ヲ實施 シ得ル指揮具トス 主要性能左ノ如シ 一、聽音機、夜間眼鏡及算定具ヲ電氣 的ニ連絡シ晝間ト同様ノ射撃ヲ實 施セシメ得ルモノ 二、聽音機及算定具ヲ電氣的ニ連絡シ 全ク目標ヲ見ルコトナク射撃ヲ實施 セシメ得ルモノ</p>
<p>新</p>	<p>新</p>	<p>八二</p>

二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

<p>海岸射撃指揮具</p>	<p>高射砲自動操縦装置</p>
<p>改造十五糎加農砲台用</p>	<p></p>
<p>測遠機縦速計射撃板夜間射撃具其他射撃指揮ニ必要ナル要具ニ付研究ス</p>	<p>要地防空ニ於テ砲ノ操法ニ使 用スル人員ヲ極度ニ減少シ而 モ射撃精度ヲ増加スル為算定 具及測高機ニテ目標ヲ追隨照 準スルトキハ電動機ノ力ヲ以 テ砲ニ未來位置ノ射角及方向 ヲ附與シ得ル装置ニ付研究ス</p>
<p>改</p>	<p>新</p>

0388

極秘

六拾冊ノ内第五九號

紙數四拾六枚

陸軍技術本部兵器研究方針改定案

昭和十二年四月二十六日
陸軍技術本部印刷

凡例

- 一 本冊ハ陸軍技術本部ニ於テ研究審査スヘキ重要ナル兵器ノ研究要項ヲ示スモノトス
- 二 本冊ノ内容ハ必要ニ應ジ其ノ都度訂正加除スヘキモノトス

目次

	其一	方針	
	其二	研究要項	
第一	銃	器	一
第二	火	砲	一
第三	彈	丸	五
第四	火	具	七
第五	火藥	爆藥及化學兵器	九
第六	射表	及彈道	一
第七	戰車	及自動車	三
第八	機重車	輛乘戰馬具及職工具	三
第九	近接	戰鬥器材	五
第十	化學	戰鬥器材	七
第十一	坑道	器材	九

- 第十二 爆破器材
- 第十三 渡河器材
- 第十四 特種交通器材
- 第十五 通信器材
- 第十六 鐵道器材
- 第十七 機力器材
- 第十八 氣球器材
- 第十九 土工器材
- 第二十 照明器材
- 第二十一 測量器材
- 第二十二 警備器材
- 第二十三 寫真器材
- 第二十四 氣象器材
- 第二十五 測 機

四一
四三
四九
五三
五九
六一
六三
六五
六七
六九
七一
七三
七五
七七

其一方 針

一、兵器ノ研究ハ作戰上ノ要求ヲ基礎トシ特ニ運動戰ニ重キヲ置キ將來戰ノ推移ヲ洞察シテ敵ニ先ニスル必勝ノ兵器ヲ創造スル爲技術ノ最善ヲ盡スヲ根本義トシ且平戰兩時ニ於ケル整備補給ヲ圓滑容易ナラシムル如ク努ム

二、作戰上特ニ左記諸要望ノ達成ヲ期ス

イ、豫想作戰地ノ地形氣象ニ適合シ其ノ性能ヲ遺憾ナク發揮スルヲ主トスルコト

ロ、構造堅牢、機能良好、取扱簡易ニシテ耐久保存ニ適スルコト

ハ、敵ノ意表ニ出ツル兵器ノ創造ニ努ムルコト

ニ、作戰ノ必要上用途ヲ特定セラレタル兵器ノ研究ニ方リテハ他ノ條件ヲ低下スルモ作戰上ノ要求ヲ十分ニ満足セシムルコト

三、整備補給上特ニ左記諸點ニ留意ス

イ、原料資源及國內工業ノ状態ヲ顧慮スルコト

ロ、經濟的整備及戰時大量調達ヲ容易ナラシムルコト

ハ、日本標準規格品又ハ一般市販品ヲ利用スルコト

ニ、整備ノ緩急ニ即應シ且主兵器研究審査ノ完了ト同時ニ其ノ附屬兵器等ハ一貫シテ完了スルコト

ホ、兵器部品及材料ニ共通性ヲ附與スルコト

四、現制兵器ト雜所要ニ應シ改修ヲ加ヘ前諸項ノ主旨ニ適應スル如ク努ム

五、内燃機關ノ重油化ニ努ム

六、豫想作戰地ニ於ケル特殊事象ノ兵器材料ニ及ス影響ヲ基礎的且徹底的ニ調査シ以テ兵器研究審査上ノ基準ヲ得ルニ努ム

其二 研究要項

第一 銃

<p>項 目</p>	<p>輕 機 関 銃</p>	<p>要 項</p>	<p>十一年式ニ比シ更ニ輕量且操 用便ナル様式ノモノトス 主要諸元左ノ如シ 一、口 徑……六糎五 二、重 量……約八五五ロ 三、ガス利用式 四、箱 彈 倉(三ロ發シ)</p>	<p>摘 要</p>	<p>改 輕易ニ銃身ヲ裝脱 シ得ル如クス</p>
	<p>三年式ト同様式ニテ更ニ輕量 ナルモノトス 主要諸元左ノ如シ 一、口 徑……七糎七</p>				

0394

0395

摘要欄中新、改、現ハ左ノ區分ヲ示ス
新ハ新規ニ追加セルモノ
改ハ現研究方針ヲ改訂セルモノ
現ハ現研究方針ノ通

	<p>戦車(装甲車)用 機関銃</p>	<p>重機関銃</p>
<p>叙傷効力比較的大ニシテ自衛 ニ適スル新様式ノモノトス 主要諸元左ノ如シ</p>	<p>現制ニ比シ更ニ感力ヲ増シ且 給彈様式便ナルモノトス 主要諸元左ノ如シ 一 口径……………七 七 二 重量……………約 二 八 斤 三 ガス利用式 四 箱彈倉兼(ニワ發)</p>	<p>二 重量……………約四五斤(脚銃) 三 ガス利用式 四 床 彈 板(三ツ發) 五 空冷式放熱 六 直接照準用眼鏡附 七 三脚架ハ現制高射花架ヲ 使用シ得ル如ク考慮ス</p>
<p>新</p>	<p>改</p>	<p>新</p>

<p>自動小銃</p>	<p>機関短銃</p>
<p>小銃ニ比シ發射速度ヲ増加シ得ヘキモノトス 主要諸元左ノ如シ 一 口径 …… 六・七五 二 重量 …… 約四・五五 三 ガス若ハ反動利用式 四 鼓狀彈倉若ハ箱彈倉</p>	<p>一 口径 …… 八 七 二 重量 …… 約三・五(彈倉ヲ除ク) 三 彈倉收容數 …… 約三〇發 四 侵徹力 …… 五〇〇米ニ於テ防禦服着用ノ兵員ヲ殺傷シ得...</p>
<p>改</p>	<p>新 現制十四年式拳銃突色ヲ使用スルモノトス</p>

第二火砲		項目	摘要	項目	摘要
二十糎対戦車砲			<p>輕量且採用傾ナル近距離用対戦車火器トス 主要諸元左ノ如シ 一重 量……約四〇磅 二徹甲威力……約三〇〇米ニ於テ 一五糎特殊装甲板ヲ貫通シ得 三運動様式……一馬駄載</p>		新
	<p>野戦ニ於テ対空ヲ主トスルモノトス 主要諸元左ノ如シ 一初 速……約九〇〇米 二重 量……前車約四五〇磅 後車約七五〇磅</p>				五

<p>三十七挺高射機関銃</p>	<p>二十挺高射機関銃</p>
<p>現制対戦車銃ニ比シ更ニ威力</p>	<p>三射 界 方向 三六〇度 高限負五度—正八五度 四磁 力 高度約二〇〇〇米以下 飛行機ニ対シ効力ヲ 期待シ得ルモノトス 五運動様式 被牽引式ニ斷繫奪 取駄載ノ各様式ニ就 キ研究ス</p>
<p>約六〇〇米 約三、五〇〇米 約五、〇〇〇米 一分一〇〇發以上</p>	<p>六 駄載ノ場合ニハ砲索ノ 型式ヲ異ニスルモノトス (威力等ハ同シ)</p>

四十七糎対戦車砲

四十七糎高射砲

ヲ増大スル新様式ノモノトス
主要諸元左ノ如シ

一、初速……………約八〇〇米

二、徹甲威力……………約一〇〇〇米ニ於テ

二五糎特殊装甲板
ヲ貫通シ得

三、放列砲車重量……………繋駕 約六〇〇キ

牽引車 約八〇〇キ

四、砲架……………運動様式ニ適スル

二様式ニ就キ研究ス

五、運動様式……………二馬繋駕及牽引

車ニ依ル

近代の照準具ヲ有スルモノト

ス
主要諸元左ノ如シ

一、初速……………約八〇〇米

二、有効最大射高……………約五〇〇〇米

新

新

七

<p>五種七戰車砲</p>	<p>歩兵大隊砲</p>
<p>三、放射砲車重量……約一噸 四、運動様式……牽引車ニ依ル</p> <p>現制火砲ヨリ一層操用便ニシテ構造機能ヲ向上スル如ク研究ス</p>	<p>現制ノモノニ比シ輕易ナル大隊砲ニシテストークブランレ砲類似ノモノニ就キ研究ス 主要諸元左ノ如シ</p> <p>一、口径……約八〇mm 二、重量……約三三〇kg 榴彈……約六七〇g 大榴彈……約三三〇g 三、射程…… 最大……約三三〇m 大榴彈……約二二〇m 榴彈……約二〇〇m 最小……約六〇m 大榴彈……約六〇m 四、放射筒重量……約六五kg 五、運動様式……車載駆動又ハ人力搬送</p>
<p>新</p>	<p>新</p>

<p>七 種 半 騎 砲</p>	<p>自 走 式 戦 車 支 援 砲</p>	<p>歩 兵 聯 隊 砲</p>
<p>現 制 野 戰 高 射 砲 ニ 代 ル ヘ キ 新</p>	<p>火 砲 ニ 付 研 究 ス</p> <p>戦 車 隊 ト 行 動 ヲ 共 ニ シ 火 力 ニ 依 リ 直 接 支 援 ニ 任 ス ル 自 走 式</p>	<p>現 在 裝 備 セ ル 四 一 式 山 砲 ニ 代 ル ヘ キ 新 様 式 ノ モ ト ス</p> <p>主 要 諸 元 左 ノ 如 シ</p> <p>一 口 經……………七五 粧</p> <p>二 有 効 射 程……………三〇〇〇 米</p> <p>三 方 向 射 界……………四〇 度</p> <p>四 放 射 砲 車 重 量……………約 四 五 〇 一 五 〇 〇 斤</p> <p>五 運 動 様 式……………二 馬 繫 駕</p>
<p>九</p>	<p>新</p>	<p>新</p> <p>砲 身 構 造 砲 架 相 互 間 ノ 分 解 就 キ テ 考 慮 ス</p>

父
岩
井
定
房

<p>十五糎榴彈砲</p>	<p>七糎半新高射砲</p>
<p>現制ノモノヨリ威力ヲ増加シ 單一総車被牽引式トス 主要諸元左ノ如シ</p> <p>一射 界 方向 三〇度 高低負五度—正六五度</p> <p>二最大射程……………約一二〇〇〇米</p> <p>三放射距離重量……………約四趣ニ〇〇</p> <p>四威力大ナル新彈藥ヲ研究 スル外四年式十五糎ノ彈 丸ヲモ併用シ得ル如クス</p>	<p>様式ノモノニシテ操用便且威力 カヲ増大セルモノトス 主要諸元左ノ如シ</p> <p>一初 速……………約七五〇米</p> <p>二有効最大射程……………約九〇〇〇米</p> <p>三放射距離重量……………約三 趣</p> <p>四運動 動 性……………最大時速約四五料</p>
<p>廠</p>	<p>廠</p>

<p>十五種右農</p>	<p>二十四種榴彈砲</p>
<p>現制ニ比シ威力ヲ増大セル新 様式ノモノトス 主要諸元左ノ如シ</p> <p>一射 界</p> <p>方向 約一三〇度(軌條ヲ 追和セハ三六〇度) 高低 負五度—正四五度</p> <p>二最大射程……………二五、〇〇〇米以上</p> <p>三發射車重量……………約二七 廻</p> <p>四運動様式……………各車約二廻ノ 三車ニ分解シテ 牽引車ニ依ル</p>	<p>現制ノモノヨリ威力ヲ増大シ 運搬据付ヲ便ナラシメタル新 様式ノモノトス 主要諸元左ノ如シ</p> <p>一彈 量……………約二〇〇発</p> <p>二射 界 方向 約一二〇度</p>
<p>新</p>	<p>二</p>

<p>四十一種榴彈砲 改正</p>	<p>二十四種列車砲</p>	
<p>現有試製砲ヲ補修シテ一層操 用ヲ便ナラシム</p>	<p>左記火砲ニ就キ研究ス 一、九〇式二十四種列車砲 車軌及廣軌台車並砲身内 管交換ノ整備 二、新様式二十四種列車砲 （前項ノ火砲ニ改良ヲ施 セルモノ）</p>	<p>高低〇一正六五度 三、最大射程……約一四〇〇〇米 四、發射重量……約三七噸 五、運動様式……砲車八一車約十二 噸ノ三車ニ分解シ 砲床ハ三車積被牽 引車六輛ニ分載シ 牽引車ニ依ル</p>
<p>新</p>	<p>改</p>	<p>改</p>

五
等
兵
器
の
改
正
と
新
製
の
情
況
を
示
す

<p>直 迫 撃 砲</p>	<p>中 迫 撃 砲</p>
<p>現制ニ比シ威力ヲ増大セルモノトス 主要諸元左ノ如シ 一 口径……………三〇五 発 二 弾量……………約三四五 発 三 射程……………最大……………約四〇〇 米 ……………最小……………約一〇〇 米 四 放射回数……………約二一 発 五 運動様式……………十二発及九発</p>	<p>新様式ノモノトス 主要諸元左ノ如シ 一 口径……………一五〇 発 二 弾量……………二四五 発 三 型式……………有翼種先込式 四 射程……………最大……………約四〇〇 米 ……………最小……………約八〇 米 五 放射回数……………約八 発 六 運動様式……………車載及取載</p>
<p>新</p>	<p>新</p>

一三

0407

ノ二車ニ分解シ
テ牽引車ニ依ル

18

第三 彈丸	
項 目	完 成 法 ノ 改 正
要 項	<p>一、各種火砲ノ彈丸ニ就キ現在ノ手工業的ノ方法ヲ多量生産的ノ方法ニ改メ勤員時及戰時要求ニ適セシム</p> <p>二、危害豫防及快用ニ便スル為彈藥ノ用途・彈量區分・藥勢區分・製作區分ヲ明瞭ナラシム</p>
摘 要	略

第四 火 具			
項目	要	項	摘 要
著 敏 發 性 大 ナ ル 管	小 落 角 ニ 於 テ モ 完 全 ニ 作 用 シ 不 發 ナ キ モ ノ ヲ 研 究 ス	東 火 射 程 ヲ 増 大 ス ル 為 東 火 秒 時 五 秒 ヲ 至 六 秒 ニ シ テ 且 瞬 發 機 能 ヲ モ 有 ス ル モ ノ ヲ 研 究 ス	新
長 秒 時 東 火 瞬 發 信 管	資 源 關 係 ヨ リ 黃 銅 以 外 ノ 地 金 ヲ 用 ハ ル 線 莖 ヲ 研 究 ス	新	新
代 用 地 金 線 莖 葉 莖	燃 燒 ニ ヨ リ 十 倍 瓦 斯 ヲ 放 射 ス ル 毒 煙 筒 ニ シ テ 左 ノ 二 種 ト ス	新	新
毒 煙 筒	小 重 量 約 二 兩	大 重 量 約 一 兩	新

0411

項	第六 射表及彈道	項
目		要
要		項
		橋
		要

二

重 戦 車		項 目	第七 戦車及自動車	
		要	項	摘
		<p>作戦上ノ要求ニ基キ現行方針 ヲ修正シ武裝及裝甲板ノ厚サ ヲ変更シ、從テ重量ヲ増加ス 主要性能左ノ如シ</p>		
一、	全重量	約 二六 噸		
二、	最大速度	二二 浬		
三、	超越シ得ル壕幅	約 三米〇〇		
四、	全長	約 六米五〇		
五、	幅及高	其俣内地鉄道輸		
		送ニ支障ナキヲ目途トス		
				改

<p>六、裝甲板ノ厚サ 最大三五糎</p>	<p>七、敵裝 七煙砲 一 三十七糎砲 一 車載機關銃 二</p>	<p>八、携帶彈藥數 糧 砲 彈 七糎砲一〇〇発 三十七糎砲三五〇発 銃 彈 六〇〇〇発</p>	<p>九、攀登シ得ル傾斜 三分ノ二</p>	<p>十、運行範圍 十時間以上</p>	<p>十一、軌道装置 全裝軌</p>	<p>十二、熱帯地ニ於ケル使用ヲ顧慮ス</p>
-----------------------	------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------	-----------------------	---------------------	--------------------	-------------------------

中
戦
車

<p>八九式二代ルヘキ主力戦車トス 主要性能左ノ如シ</p>						
乗員	超越壕幅	最大速度	装甲	武装	重量	
四名	約 廿五米 <small>二米五〇</small>	路上約 三五料 路外二料以上	甲 三七糎級対戦車砲二近距離ニ於テ對抗スヲ目途トス	武装 機関銃二(内塔砲) 固定機関銃一	約 二三噸 <small>五種七</small>	第一案
三名	約 廿四米 <small>二米四〇</small>	路上約 二七料 路外一〇料以上	甲 三七糎級対戦車砲ト中距離ニ於テ對抗スヲ目途トス	武装 機関銃二(内塔砲) 固定機関銃一	約 一〇噸 <small>五種七</small>	第一案
規						

水陸戦車

上陸及渡河掩護、架橋支援、偵察ニ供スル水陸両用戦車トス
主要性能左ノ如シ

1 重量 約五吨半

2 速度 地上四〇ノ料

水上約一ノ料

3 武装 三十七粒砲一

車載機関銃一

4 装甲 最大十二粒

5 乗員 三名

改

新軽装甲車

		九四式軽装甲車ノ武装ヲ変更シ機関ノ馬力及踏外運動性ヲ増大シ、独立軽装甲車隊用及軽戦車隊ノ偵察指揮用ニ適スル車輛トス	
主要性能	左ノ如シ		
重量	約三吨半		
武装	七糎七車載機関銃一		
装甲	又六 三十七糎砲 一 七糎七 徹甲実包二杭		
速度	堪スルヲ目途トス 約四十五料		
馬力	約六		
		改	

<p>新牽引自動貨車</p>	<p>機械化歩兵車</p>
<p>新野戦高射砲用トシテノ路外運動性ヲ増大セル新様式トス 主要性能左ノ如シ 一、半裝軌式トス 二、牽引重量 約三噸半 三、速度 約四十五料</p>	<p>機械化歩兵搭載用トシテ車体ニ簡易ナル装甲ヲ施シタル自動車トス 主要性能左ノ如シ 一、搭載人員 武装兵十五名 二、運動能力 路上^五料以上トシ優秀ナル路外性ヲ有セシム 三、必要ニ應シ軽(重)機関銃ノ車ト射撃ヲ可能ナラシム 四、様式 四輪起動トス</p>
<p>新</p>	<p>新</p>

<p>観測挺進車</p>	<p>小口径砲搭載車</p>
<p>挺進班用人員器材ヲ搭載シ車上延線可能ナル小型裝軌車トス 主要性能左ノ如シ 一、新輕裝車ト同様式車体ヲ應用ス 二、乗車人員 六名 三、重量 約三噸 四、速度 卅料以上</p>	<p>九四式三十七糎砲又ハ二十糎機關砲ヲ搭載又ハ牽引シ車上射撃ヲ爲シ得ル裝軌車輛トス 主要性能左ノ如シ 一、全備重量 約四噸 二、速度 卅料以上</p>
<p>新</p>	<p>新</p>

三〇

0420

<p>十三吨牽引車用重油機関</p>	<p>新五吨牽引車</p>
<p>九五式十三吨牽引車ニ装備スルモノトス 主要性能左ノ如シ</p> <p>径 一四〇糎</p> <p>衝程 一九〇糎</p> <p>出力 二〇〇回轉ニテ二四〇馬力以上</p> <p>最大回轉 一、四〇〇</p> <p>冷却方式 氷冷</p>	<p>踏外運動能力ヲ改善シタル新様式トス 主要性能左ノ如シ</p> <p>一、十加及十五榴牽引ヲ主目的トス</p> <p>二、重量 約五吨半</p> <p>三、速度 二一四料</p> <p>四、重油機関ヲ装備ス</p>
<p>改</p>	<p>新</p>

三一

0421

各種重油機関

各種内燃機関車輛ヲ重油化ス
此為 重油機関ヲ研究ス

新

三三

第八 輜重車輛、乘鞍駄馬具 ^及 職工具	
項目	要
二馬曳輜重車	現制九〇式乘車二馬曳輜重車 二比シ一層堅牢且運動性大ニ シテ最大有積載量ヲ四五〇 迄トシ主トシテ大行季及師團 輜重ニ適セシムルモノトス
新	摘要

三三

第九 近接戦闘器材			
項目	要	項	摘
電流鐵條網器材	電流鐵條網ノ探知及排除用並設置用ノモノニ付研究ス		新
爆薬投擲機	破壊筒若ハ爆薬ヲ投擲シ鐵條網或ハ側防機能ヲ破壊スルモノニシテ其ノ投擲距離ハ約三ロツ米トス		新
破壊筒挿入機	噴進式ニ依リ突撃陣地ヨリ破壊筒ヲ挿入シ深サ各一ツ米ノ二帶鐵條網ヲ同時ニ破壊シ得ルモノトス		新

0424

携
行
破
壊
具

種
ト
ス
隱
密
破
壊
具
及
強
行
破
壊
具
、
二

敵

三六

第十 化學戰鬥器材

項 目	防 毒 面	輕 (全)防 毒具	防 毒 覆
要	一 現制ニ比シ一層簡易輕量化 シ戰鬥能力ヲ増大シ得ル如 キ防毒面トス 二 特種用途ノ防毒面	撒毒地ノ強行通過ニ適スル防 毒具(輕)及撒毒地内特種任 務者ノ裝用ニ適スルモノ(全) トス	瓦斯兩下ニ對シ人馬ヲ各個ニ 防護シ得ル覆トス
項 摘 要	改	改	新

検知器材	撒消毒器材
シ得ヘキ斥候用、 他特種検知器トス 戦場ニ於テ容易ニ瓦斯ヲ検知	撒毒車又消毒車 現制ノ撒車又消毒車ニ代ルヘキ 自走式ノモノニ付研究ス
改	改

<p>坑道掘進機</p>		項	<p>第十一 坑道器材</p>
		目	
<p>1. 概ネ小本坑道級ノモノヲ毎時五米以上ノ速度ヲ以テ掘進スルモノトス</p> <p>2. 概ネ大枝坑道級ノモノヲ毎時五米以上ノ速度ヲ以テ掘進スルモノトス</p>		要	<p>動力ニ依リ坑道ノ迅速掘進ヲ行フセノニシテ次ノ二種トス</p>
		項	
<p>三九</p>		摘	<p>要</p>
		要	

		第三 爆破器材	
項目	要	項	摘
吸著爆雷	<p>對戰車爆破器材</p> <p>一、戰車手爆彈 肉薄攻撃ニ適シ戰車各部ニ對シ密著容易ナルモノトス ニ、自動戰車地雷 設置容易發見困難ニシテ其ノ威力ハ戰車ノ履帶ヲ破壊シ得ルモノトス</p> <p>特種火點ノ銃眼（砲門）ノ鐵扉ニ容易ニ吸著シテ之ヲ爆破セシムルモノトス</p>	新	新
			要

<p>第十三 渡河器材</p>	
<p>項目</p>	<p>駄載式渡河器材</p>
<p>要</p>	<p>一 駄載式折疊舟 漕渡並機航用折疊舟トシ單舟 ノ場合舟手三名ノ外武装兵約 廿名ヲ、三舟門橋トスルトキ 現制野砲ヲ搭載シ得ルモノトス 二 駄載式操舟機 駄載式折疊舟ニ裝著シ機航ニ 使用スルモノトス 主要諸元左ノ如シ 1. 自重 約三五匁 2. 發動機出力 約七馬力</p>
<p>項</p>	
<p>摘</p>	<p>略</p>
<p>要</p>	

田川

入河機航器材

一 曳舟

台車 = 積載牽引車 = テ運行シ

得ルモノト ~~ス~~ 主要諸元左ノ如シ

1. 主要諸元左ノ如シ 全重量 約三吨

2. 曳航量 甲車載式鉄舟隻

3. 曳航速度 毎時約一〇料

二 指揮艇

機航部隊ノ指揮用ニシテ鞆重

車若ハ自動貨車ニ積載運搬シ

得ルモノトス

主要諸元左ノ如シ

1. 航速 毎秒約八米

2. 舟艇型式 折疊式三節舟

三 裝甲艇

改

新

新

司

司

首ノ

氏

氏

氏

支那

宮崎縣都城市天神町三三六二番地ニ

86

重渡河器材

台車 = 積載牽引車 = テ運行シ
得ルモノトス
~~主要諸元左ノ如シ~~

- 1. 全重量 約四噸半
- 2. 武裝 要部ハ裝甲シ
重機一ヲ附ス

大河ノ敵前渡河用特種門橋ニ
シテ各部材料ハ輜重車運搬可
能結構迅速戰車其他重資材ノ
乗船上陸容易ナルモノトス

主要諸元左ノ如シ

- 1. 二舟門橋 七噸級戰車及軸
圧五噸以下車輛用
- 2. 三舟門橋 十四噸級戰車及軸
圧九噸以下車輛用

兼

	<p>機械化兵團 渡河器材</p>	
<p>鐵道橋ノ迅速修理用ニシテ左 記器材ヨリ成リ分解結合容易 且自動貨車ニ積載運搬シ得ル</p>	<p>機械化兵團ヲ迅速ニ渡河セシ メ得ルモノトシ自動貨車ニ積 載運搬ス 主要諸元左ノ如シ 1. 橋脚 架柱及桁疊舟 2. 橋床 長約七米ノ鉄桁 3. 門橋 十四噸級戰車用</p>	<p>3. 航 速 毎秒約三米 約四マ馬力 4. 操舟機 各舟ニテ附ス</p>
<p>改</p>	<p>新</p>	<p>四六</p>

新式渡河器材

鐵道架橋器材

モ ノ ト ス	一 橋 桁	最 大 張 間 三 二 米 以 下 ノ 各 種 張 間 = 於 テ 廣 軌 重 列 車 ヲ 通 過 セ	シ ム	二 橋 脚	右 橋 桁 ノ 負 擔 = 堪 フ ル 固 定 橋	脚 ト ス	三 架 設 用 器 材		
最 初 輕 列 車 ヲ	通 シ 得 ル 程 度	= シ テ 輕 易 ナ	ル 橋 梁 ヲ 架 設	シ 爾 後 其 ノ 運	轉 ヲ 中 止 ス ル	コ ト ナ ク 重 列	車 ヲ 通 過 セ シ	ム レ 程 度 = 補	強 ス

0434

第十四 特種交通器材	
項 目	要
森林通過器材	<p>中径二〇糎乃至四〇糎ノ森林 内ニ一時間ニ乃至四料ノ速度 ヲ以テ車馬道ヲ開設スル各種 器材トス</p> <p>一 一 蒸開車</p> <p>裝軌車輛ニシテ最先頭ヲ蒸 進シテ樹木ヲ壓倒蹂躪シ以 テ急遽徒歩部隊ノ通路ヲ開 設スルモノトシ全備重量約 一五噸トス</p>
項	摘
要	要

四九

0435

<p>断崖通過器材</p>	<p>濕地橋</p>	
<p>高約五〇米ノ断崖ニ武装徒步兵ヲ攀登セシメ又ハ單位荷重一〇〇斤以下ノ物料ヲ引揚ケ</p>	<p>十五種榴彈砲(脱駕)以下ノ繫駕車輛及馬匹ノ通過ニ堪フルモノトス</p>	<p>ニ 伏掃車 裝軌車輛ニシテ蒸氣車直後ノ蹂躪地帯ヲ伏掃補修シ馱馬或ハ輜重車輛ノ通過ヲ可能ナラシムルモノニシテ全備重量約一〇〇飛トシニ飛起重機五飛「ウインチ」ヲ有ス</p>
<p>新</p>	<p>新</p>	<p>新^五</p>

新五

0436

得ルモノニシテ馱載若ハ輜重
車載運搬トシ全重量約七
トス

0437

第十五 通信器材		項目	摘要
電	多重電話機	一、野戰及兵站電信隊用 野戰建築裸線若ハ半永久架空 線ニ使用シ野戰建築裸線ニテ 通達距離三〇〇料トシ轆重車 ニ依リ運搬スルモノトス 主要諸元左ノ如シ	一、野戰及兵站電信隊用 野戰建築裸線若ハ半永久架空 線ニ使用シ野戰建築裸線ニテ 通達距離三〇〇料トシ轆重車 ニ依リ運搬スルモノトス 主要諸元左ノ如シ
話	多重電話機	1. 方式 搬送式ニ重通信 2. 全重量 約六〇〇g ニ、要塞用 海底線及半永久線ニ使用スル	1. 方式 搬送式ニ重通信 2. 全重量 約六〇〇g ニ、要塞用 海底線及半永久線ニ使用スル

五三

第六大隊
 特務隊兵
 步兵伍長 田嶋正孝 三三五
 支那 戰死
 群馬縣甘樂郡小野村大字上高尾六六番地
 田嶋正孝
 9666

器

秘密電話機

ニ適シ電源ハ一〇〇ボルト交流
流又ハ蓄電池及乾電池トス

一、特ニ號電話機

通信線路ノ中途ニ於テ窃聽セ
ラルルモ内容ヲ理解シ得サル
電話機トス
重要諸元左ノ如シ
重量 二〇〇グラム以内

2、通信距離 九三〇米被覆線一〇〇米

二、特ニ號電話機

一般電話通信ノ窃聽ヲ防クタメ普
通ノ電話機ニ附加シテ線路電流
ヲ秘密化シ得ルモノトス
主要諸元左ノ如シ

改

54 電報機、電話機、無線機、留聲機、蓄電池、乾電池、蓄電池、乾電池、蓄電池、乾電池

材	電 信 器	材
多重電信機	印字電信機	
<p>野戦建築裸線ヲ使用シ四〇〇料ノ通信ヲ實施シ得ルモノトス</p> <p>1. 重量 一〇〇 ㊦</p> <p>2. 電源 乾電池</p> <p>3. 運搬法 駄載</p> <p>註 野戦建築裸線ヲ使用シ得ルモノトス</p>	<p>1. 通信距離 現制現字機ト同等上</p> <p>2. 通信速度 毎分約七〇字以上</p> <p>3. 重量(電源共) 約一〇〇 ㊦以内</p> <p>註 印刷シ得ルモノトス</p>	<p>1. 重量 一〇〇 ㊦以内</p> <p>2. 通信距離 九一式小被覆線四料</p> <p>打鑲 = 依リ相手局 = 假名字ヲ</p>
改	改	

五五

材	器	築	建
延 線 車	<p>装軌式延線作業用車輛 主要諸元左ノ如シ</p> <p>1. 車 体 九四式輕裝車車体</p> <p>2. 延巻線速度 毎時一二料以上</p> <p>3. 線積載量 <small>ニ料(九式裸線若九)</small> <small>ニ料(三系被覆線)</small> <small>五料(大被覆線)</small></p> <p>4. 乗車人員 運轉手共四</p>	植 柱 車	<p>装軌式植柱作業用車輛 主要諸元左ノ如シ</p> <p>1. 車 体 九四式輕裝車車体</p> <p>2. 穿孔速度 凍結地 毎時四料分以上 其ノ他 毎時六料分以上</p> <p>3. 電柱積載量 四料分</p> <p>4. 乗車人員 運轉手共六</p>
改		改	

<p>暗 號 機</p>	
<p>部隊用及高等司令部用ノ二種トス 一 部隊用 主要諸元左ノ如シ 1. 重量 五〇斤以内 2. 運搬法 馱載 二 高等司令部用 暗號ノ硬度大ナルモノトス 其 主要諸元左ノ如シ 1. 重量 一〇〇斤以内 2. 運搬法 馱載</p>	<p>左記ノ二種ニ付研究ス 1. ニ心入 重量大被覆線程度</p>
<p>成</p>	

多心被覆線

線長	五〇〇米
地上敷設用トス	
2. 四心入	
線長	一〇〇〇米
地上敷設用トス	

六 畝

第十六 鐵道器材

項 目	要	項 橋 要
鐵道牽引車	<p>應急運轉、修理、建設等ニ使用スル為軌道上ニ於テハ輕機関車トナリ所要ニ際シテハ軌道外ニ出テ自動貨車トシテ走行シ得ルモノトス</p> <p>主要諸元左ノ如シ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 牽引列車重量 約一五〇噸 2. 軌道外積載重量 約一〇噸 3. 軌 間 一米〇六七 一三四三五 一五二四 	<p>新</p>

五九

第一臨時自動電氣鐵道重慶至綏山 山下 勝 二三二二 及 那 瀾 洲 國 奉 天 省 錦 山 市 南 四 條 七 一 五

<p>破壊用器材</p>	<p>急造廣軌牽引車</p>
<p>長距離ノ軌道ヲ毎時一五料以上ノ速度ヲ以テ迅速且大規模ニ連續破壊シ得ルモノトス</p>	<p>軌道上ニ於テハ輕機關車トナリ所要ニ際シ軌道外ニ出テ自動貨車トシテ走行シ得ル如ク普通ノ自動貨車ニ所要ノ装置ヲ附加スルモノトス</p> <p>主要諸元左ノ如シ</p> <p>1、牽引列車重量 一五乃至三〇噸</p> <p>積載量 一〇乃至二〇噸</p> <p>2、軌道外積載重量 一乃至二噸</p> <p>3、軌 間 一米四三五</p>
<p>新</p>	<p>新</p>

六〇

0445

項

目

要

項

摘

要

第十七 機力器材

ホ

第十八 氣球器材		項	防空氣球
		目	
摘要		要	敵飛行機ノ來襲ヲ阻止スル爲 大高度大風速ニ堪ルモノニ 就テ研究ス
		項	新
摘要		摘	
		要	

第十九 土工器材

項 目 要 項 摘 要

凍土掘開器材

凍結地ニ於テ散兵壕、交通壕等ヲ掘開スル際凍土ノ掘起ニ使
用スルモノニシテ臂力ニ依ル
モノ及動力ニ依ルモノノ二種トス
一、臂力ニ依ルモノ
個人用携帯工具ニシテ特ニ敵
前作業ニ適スルモノトシ重量
ハ約一担半トス
二、動力ニ依ルモノ
裝軌自走式ニシテ隨所ニ移動

敵

0448

シテ作業ヲ實施シ得ルモノト
シテ掘開速度毎時約四料以上ト
ス

六六

明治三十二年三月

第二十 照 明 器 材		項 目	要	項 目	近 距 離 用 探 照 燈
			第一線ニ於ケル近距離照明用 ニシテ一人手廻發電機ヲ有シ 輕快ナル運動ニ適シ且一駄馬 ニ組駄載シ得ルモノトス 主要諸元左ノ如シ 1. 及射鏡中徑 三〇種 2. 及射光度 五〇萬燭光以上		
				摘 要	改

第二十一 測量器材

項 目	要 項	摘 要
戦場測量器材	<p>主トシテ野戦測量隊用ノ器材ニシテ左記各種ノモノニ付研究ス</p> <p>一、凶根點ヲ精密迅速ニ編成シ得ルモノ</p> <p>二、空中寫真ニ依リ簡易ニ敵陣地附近ノ測図ヲ爲シ得ルモノ</p> <p>三、空中寫真ヲ用ヒ基準點ヲ精密ニ決定シ得ル空中三角測量器材</p> <p>四、新方式ニ依リ空中寫真ヲ處理シ迅速正確ニ地形原図ヲ作成スヘキモノ</p>	效

第二十二 警備器材

項 目	要 項	摘 要
空中聴音機	次ノ如キ空中聴音機ヲ研究ス 一、小型軽量組立分解容易ニシテ 聴測ノ精度良好聴音距離大ナルモノ 二、監視用トシテ極メテ簡易ニシ テ肉耳ニ比シ聴音距離大ナル モノ	改
水中聴音機	海岸ノ警戒並射撃用ノモノヲ 研究ス	改

第二十三 寫真器材

		項 目	項 要	摘 要
望遠寫真機	空中測量用寫真機	戰場ニ於テ地形図ヲ迅速ニ調製シ得ル爲ノモノニシテ短焦点多鏡式 ^在 ト爲シ廣地域ノ撮影ヲ可能ナラシムル如ク研究ス	自動車式トシ遠大距離ヨリ寫真偵察ヲ行フ爲ノモノニシテ其主要性能ハ焦点距離五米以上數十料ニ亘ル寫真偵察ヲ可能ナラシムル如ク研究ス	新
				新

七三

		第二十四 氣象器材	
	高層氣象觀測具		
	航空、砲兵射撃及天候判断ノ 爲高層ニ於ケル風向、風速、 氣圧、氣温及濕度等ヲ簡易ニ 測定シ得ル觀測具ヲ研究ス	要	項
	改	摘	要

歩兵伍長 田 嶺 正 孝 三三五 戦死
 田 嶺 福 松 89661

0454

砲 兵 情 報 要 具		項 目	第二十五測 機	
		要		
敵情搜索並目 標々定要具	主トシテ砲兵情報要具トシテ 遠大ナル距離ニ於ケル敵情搜 索 ^及 精確ナル目標々定ヲ可能 ナラシム 主要性能左ノ如シ 一、大觀測鏡 一、潛望高 ^二 八 ^八 米 自動車牽引式 同光通信装置ヲ附ス 2. 潛望高 ^{一五} 米 輓馬牽引式	項	摘	要
			改	

七七

砲 兵 情 報 要 具

三、音源標定機

1. 砲兵情報班用

輜重車七車輻ニ分載シ得ルモノ

六受音所式

2. 一般砲兵部隊用

自動車二輛又ハ三駢繋駕車輻一車ニ

積載シ得ルモノ

三受音所式

三、火光標定機

瞬間目標特ニ火光ヲ迅速ニ標定シ得ルモノ

四、寫真標定機

砲兵情報班及重砲隊用

焦点距離二米

画角小密位

砲兵情報要具

五、斜寫眞座標標定機

斜寫眞ヨリ迅速且容易ニ平
面座標^{及標}高ヲ決定シ得ルモノ

六、空地標定機

飛行機觀測ニ依リ目標ノ方
向及距離ヲ附與スル場合精
確ニ諸元ヲ測定シ得ルモノ

野 戰 高 射 砲 用 指 揮 具
<p>野戰高射砲用指揮具</p>
<p>野戰高射砲用トシテ航空目標ニ射スル射撃諸元ノ測定並算定ノ用ニ供スル指揮具トス</p> <p>主要性能左ノ如シ</p> <p>一、算定具ハ分速度式ニシテ水平位置ニ應スル射撃諸元ヲ電氣的ニ砲側ニ傳達シ得ルモノ</p> <p>二、火砲照準具ハ算定具ノ使用不可能ナルトキ直ニ機械照準ニ移行セシムル如ク</p> <p>三、測高機ハ機内基線立体視式トシ基線ニ米及三米トス</p> <p>四、全指揮具ハ高射砲牽引車ト同一運動性ヲ與ヘ(算定具本体ノ重量約四五百キログラム)約八名ヲ以テ操作セシム</p> <p>五、二十粒級機関砲用トシテ連續的ニ航速航路角又ハ分速度ヲ測定シ得ルモノニ研究ス</p>
<p>改</p>

具	指	撃	射	空	對
要地用指揮具					
<p>要地防空ニ任スヘキ高射砲用 指揮具トス</p> <p>主要性能左ノ如シ</p> <p>一、算定具ハ七糎級以上ノ高射砲用ノ モノハ野戰用ノモノト略、同様ノモノヲ 使用スルモ四十糎級用トシテハ更ニ 輕量ナラシメ本体ノ重量約^{三〇}キロ 操作人員約八名トス</p> <p>二、測高機ハ三十七糎級ノモノニハ基線 二米ヲ採用スルモ七糎以上ノ火砲 ニ對シテハ四米以上ノモノヲ研究 シ現在ノ二米ノモノニ比シ更ニ精度 ヲ向上ス</p>					
海					

海軍省 防務局 公 76

對空射擊指揮具	
海上用指揮具	無照射射擊 指揮具
<p>運送船上ヨリスル高射々撃ニ使 用スルモノニシテ要地用ノモノニ準スルモ 船ノ動搖ノ影響ヲ防止スル如ク研究ス</p> <p>夜間又ハ濃霧等ニ於テ飛行機ニ對 シ照空燈ヲ用フルコトナク射撃ヲ実施 シ得ル指揮具トス</p> <p>主要性能左ノ如シ</p> <p>一、聽音機、夜間眼鏡及算定具ヲ電氣 的ニ連絡シ晝間ト同様ノ射撃ヲ実 施セシメ得ルモノ</p> <p>二、聽音機及算定具ヲ電氣的ニ連絡シ 全ク目標ヲ見ルコトナク射撃ヲ実施 セシメ得ルモノ</p>	<p>新</p>
<p>新</p>	<p>新</p>

<p>海射撃指揮具</p>	<p>高射砲自動操縱装置</p>
<p>改造十五糎加農砲台用</p>	<p>要地防空ニ於テ砲ノ操法ニ使 用スル人員ヲ極度ニ減少シ而 モ射撃精度ヲ増加スル爲算定 具及測高機ニテ目標ヲ追隨照 準スルトキハ電動機ノ力ヲ以 テ砲ニ未來位置ノ射角及方向 ヲ附與シ得ル装置ニ付研究ス</p>
<p>測遠機縦速計射撃板夜間射撃 具其他射撃指揮ニ必要ナル要 具ニ付研究ス</p>	<p>新</p>
<p>改</p>	

0461

極秘

第十七回陸軍部議事録

昭和十二年五月三日
陸軍部議事録

第十七回陸軍軍需審議會議事録

一、日 時

昭和十二年五月三日午前八時三十分開會

同 年五月三日午前十一時三十分閉會

二、場 所

陸軍技術本部

三、議 題

第一 九四式六輪自動貨車假制式制定ノ件

第二 九五式野砲假制式制定ノ件

第三 陸軍技術本部兵器研究方針改訂ノ件

四、出席者左ノ如シ

0462

同	同	陸軍造兵廠總務部長	同	陸軍科學研究所第一部長	同	同	同	同	同	陸軍航空技術研究所	陸軍航空本部總務部長	委員長	會長
技術部長	作業部長	平田健吉	第二部長代理	尾藤加勢士	第三部長	第二部長	第一部長	岡部直三郎	岡部直三郎	伊藤周次郎	野正迪	梅津美治郎	陸軍次官
木村弘人	大島		藤村龍治郎	大塚信照	內田莊一	小須田勝造							

五、職掌ノ經過左ノ如シ

陸軍省軍務課長	田中新一
同 戰備課長	長谷川基
同 銃砲課長	菅 晴次
同 機材課長	青木成一
陸軍省軍務局長	後宮 淳
同 兵器局長	木村兵太郎
騎兵 監	飯田貞固
砲兵 監	山 宗武
工兵 代理	加藤 一勝
陸軍省整備課長	内山英太郎
同 整備課員	村上公亮

陸軍省

陸軍省

陸軍省

陸軍省

陸軍省

陸軍省

陸軍省

陸軍省

陸軍省

陸軍省

陸軍省

陸軍軍需審議會委員會議事録

昭和十二年五月三日

於 陸軍技術本部

會

長

それでは之から開會致します。本日は一九四式六輪自動貨車及九五式野砲假制式制定の件に並に一陸軍技術本部兵器研究方針改定の件に就て御審議を願ひたいと存するのであります。先づ屋外に於て九四式六輪自動貨車及九五式野砲の實物に就て當事者から説明を致させますから之を御覽の後に本議場で御審議をお願いしたいと思います。思ひます。

(屋外にて實物に就き説明聴取)

會

長

唯今から會談を再開致します。議決に關係のない委

員には議題を配布して御座いませぬから豫め御諒承を願つて置か
す。それでは議題第一から逐次説明。質疑、意見、決議の順序に議
事を進めたいと思ひます。細部に就きましては幹事長其の他をして
説明致します。

幹事長 申し上げます。本委員会に本日上提致しました議題三
件に就きましては去る四月二十三日當所に於きまして幹事會を開催
致しまして慎重審議の結果議題第一。九四式六輪自動貨車假制式制
定の件は出席全幹事一致致しまして假制式に制定して適當なるもの
と認めためたもので御座います。技術本部に於きまして特に御説明の事
項がありますれば引續いてお願ひしたいと思ひます。終り。

大塚少將 おりませぬ。

會長 議題第一に就て御質疑がありましたら願ひます。

板花 大佐

質問致します。此の車は實際滿洲で實用に使つて見ますと、從來は相當改善する所があると思つて居りましたが、それが最近審査經過の概要の一番終ひにある修正をなされた。その主なる點を簡單にお話して戴きたいと思ふのであります。

説明者

申し上げます。實用上の意見は逐次採り入れて直したのであります。本年年度から整備せられると致しましたならば斯う云ふ風に直したいと云ふ點を取纏めまして此の新しい制式を定めて戴きます時にそれを加味したいと思つてゐる點が色々御座いますので、その點を要點だけ申し上げます。發動機に就きまして、發動機の出力は少しでも増加を致しまして、燃料消費量の方は其の割に減すやうにしたいと云ふので、揮發油を從來は下から上に吸込んで居りましたのを上から下に吸込むやうにしたいと云ふ風に變へる心算で

あります。それからカム軸の軸筒を新設しまして、瓦斯の吸入方式を多少変更致しまして熱効率のよくなるやうにしたい。さう云ふ考へであります。其の他細部に就きましては非常に數が澤山あるのであります。尙送水ポンプの締附の部分から水が漏り易い。又あそこが燒けつき易い云ふやうな點が御座いましたので、あの部分に出ます球軸承を二箇に致しまして、さう云ふ缺點を修正するやうにして居ります。冷却の装置に就きましては、冷却能率をもう少し好くする爲に冷却パイプの製造方式を變へるやうにして居ります。變速機に就きましては變速齒輪室の強度を増大するやうに断面に多少の変更を加へて居ります。常時廻轉齒車といふのが御座いますが、その軸受けが時々故障を起したものでありますからローラーで出来るやうに改正をして居ります。推進軸徑を若干増大致しまして高速

廻轉の場合に振れが起らないやうに修正をして居ります。さう云ふ
 點が主なるもので御座いますが尙其の細部は一覽表に拵へて居りま
 すから之を御覽を願ひたいと思ひます。

板花 大佐

判りました。もう一つ荷匡の積載容積の件でありま

すが、近頃色々ものが澤山種類が増へましたので、もつと荷匡の
 積載面積を大きくして良好なる道路はもつとあの車で能率を上げるや
 うにしたらどうかと云ふことを向ふでよく言つて居りましたが、さ
 うすると今の此の車は騎砲を搭載して行動した場合に床板が随分傷
 むのであります。今のお話では後關其の他は堅々好くなつて居るの
 でありませうが、積載する方面から云つてもう少し澤山のもの積
 むやうに床板の強度を増すことが必要だと思つて居りますが、さう
 云ふ面積を廣げるやうなことはありませぬか。

説・明 者

それに就て申し上げます。床板の面積を廣く致しますのは此の制式になりましたものの修正型と云ふやうな方法で、さう云ふものを採用して載いたらどうかと考へて居りますので、實は牽引自動貨車。高射砲を牽引するに使つて居ります牽引自動貨車が大陸之と同様でありまして、唯今御説のやうな點を修正した車になつて居ります。その牽引自動貨車の場合には砲手を載せる爲に構造を變へる必要が御座いまして、大銃車軸距離は三十種延びて居ります。それに應じます爲に變速機を大きく致しました。尙補助鋼絲繩を附ひまして高射砲を引張るばかりでなく第一線部隊の特殊の目的に使ひます貨車として能率を十分發揮出来るやうな構造に致して居りますので、最近自動車の床面積を増大した保護自動車と大銃荷匡の面積が一致するやうな構造になつて居ります。それで本日議題に上つ

て居ります九四式六輪自動貨車と致しましては荷匡の小さい型が上申をして御座いますが牽引自動貨車といふ構式に致しまして其の荷匡の面積の大きいものにして戴いたら宜しいと云ふ考へであります。

會長 外に御質疑はありませぬか、……………御質疑がなければ御意見をどうぞ。……………別に御意見がなければ議題第一を決議したいと思ひます。……………御異存がないやうでありますから議題第一は之で決議を終ることに致します。次は議題第二。

幹事長 申上げます。議題第二、九五式野砲假制式制定の件に就きましても幹事會に於きまして慎重審議の結果出席全幹事一致

假制式に制定して適當なるものと認めためたもので御座います。技術本部に於きまして特に御説明の事項があればお願い致します。

小須田少將 技術本部に於きましては幹事の諸官から委員の諸官

に御報告になつてゐるさ云ふことでありまして特に申上げることはありません。

會 長 尙御質疑がありましたならば御質疑をお願いします。

……別に御質疑がなければ御意見を伺ひたいと思ひます。……御意見がないやうでありますから議題第二を決議したいと思ひます。御異存はありませんか。

(發言者無し)

御異存がないやうでありますから議題第二は之で議決されたものと思ひます。

それぢや引續いて議題第三を御審議を願ひます

幹 事 長 議題第三、陸軍技術本部兵器研究方針改正の件。少し跪足で御座いますか幹事會に掛ります迄の經濟の概要を御報告申

上げます。最近兵器の發達の趨勢は著しいものが御座いました。特に
 軍備充實に伴ふ編制の改編、裝備の向上に伴ひまして兵器は單に其
 の數量を増したのみで御座いませす其の種類も著しく増加をしたの
 で御座います。今此等兵器の要度に就きまして大なる考慮を拂ふこ
 となく研究方針に掲記致しなす時は技術本部の兵器研究の重點を脱
 速するの虞れなしとしないのでありまして軍需審議會今、第一條の
 趣旨の徹底に努めるやうに關係各課の主務者が相寄りまして慎重研
 究の結果一案を得まして之を幹事會に附議したのであります。從ひ
 まして御手許に差上げてありきする所の研究方針の中には重要な
 兵器で御座います。また技術本部に於ける研究が此の研究方針
 に掲記する程度に到つて居らないもの、或は要度の比較的劣つてゐ
 るものは當然別途に研究さるべきものとして此の方針の中に掲記し

て御座いません。従ひまして此の研究方針に掲記せられてある所の兵器の制式制定に當りましては重要なもののみで御座いますから當然軍醫審議會に上提せらるるものと思ひます。次に幹事會の経過を申し上げます。幹事會に於きましては本件を慎重審議致しました結果若干の意見が御座いました。その主なるものは習志野學校の幹事より毒煙筒、防毒襪及化學兵器を此の研究方針に掲記するの必要を主張せられました。又參謀本部第三課幹事より照明器材中二〇〇種探照燈は未だ本案に掲記するの必要を認めないといふ意見が御座いました。關係幹事慎重審議の結果各々一致致しまして本成案を得た次第で御座います。本件に關しましては以上の経過を以ちまして出席幹事一同本件を承認致しまして委員會に上提するのを適當と認めためので御座います。尙幹事會に於きまして本冊項目中兵器の名稱を統一し、或は字句の修正といふやうなことを主務者にお委せをお願いしたのも御座います。それで出

來上つたものが議題第三で御座います。終り。

幹事 訂正事項を申し上げます。目次の第四、火薬爆薬の下

に化學兵器を加へます。本文の三十八頁の化學兵器を第五の十九頁の新爆薬の次に持つて行きます。終り。

會長 御質疑がありますか、……………議題細部の説明、質疑、

意見等は概ね次の順序に逐次區分して進行するやうに致したいと思ひます。

幹事 長 區分の概要を申し上げます。目次を御開けになつていただきます。其一、方針を假に(1)と致します。第一、銃器、第二、火砲、此の二つを合せまして一括して御研究を願ひます。之を(2)と致します。一々各稱はやめまして第三より第六、之を一括致しまして(3)と致します。第七、第八、之を一括して(4)と致します。第九、第十、

之を(六)と致します。第十一乃至第十四、之を(七)と致します。第十五乃至第十九、之を(八)と致します。第二十乃至第二十五、終り迄、之を(九)と致します。以下其の區分に依りまして御審議になる筈であります。終り。

會 長 それぢや先づ(四)の方針に就て。細部の説明。

幹 事 長 以下技術本部の關係の方に於きまして特に御説明をなさる必要な事項が御座いましたならば御説明を願ひます。

同部 少將 方針に就ては此處に書いてある通りで別に申上げることはありません。

會 長 (四)に就て御質疑があれば御質疑を願ひます。……別に御意見がなければ御質疑がなければ御意見を伺ひます。……(四)に進みます。(四)に就て何か更に細部の説明。

小須田少將 (四)の自動小銃でありますが、之には照準の機式は何

も奪いて御座いませぬ。之は普通の方式でありまして、眼鏡は附けないと云ふ計置であります。其の他御座いませぬ。

會 長 御質疑はありませぬか。………御質疑がなければ御

意見。………御意見がなければに進むことに致します。

小須田少將 仰に御座いませぬ。別に御座いませぬ。

會 長 御質疑はありませぬか。

長谷川大佐 彈丸の填薬方法等に就て、之は従来の手作薬のものを機械生産の作業に適する如くやれば宜いと云ふ趣旨であります。が然らば戦時動員等の關係に就て特に御考慮になつてゐることがありませうか。

岡部少將 現在之に就ては各方面集つて研究中であります。大

分審議は進んで居ります。それは彈薬の製作上に就て成るべく多量

生産が出来るさいふこと。それから補給上に於て成るべく手続きを
 簡便にし、特に動員時に際して軍隊が自らやること云ふやうなことを
 省き、迅速に補給が出来るのみならず火工の諷りに依つて危険を生
 じないと云ふ見地から如何に平時から彈藥を整備して置くかと云ふ
 問題並に之に關聯して製造、貯藏、補給、斯う云ふ方面の組織を如
 何にするべきや、斯う云ふことに就て目下籌議中であります。何れ成
 案が出来ましたならば當局に意見を出したいと考へて居ります。

長谷川大佐

さうする。之は動員時に當りまして色々火工作業等

に於て爲される所の壞藥が危険であり速度が延ばない。即ち現動員
 計畫に於ける七日なり十日なりの間に整備すること云ふことは困難で
 ありませうが之に従事する工務兵及特種の職工は矢張り現在の者を
 基礎として御考へになつて居るのでありませうか。或は新に之に道

する編制を御考へになつて居りますか。

岡部少將

さうであります。之に従事する人員を如何に教育、

補充するかと云ふやうなことに迄亙つて研究して居ります。

長谷川大佐

本研究の結果に依れば野戦補給廠所屬の彈藥あたり

はどれ位の日時迄に詰め得るといふ目途でありますか、例へば野戦補給廠所屬の彈藥は開戦時所要のものであります。それが命令受領後七日なり十日なりで完成彈にするか云ふことになつて居りますか、それが本研究の結果より五日に詰めるとか三日に詰めるとか云ふやうな具體的の目途は如何ですか。

岡部少將

今考へて居りますのは將來今考へてゐる組織、總て

の施設が出来上つたならば動員時直ちに完成した彈丸を軍隊に渡す。それから戦時、戦闘間、作戦間の補給、之は製造能力と関連致しま

すけれども、日にもは四日とか五日とか云ふやうなことは考へず成るべく最少限に日にもを詰めて、さうして軍隊の需要に應ずるやうにしたい。斯う云ふ風にやつて居りますので、具體的にそれが何日になるか云ふやうな所までは研究が進んで居りませぬ。大體目下の所はまだ之は結論ではないのでありますが、現在平時は彈丸に填藥してありませぬ。それを填藥をして貯藏する。成るべく裝藥、藥莖、之等のものを一揃ひにして或る所に貯藏して置く。従て動員時に於ては藥莖の中に裝藥を束ねて置いたものを直ちに入れてくつつければよいといふ程度にして置く。但し特種部隊の爲には平時から藥莖まで完全なる彈藥筒にして置くといふことも考へて居ります。此の組織に於ては今の所造兵廠に於て總て填藥もしてそれを兵器廠關係に渡して、兵器廠に於て之を貯藏し、兵器廠は造兵廠から貰つた所

の一編めの彈丸、裝藥、藥莖、信管、之等を一括して貯蔵して、いざといふ時には自らの手で之を完成して軍役に渡す、このことに依つて非常に正確に行けば危険がなくなり、又仕事が迅速に参りますのみならず砲兵射撃の見地から所謂口の問題が解決されますので、需要部隊は一揃ひの口を貰ふので射撃威力が大になる。それから戦地に於ける野戦補給廠、之等は全く信管を附けると云ふやうな問題は別個として、其の他の仕事はまあやらんでも宜しい。戦時は彈藥の配送補給、斯う云ら所に専念すればよろしい。さういふ風を組織にしたいと今考へて居ります。

長谷川大佐 判りました。

會 長 他に御質疑はありませぬか。

岸 少 將 代用地金、藥莖の御研究であります、私共最も憂

へて居りますのは鉛の代用であります。小銃の弾丸に使ふ鉛は日本内地は固より滿洲に於きましても殆んど國內には鉛は生産致しませぬ。何か小銃及野砲の榴霰彈の鉛に就て代用の研究をして戴きたい氣が致します。

長谷川 大佐

もう一つ伺ひたい。火薬、爆薬であります。之は新爆薬といふやうなものはどんなものを目標にされて居りますか。

内田 少將

唯今研究を火工廠で受持つて居りますが現在の黄色薬は火砲用黄色薬であります。壓縮したものであります。其の製造過程に困難があり威力も他のものより弱いといふ點があります。此の製造方式を變へて威力を大ならしむるといふことが一つであります。併し此の資源は依然として黄色薬の資源であります。所で黄色薬の資源を他の資源に變へやうといふ研究が有りました。

之に對して過鹽藥といふ爆藥が研究せられました。相當の威力を持つて居りますので大體黄色藥に代るべきものと見て居りますが、尙若干取扱ひの上に於て違ふ點がありますので其の點に就ての研究を進めて貰つて居ります。尙此の外一酸化炭素の成るべく少ないものと云ふことに就て研究を進めて貰つて居ります。先程申しました前段の方、黄色藥の研究並に過鹽藥の研究は大體八九分通り進めて貰つて居ります。

長谷川大佐

之は大體どんな原料でありますか。

内田少將

原料と云つても要するに黄色藥の原料は石炭酸であります。

長谷川大佐

新爆藥の原料はどんなものを目標として居られますか。

内田少將　それは石炭酸では御座いませぬ。過鹽素酸、アンモニウムといふもので御座いまして、石炭酸では御座いませぬ。資源としてはあるのであります。

河内少將　鑛山薬に使つて居ります。要するに資源は新爆薬の方はペンゾール系であります。今差當り出來かけて居りますのは安瓦薬であります。今お話のありました過鹽素酸も使つて居ります。

ペンゾールは資源がありませぬのでペンゾール以外の資源から取る。長谷川大佐　安瓦薬の原料は硝酸アムモニアであります。之が工業化して行くのには相當の困難がありませう。

河内少將　硝酸アムモニアといふやうなものは基礎資源としては無限にあるのであります。工業的に出來るかといふと十分でない點があります。併し資源としては無限に今有る譯であります。

長谷川大佐　新制彈薬はいつ頃を目途にして完成せらるる豫定で

ありますか。

内田少將 大體威力等に就ては試験を終つて居ります。取扱ひは多少残つて居りますが、本年度内には完成すると思ひます。過鹽薬は……………

長谷川大佐 一般爆薬の方は如何ですか。

内田少將 過鹽薬は本年度に終ります。其の外の火砲用は別に説明があります。

小須田少將 第一部の關係としては砲彈用の爆薬は變つたものはありません。從來のものを使つて、新しいものが出て來ればそれを併合して研究するといふだけで別に新しいものはありません。火工廠で何か新しいものがありますか。

河内少將 今持つ案は一つだけ決つて居りますが、混合の比

をもう少し變へてやりたいと思つて居ります。

長谷川大佐

意見になるか知りませぬが、およそ完成の目途がつ

ぎまして、斯う云ふ資源を培養することが必要であります例へばペ
ンゾール系のものが出来ても、それに合ふ如き資源はあるにしまし
ても、それが工業化されて吾々の手に入つて來なければ役に立たな
いと思ひます。さういふ政策方面の實現が非常に影響します故に、
出来たならば先づ技術上の問題を早く解決して戴きまして、戦用と
して十分の自信があるといふ結論が出ましたならば直ちに實現が出
來るといふやうな政策に導いて行かなければならぬと思ひます。さ
う云ふおよその目途をどうお考へになつてゐるかといふことを伺ひ
たいのであります。安瓦薬にしましても所購研安を轉じて硝酸系を
混ぜた所の新肥料政策に持つて行かなければ安瓦薬は澤山得られな

いんぢやないかと思ひます。

河内 少將　　今の安瓦薬の原料は硝安であります。それは實際は澤山はないのであります。之を工業的の製作といふ意味から行きますと硝安の中に硝酸を混ぜるといふやうな政策が採れたらよいと思ひます。平時若干二パーセント、三パーセントの硝安を混ぜて使はせるといふやうにして行けば硝安の需要が出る譯であります。今の所硝安の需要がない。硝安は今百五十萬觔、二百萬觔あるのでありますから、戦時になれば硝安を安瓦薬に使ふといふ爲には平時から使はせるやうにして置いたら宜いのぢやないかと思ひます。

岡部 少將　　代用品に關する問題が出ましたが、之に就ては目下技術本部に於て規格低下の問題、其の他代用品の問題、各々委員會を作つて研究して居ります。従て薬莖材料、鉛の材料、或は新し

い爆薬の材料といふやうなことに就ては現在我國の持つてゐる資源の見地から委員會を促進して成るべく早く成案を得たいと目下努力中でありませう。

會長　今の所の所に就て更に御質問なり御意見なりがありますか。

長谷川大佐　私は火薬爆薬ばかりでなく、又彈藥、彈丸といふやうなもののみ意見では御座いませぬが、之を綜合して見まするに茲にならべてありますから二十五迄の項目の中でも各々緩急があるだらうと思はれるのであります。それで特に現制の制式を改訂して、如何に技術的には立派なものが出来て居りましても補給の上にて困難があること云ふやうな問題に就きましてはどうか研究完成の期日をうんと繰上げて戴きたい。そして大丈夫之で以て勝たうといふ

一つの結論を得て戴きましたならば、其の次の工業資源なり産業なりの政策に持つて行くには又一二年掛るのでありまして、最後に技術の上からも補給の上からも大丈夫といふには相當の長い期間をかけるなければならぬと思ひます。それで特に重要であつて急ぐといふものをお拾ひになりましたして本年一ばいにやつてしまふといふ風に力癩を重點に向ひ入れて戴くことは非常に私等として希望致したいと思ひます。その一例として火薬原料の問題等を例示して特に私共の痛感して次第を述べた譯であります。

會

長

他に御意見がありますか。外に御意見がなければ(二)

即ち第七の戦車及自動車、第八の軽重車輛、乗鞍駄馬具並に職工具之に就て御質疑はありませぬか。……………別に御質疑がなければ御意見を伺ふことにします。

馬場 大佐

意見を申し上げます。此の戦車の關係で、今迄の各種の小さい戦車は對戦車能力が足りない、それで之を増大するといふ見地に基いて新輕装甲車とか或は牽引に困つてゐるやつを牽引とか自走にするといふやうなことが茲に御座いますが、單に對戦車能力を附けるといふのでなしに對戦車主要兵器を造るといふやうな見地から考へて新たななるものを造るか、若は此の内容を變へて行く必要はないかと思ひます。それは現在の對戦車兵器としては三十七耗砲があります。運動性がない。戰場に於ける非常な彈丸雨飛の中に於ける運動性がないといふことが缺點だらうと思ひます。戦車の使用が各國共に敵の意表外に出るといふことに使はれるといふやうなことにあります。戦車といふものは豫期した所には出ない。豫期しない所に出た場合には直ちに對戦車の主力を持つて行つて新たに其處

に配備するなり或は現在居る所の對戦車部隊に増加するといふことが必要だと思ひます。之には對戦車砲なるものが移動性を持つてゐなければならぬ。又牽引して居つては使用上困る。相手の戦車が自由自在に動いて来るといふことになれば此方も自由自在に移動しながら射つて行くことが必要と思ひますが、それが爲には新輕装甲車の改造といふことだけでは物足らぬ氣がします。それで新輕装甲車といふものは此の儘で行きまして此の外一層陸外運動性を増大し、對戦車火器を持つたものを以て獨立輕装甲車隊を編成して使ふといふやうに研究の重點を變へて行くことが必要ぢやないかと思ひます。

大塚 少將

其の點に就ては一枚開らかれますと小口径砲搭載戦車

といふのが……………

馬場 大佐

之も適當と思ひますが、唯之を拜見しただけではそ

れまで行つて居らないんぢやないかと思ひますので、さう申上げたのであります。小口径砲搭載車なるものが今申上げたやうな具合になれば結構と思ひます。さうするに之と新輕装甲車と合して多數生産するやうになれば結構と思ひます。

大塚 少將 之は運動間射撃も出來又戦車に對しては網えず車外に出て射撃も出來るやうになつて居りますから唯今の御趣旨に合して居るものぢやないかと思つて居ります。

馬場 大佐 唯小口径砲搭載車の戦闘能力といふことがはつきりしませんけれども、大體前方に行く場合は之で射てると思ひます。但し敵の戦車が動くといふ場合には車體全部を向けなければ其の方には射てないといふのでは戦闘上不便と思ひます。其の邊のことを考慮せられましたして大體に於て旋廻砲といふやうな具合の程度若は之

に準ずる程度に自由自在に動かせれば結構であります。それでなければさういふやうにすることが必要と思ひます。

小須田少將

自走式戦車支援砲といふものがありますか。……

馬場大佐

自走式戦車支援砲はさういふ風に使ふか先刻質問しませんでしたけれども、私は多分之は戦車の後方若は側方から行つて敵の對戦車火器を潰す、或は發煙筒で目潰しをするさういふ風な比較的口径の大きいものぢやないかと思つてさつき申上げたやうな意見を出したのであります。

大塚少將

自走式戦車支援砲は戦車隊と行動を共にするさういふ能力を持たす心算であります。今の御趣旨はさうなれば宜いのではないかと思ひます。

馬場大佐

自走式戦車支援砲といふものは三十七口径の砲で

は具合が悪いんぢやないかと思ひます。もう少し大きいものを持つて行かなければ戦車の機銃といふやうなことは不適當ぢやないかと思ひます。

幹 事 長

唯今の馬場委員からの御意見、新軽装甲車、之に對

戦車火器を積むべきや否や、要は對戦車火器として自走式、斯う云ふものが欲しいといふ御意見であらうと考へます。關係の方々から御意見も出しましたが、幹事會に於ける研究の結果としましては、小口徑砲搭載戦車、之を對戦車火器の移動性を持つたものの一つである。斯う云ふ風に解釋をしまして、之で概ね満足するのではないか。それで大體宜からう。斯う云ふ風になつてゐる次第であります。

馬場 大佐

まあ之で満足するかも知れませぬが、研究の結果を

待たなければなりません。之と新輕装甲車とずつと併行的に進め

て行つて。これ一種でよいといふことになれば一種にして、兵器の種類を少くして、多量を造つて、それを整備して戦闘して行くといふ風にしたらどうかと思ひます。騎兵を養ひましては小口径砲搭載車といふものは二十耗のものを造られることを希望します。又三七耗砲といふものは現二聯で鞅いて居りますけれどもまだ物足りない所がないでもない。それで牽引されるといふことは望む所でありませうけれども新輕裝甲車なるものに依つて之が代へ得るといふならばそれ方が經濟的に整備し得るんぢやないかと思ひます。

大塚 少將 此の新輕裝甲車は速度も要求されて居るししますので、之に對戦車砲を設けるとすれば車をもつて大きくしなければ出來ない状況にあります。さういふ關係で此の三七耗は對戦車砲として設つてないのであります。唯今の御趣旨に副ふ車を別に造る

さいふならば出来ませんが、之でやるさいふことは一寸困難な状況にあります。

馬場 大佐　それで軍さしては車を別に造つて、さうして對戦車の最も適當なるものにして。それを獨立輕裝甲車隊なり戦車隊に使つて行く。斯う云ふ風にしたら宜いのぢやないかと思ひます。現在の兵器さいふものを改造して行くさいふと。どうしてもさういふやうな目的に出来てないんですから何は改造しても思ふやうに行かないんぢやないか。それで時代がどんどん變つて行くんですから新たななるものを造つたらそれで適當のものを造つて行く。斯う云ふ風にしたらどうかと思ひます。

大塚 少將　結局意見の相異で御座いました小口径砲搭載戦車では間に合はない。或は之をやめても其方にした方がよいさいふことに

なれば出来ぬことはないのであります。御審議を願ひます。

馬場 大佐

騎兵のみの見地から申します。將來の編制に關係しますけれども小口徑砲搭載戦車が出来れば無論之も使つて宜しう御座います。が之の外に自走式の對戦車砲といふものを騎兵旅團に十二位持つてそれを主要なる方面に使用して行く斯う云ふ風にする必要がありはせぬかと思ひます。

武藤 大佐

お尋ねしますが新輕装甲車の三十七徑砲といふものは對戦車砲ではないのでありますか。

大塚 少將

對戦車砲とは違ひます。併し無輪戦車でも何でも射ちますが、威力は相當あります。對戦車砲とは違ひます。對戦車砲は浸徹能力の強い、非常に砲身の長いものになつて居ります。併し斯う云ふ長いものを戦車の中に裝備することは困難であります。

武藤大佐　さうすると其の三十七耗といふものは別にあるので
ありますか。

大塚少將　戦車砲といふのがあります。

武藤大佐　あゝさうですか。

馬場大佐　此の新軽装甲車を偵察に使ふといふ方面から考へ、

従來の経験から見ますと、現在迄偵察の爲に、偵察を強行しなければならぬといふ見地から装甲車が欲しい欲しいと言つてゐたのであります。その偵察は輕装甲車ででも重装甲車で同じであります。それは主に小銃彈に對しても偵察を強行するといふ意味でやつて居つたのであります。之から段々對戦車砲といふものが發達して参りました。小銃彈に對するよりも敵の對戦車砲、對装甲車砲が出て來るといふことになります。之を打潰すといふ威力を十分に發揮

するものを持たぬと思ひ切つて十分に近接して偵察をやることが出
 来ないのぢやないかと思ひます。それが從來とは變つて来るんぢや
 ないかと思ひます。それで是非三十七程級のものが要る。又之を持
 つて居れば突撃するんぢやありませんから突撃する爲の装甲板とい
 ふものは要らないんぢやないか、或程度の装甲を持つて居れば宜い
 のだから戦車より威力もあつて、経済的のものが出来るんぢやない
 かと思ひます。

大塚 少將 輕装甲車は十分と思ひます。何でも打ち據すといふ

意味には行きませんけれども、今の偵察に俾はれる場合、相當に裝
 甲したものでも新輕戦車で奏效し得るといふ心算であります。戦車
 砲は相當威力がありますが三十七程程度の浸透威力を持つてないこ
 ういふことであります。戦車に對しては、或は其の時はまあ速度が非

常に伸びて居りますから機動に依つて其の任務を遂行される事が出来るんぢやないかと、斯う思ひますが。……………

本多大佐 一寸質問します。輕装甲車或は牽引車といふものがさういふ風になつて來ると、從來歩兵學校で主張された彈藥補充の車といふものの影が薄くなつて來ると思ひますが、歩兵學校では……………

星野大佐 歩兵學校としましては從來輕装甲車の主任務は彈藥補充といふことになつて居りました、幹事會で更にそれについて質問しました結果は、別段に彈藥補充の爲には觀測推進車……………三〇頁の裏にあります。……………斯う云ふ種類のものを以て充てるやうに研究してゐるといふことでありますので、それで……………

本多大佐 併し此處の欄にはさういふことは一つも載つてない。

これを以て代用するといふやうなことは……。

星野 大佐　それが正式に決つて居らないものならば何かの機会にそれを正式に擧げて戴きたいと思つて居ります。

大塚 少將　技術本部の部案として装甲運搬車といふものを今の部案の外別途に研究するやうになつて居ります。

本多 大佐　さうなつて居りますか、彈藥補充の見地から行きまして非常に必要なものと思ひます。

星野 大佐　今のお話から行きますと輕装甲車といふものが彈藥補充といふことから離れて搜索或は連絡といふやうな所に主體が行つて進みつつあるやうでありますから、戦場の彈藥補充といふやうな見地からして是非又さういふ新しいものを考案して戴かなければならないと思ひます。

本多大佐　　私もさう思ひます。實際運用をやつてゐるのを見て

居りますと騎兵に附けたり前衛に附けたり、偵察をやり又陣地攻撃の際には鐵條網の破壊から細部の偵察に使ふ。僅か十七輛しかないやつを更に陣地攻撃の際には彈藥補充に使はうといふやうに二重三重に使つてゐる。だから殆んど偵察の爲に潰れてしまつて彈藥補充の時には一臺もないといふのが實際の景況と思ひます。彈藥補充の目的の爲に造られてゐるものがさういふ具合に使はれて居りまして彈藥補充の爲には一臺もない。

馬場大佐　　さういふことになりますと彈藥補充に造つたやつを

偵察などに用ひると云ふことは此處取らずになると思ひます。併しそれは現在の戰團の爲に必要なだからさういふ風になるのでありますから彈藥補充に造つたものはそれに止めて置いて、新たなる要求に

最も合する軽い戦車を造るといふことが必要になつて來やしないかと思ひます。

大塚少將 更に造らうとする装甲運搬車といふものは彈藥補充の目的には今迄のものよりもより適當なものが造られると思ひます。それならば御意見と一致してゐると思ひます。

幹事長 申上げます。新輕装甲車としては根本的に研究を要する時期になつて居りますので研究會が開かれる時期があらうと思ひます。細部はそれ等の時期にお譲りを願つて、大體それが決まる迄は此の形式を以て進んで戴いたらどうかと思ひます。次は彈藥の運搬の爲に別途の裝甲した車輛の必要といふことに就ては關係委員から御答辯が御座いましたが此の研究方針には記載して御座いませぬが別途に研究を進められ其の結果に依つて或は此の研究方針に摺

記されるか或は漏記されずに制式になるか何れにしても改めて御協
議をお願ひする時期があらうかと考へて居ります。

會

長

他に御意見がなければ次に進みます。次は(外)の部、

即ち第九の近接戦闘器材、第十の化學戦闘器材の兩項に就て……
御質疑はありませぬか。

内田 少將

近接戦闘器材の三番目に破壊筒挿入器といふのがあ
ります。書いてあるだけではお判りにくいと思ひますが、斯う云ふ
もので御座います。ロケットを使つて網を鐵條網の向ふまで投げて
やつて、其の網に依つて破壊筒を繰出し鐵條網の中に繰入れる。さ
うして爆破する。斯う云ふものでありまして略々之も 完成に近附
いて居ります。一言御説明申上げて置きます。

會

長

御質疑もないやうであります。御意見はありませぬ

ぬか、……御意見も別にないやうでありますから次の(ハ)の項目、
 即ち第十一の坑道器材、第十二の浸破器材、第十三の渡河器材、第
 十四の特殊交通器材、之に就て細部の御説明がありますれば御説明
 を願ひます。

内田 少将 此の中の特殊交通器材に就て一言申し上げます。従来
 の器材の區分には新う云ふ名前はなかつたのでありますが、色々森
 林とか透地とか断崖といふやうな問題が起りましたので特に新う云
 ふ項目を掲げて貰ふやうにしたのであります。さういふ特殊の地點
 の交通の器材といふことであります。

會 長 之に就て御質疑なり御意見なりはありませぬか。

伴 大佐 昨今の特殊交通器材の透地橋であります。脱着せる十
 五種榴彈砲以下の車輛及馬匹の通過に堪ふるものとす。之はそれ以

下の輻砲でも脱駕するといふ意味で御座いますか。

内田 少將 十五種榴弾砲だけであります。

伴 大佐 その外は……。

内田 少將 その外は脱駕致しませぬ。

伴 大佐 一寸此處がはつきり致しませんです。

幹 事 長 實は之は文章がくどくなりますから大體斯う書いて

置けば判るだらうといふので斯う書いたのであります。之は十五種榴弾砲だけでありまして其の外は脱駕致しませぬ。今お答への通りであります。

會 長 別段御意見はありませぬか、……御意見がなければ

ば(の)の部分、即ち第十五の通信器材、第十六、鐵道器材、第十七、機力器材、第十八、氣球器材、第十九、土工器材、之を一括して制

審議を願ひます。何か細部の御説明はありませぬか。

内田 少將 此の中で通信器材で五十六頁に植柱車、延線車といふものが御座いますが、之は有線電信を迅速に敷設する爲作業を機械化する目的で研究を始められたものでありまして、先づ植柱車が今まで地盤を使つてごもごも打込んだものを機械的に穴を造つて柱を樹てる。その後方に延線車が進んで行つて線を延べるといふものであります。之ももう出来上つて居りまして、現在電信隊に委託試験を願つて居りますが、此の機械には尙此の外にも之に伴ふ色々な機械が必要であります。主要なものは此の二つであります。その外に申上げることはありません。

會 長 御質疑はありませぬか………御質疑もないやうでありますから御意見はありませぬか。

内田少將　もう一つ附加へて置きます。多重電話機。多重電信

機の要項の中に二重通信と書いてあります。之は最初は三重通信の
目的で研究しましたが、運用の方面から二重で宜しいといふこと
でありましたので二重に改めたのであります。

會　長　御意見がなければ更に次に進みたいと思ひます。最

後の例の部。照明器材以下第二十五の測候に至る間に就て。細部の
説明があれば願ひます。

大塚少將　第二の寫眞器材の中で望遠寫眞といふのがあります。

之は焦點距離五米以上數十センチといふのがありますが、之は概略五十
センチ以上の距離に互るものを撮影する。例へば國境の望遠寫眞といふ
ものが出来るやうにしたいと思ひます。又自動車の上から場合に依
つては卸下しても寫眞が撮せるといふ考へでやつて居ります。終り。

會

長

今の所に於て御質疑はありませぬか。……御質疑もないやうでありますから御意見はありませぬか。

伴

大佐

質疑と意見を一寸兼ねますが、此の最後の項で海岸に於ける對潜水艦用の兵器で御座います。之は何か御研究のものがあつて御座いますか。

犬塚

少將

それは水中聽音機といふのがありまして、潜水艦の位置方向を測定するのを研究して居りますか。

伴

大佐

それでは御座いませんで、それを射つ方でありまして、所謂爆雷砲といふやうな方面で御座います。

小須田

少將

前からの研究を御承知と思ひますが、水中の潜水艦は火薬で以て射つことは不可能である。斯う云ふ風に私共考へて居ります。従て潜水艦を水上に浮び上らぬやうに射つといふことは

可能でありませんが、潜水艦を別つといふことは如何と思つて居ります。従て海軍でやつてゐるやうな極く近距離の爆雷式といふやうなものを研究して居ります。

伴 大佐 私の申しますのも爆雷式のものであります。

會 長 他に御質疑なり御意見はありませぬか。……………

此の項に就ての御質疑が別になければ更に改めて研究方針改正案を一括して御意見を伺ひます。先刻長谷川委員から全般に關する御意見もありましたが、更に全般に就て御意見を……………

後宮 少將 私に此の兵器資料と云ふものが各々一つの目的に適するやうに研究されて行くといふことは其の目的を達する見地から致しますれば至極結構と存じますけれども、最後に兵器を使用するものは兵であるといふことに思ひを致した時には或程度不承不承の

點があつても我慢して戴かなければならぬといふ點に考へて居ります。今此の研究方針を拜見致しましたも、一二の例證を引きますと例へば八頁の大隊砲、聯隊砲といふやうなものを一寸拜見致しましたも、又二十六頁の中戦車、指揮戦車といふやうなものを拜見致しましたも、お互ひに彼此融通が出来るといふ點が多分にあるんぢやないかと思ひます。其の外四十七耗對戦車砲、五十七耗對戦車砲を見ましたもさういふ感じが特に致します。現在國軍の將校の資質から申しましても國軍將校の動員補充が多種多様であり、その能力は必ずしも立派なものが居るといふことは云へないやうな現況にあります。兵器は永久性のものでありますから、斯の如きものを多く顧慮する必要はないといふ反對論も出るかと思ひますけれども、國軍の將校の補充がさう早く行かない現況にある、斯う云ふ點に十分に思

ひを致されまして、此の兵器の研究方針が使用する方面、教へる幹部の方面にも十分思ひを致して戴きたいといふ希望を持つて居ります。又一方金の方面から考へて見ました所で、それは各方面の兵器を總て完全にやるといふことは好いことに違ひありませんけれども國費に限りがありますからどうしても吾々は重點主義で進まなければならぬ、今日航空方面に飛躍的發展を致してゐる時に無用の方面は節約して其の方面に全力を注いで行くといふことも吾々の大いに考へなければならぬ所であらうと存じます。御参考迄に申し上げます。

岡部 少將　それに就て今申されました御意見は全然當部に於ても同感であります。唯問題は使用される方面から、運用の立場から色々の御註文があります。それを如何に治めて行くかといふこと、それが一つの問題でありまして、それさへ片附けば當部の研究は益

然左様な方針で行きます。従て之は全面的に今の御趣意で、使用される方面も。運用される方面も、御考へになつてさうして當部に任務を與へて戴いたる宜いと思ひます。

後宮 少將

さうすると事前にさういふことを研究する譯には行

きませぬか。

岡部 少將

今後はさういふやうにしたいと思つて居ります。

長谷川 大佐

之は全綴を廻じまして色々大事な研究要目が網羅さ

れてあると私共は感ずるのでありますがおよそ大切な事は之等を完成する目途であります。或は何年頃を期して之等の完成に進まれますか、或は年月といふ尺度でなくても何かの據り所のある一つの劃期的の研究終了の目途といふものを御持もになつてゐるのでありますやうか。その邊は如何でありますやうか。

幹・事・長

お答へ致します。唯今後官閣下、長谷川大佐の兩委員より御質疑。御意見がありました。一括して申し上げます。従來は技術本部に各方面から直接のお話等もあつたかに思ひますので、將來は作戰部は勿論其の外の各方面の御意を陸軍省に於て一括致しまして、さうして關係方面と協議を致しました後技術本部に要求すべきことは要求するやうに致したいと考へて居ります。次に兵器の種類が殖へましたことは各々が皆希望のものを十分に造るといふ事は大変結構なことであります。唯今後官閣下の御意見にもありません。或程度融通し得るものは彼此融通して經濟的に整備するといふことも必要であります。又他面に於て、此處に於て一例を取つて申し上げますれば對戰車兵器、或は對空兵器といふやうな兵器も如何なる組織の組合せにしたならば一番經濟的に行かかといふことに

就ても關係當局に於て目下慎重御研究中のことと思ひます。その成案を得るに從て或は此處に掲記したものの一部が改變されることもあるうかと思ひますが、さういふ方針をさつてその整備に重點を向けるさういふことに致したいと考へて居ります。次は整備の緩急であります。之も從來議論されたことであります。唯々之を具體的に研究方針に掲げるさういふことは將來の爲に束縛される點が起つて來やしないかさういふことの爲に大體次のやうに思つて居ります。大綱を決めて大體さういふ事項は何時頃迄に研究を完成するやうにしたら宜からうか。それを具體化する爲に「一九二一年度」或は何年度迄にはどの程度迄に進まなければならぬかさういふことに於ては關係主務者が協議して一案を作製し、更に局部さういふやうな所迄の御意見を承り、大綱が纏り年度が定まりましたならば之を技術本部に示し、

するさいふことにならざうか。従て本冊には年歴の細かいことも、大綱も掲記して御座いませぬ。以上のやうな考へで進みたいといふ考へで御座います。終り。

會 長 他に御意見はありませぬか。

武藤 大佐 大體今のお話で判つたやうであります。先程から御意見もありましたからその考へから申述べたいと思ひます。此の研究の順序を附けるさいふ御意見が先程からあつたやうであります。現在實施せられつつあります軍備充實案に伴ひます兵器は成るべく早くやるべきものだ。その重點はさることでありすが兵器の進歩があるのでありますから整備すべきや否やといふことは別途に新しいものを研究することも必要だ。斯う思ひます。だから研究と整備を分けて考へられて。單に整備するんだから研究する。然らざるも

のはやめるといふことになりまますご如何かご、斯う思ひます。それだけであります。

岡部 少將

それに就て一寸お答へ致します。今申されたことは全くその通りであります。營部に於ては茲に示された研究方針以外に於て常に創意工夫を凝す。これ以外に於ても人と時間の許す限り準備研究を怠つては居りませぬ。その外研究方針に載らない、然も準備研究を進めて物にすれば國軍の爲に宜しいといふ目度がついたならば之は早速當局に申出でて本式に研究に着手するやうにしたい。従て之に載つて居らないからと云つて其の他のものに就て研究を進めないといふ御心配は要りませぬ。

武藤 大佐

決してそれを心配してゐるのではありませぬ。先程からのお話でそれが不要化されやしないかといふことを心配したの

で……………。

岡部少將　それは當然の任務であり之に依つて掣肘されやうとは思つて居りませぬ。

會　長　他に御意見はありませぬか。……………御意見がなければ議題第三を一括して決議したいと思ひます。……………御異存がないやうでありますから之で本議題、及他の議題全部第一、第二、第三議題共可決致したことに致しまして決議をしたいと思ひます。之で本日は閉會致します。御多用中遠方を懸々御苦勞を煩はしまして洵に恐縮であります。之で終ります。

幹　事　長　唯今御質疑、御意見等に基きまして研究方針に掲げました字句等で不明瞭なもの或は冗長な點も一二御座いました。之等のものは趣旨を變更しないで修文するやう主任者に御委せをお願

ひしたいと思ひますが、御異存がありましたならば言ふて敷きます。

(發言者無し)

御異存のないものと拜承致しまして字句轉釋旨を變へないで一層明確ならしむるやう修文を御委せを願ひたいと思ひます。

(終り)

閱

戰備

軍需

機械

銃砲

陸軍省
12.5.21

陸軍省
12.5.21

陸軍省
12.5.21

陸軍省
12.5.21

軍審發第一七號

陸軍軍需審議會ニ於テ審議ノ件覆申

昭和十二年五月二十日

陸軍軍需審議會長

梅津美治

陸軍大臣 杉山 元 殿

左記ノ件別冊ノ通審議決定セシニ付覆申ス

左記

- 一 九四式六輪自動貨車制式制定ノ件
- 二 九五式野砲制式制定ノ件
- 三 陸軍技術本部兵器研究方針改訂ノ件

717

陸軍省
12.5.20
軍事課

陸軍省
12.5.21
187
軍事課

陸軍省
12.5.24
陸軍省
整備課

陸軍省
12.5.21
第54號
整備課

陸軍省
12.5.21

陸軍省
12.5.24
整備課

陸軍省
12.5.2
第70號
機械課

陸軍軍需審議會
會長之印